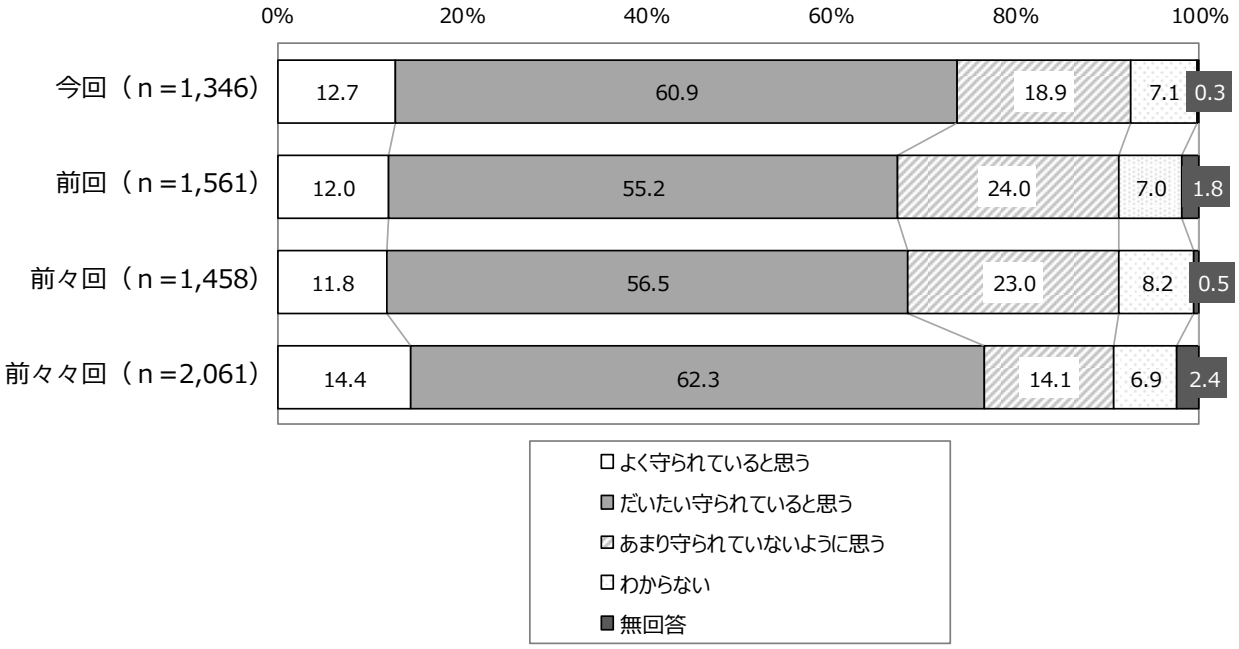
Ⅱ　調査の結果

第１章　人権全般について

１－１　基本的人権について

問１　わが国の憲法では、基本的人権(人間が生まれながらにして持っている権利)を守るため、いろいろなことを定めています。個人の尊重、幸福追求の権利、教育を受ける権利、勤労の権利などです。あなたは日本の現実をみて、基本的人権が守られていると思いますか。(○は１つだけ)

図１－１　基本的人権について



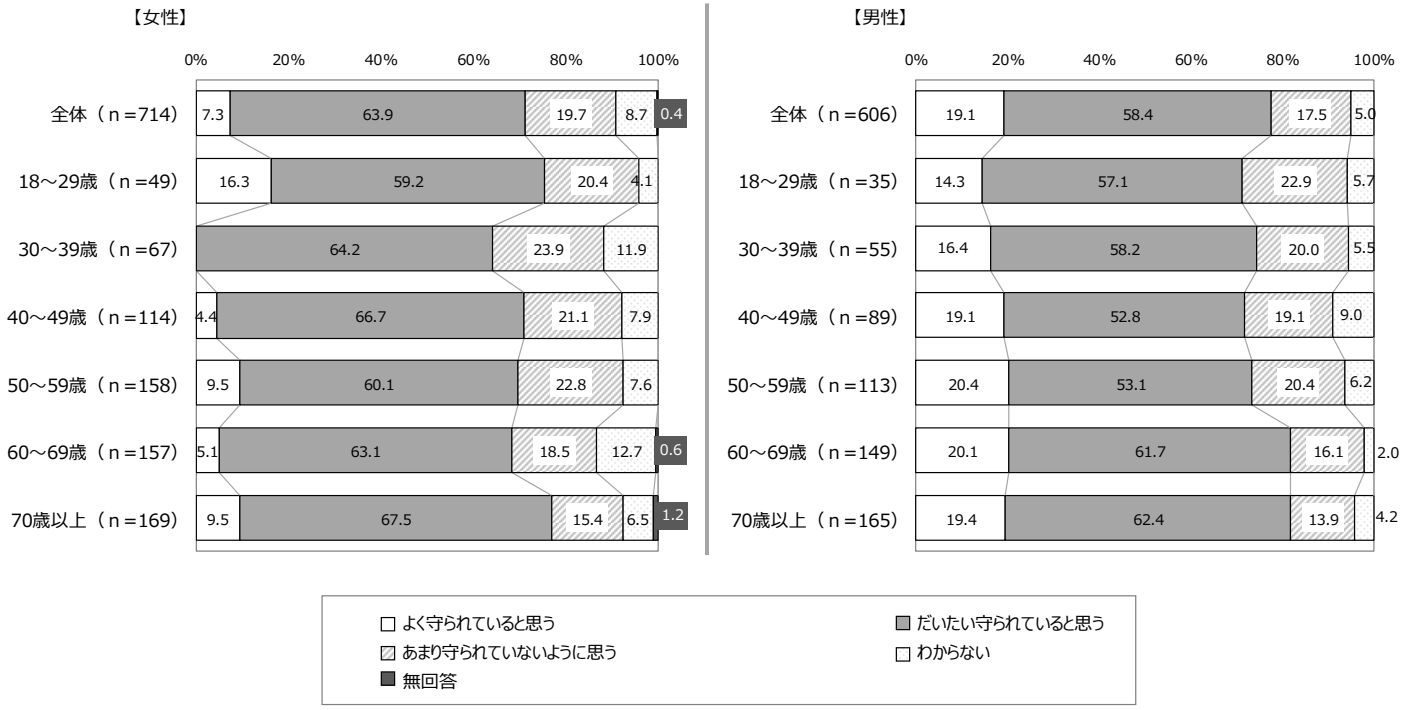
基本的人権について、「だいたい守られていると思う」が 60.9%で最も高く、「よく守られていると思う」の 12.7%を合わせた“守られていると思う”は 73.6%となり、前回の同項目の 67.2%から 6.4 ポイント高くなった。一方、前回から今回にかけては「あまり守られていないように思う」の割合が 5.1 ポイント低くなるといった意識の変化がみられた（図１－１）。

性別でみると、“守られていると思う”は女性で 71.2%、男性で 77.5%と男性の方が割合が高い。また、「あまり守られていないように思う」は女性が 19.7%、男性が 17.5%となっており、女性の方が割合が高い。

性・年代別でみると、女性の 18~59 歳では、「あまり守られていないように思う」の割合が高く 20%超となっており、特に 30~39 歳は 23.9%を占めている。

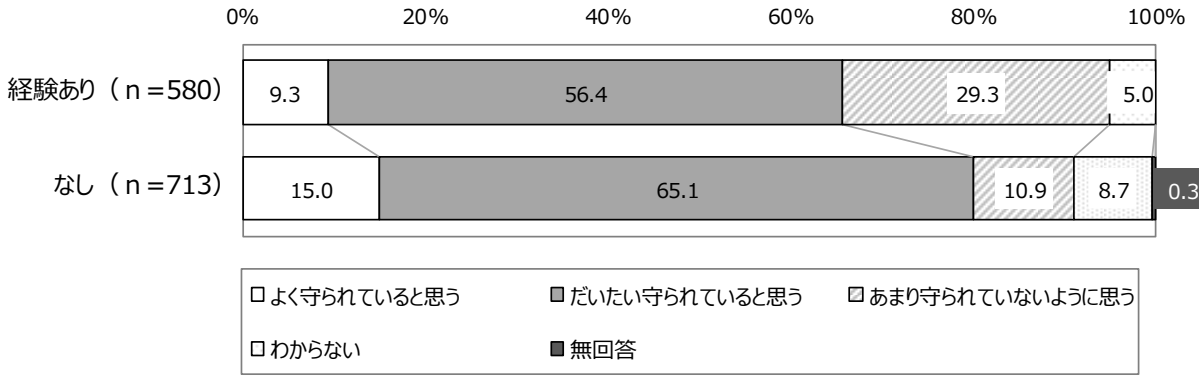
一方、男性においては「よく守られていると思う」は 50~59 歳までで年代が上がるごとに高くなる傾向がみられる(図１－２)。

図１－２　基本的人権について（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、“守られていると思う”は被差別経験がある人で 65.7%、被差別経験がない人では 80.1%と 14.4 ポイントの差がある。また、「あまり守られていないように思う」では、被差別経験がある人で 29.3%、被差別経験がない人で 10.9%と 18.4 ポイントの差が生じている(図１－３)。

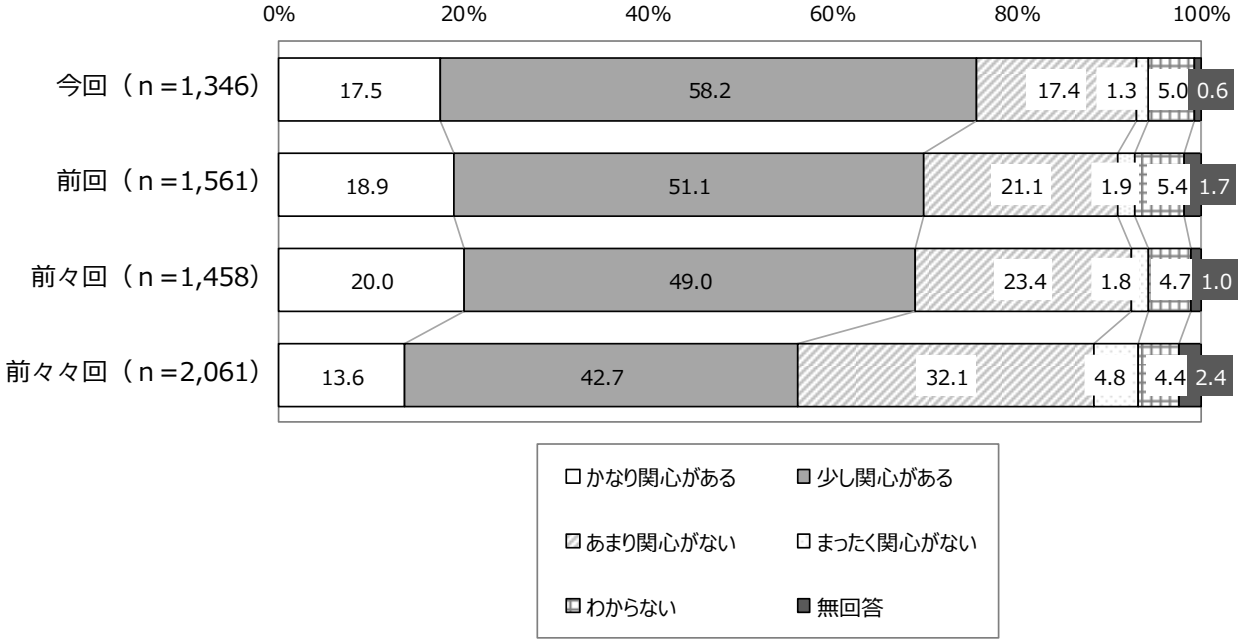
図１－３　基本的人権について（被差別経験の有無別）



１－２　人権や差別問題への関心

問２　人間はみんな幸せに生きていく願い、権利をもっています。この人権が不当に傷つけられることを差別といいます。あなたは、今、人権や差別問題に関心をもっていますか。
(○は１つだけ)

図１－４　人権や差別問題への関心

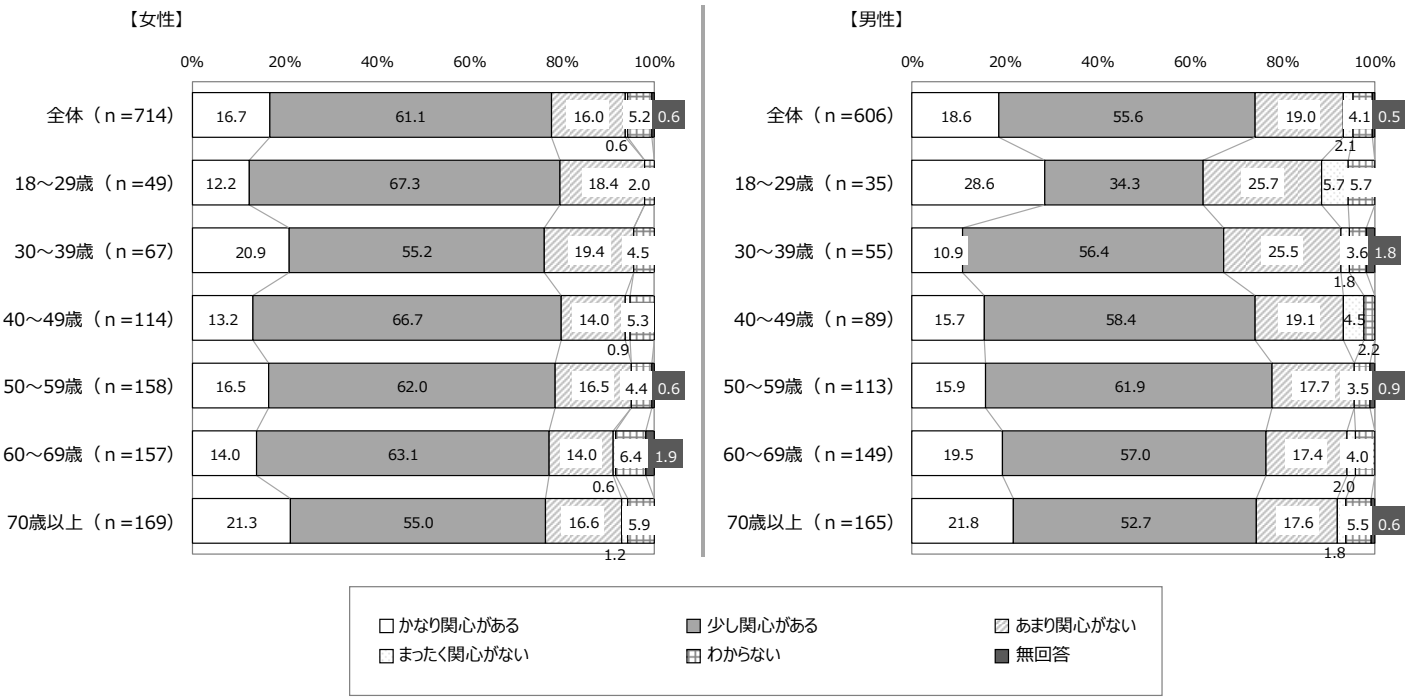


人権や差別問題に対する関心について、「少し関心がある」が 58.2%で最も高く、「かなり関心がある」の 17.5%を合わせた、“関心がある”は 75.7%となり、前回の同項目の結果(70.0%)から 5.7 ポイント高くなった。前々回から前回にかけては関心の度合いの変化があまりみられなかったが、今回の調査においては、全体的に意識の変化がみられた(図１－４)。

性別でみると、“関心がある”は女性で 77.8%、男性で 74.2%となり、女性が 3.6 ポイント高い。

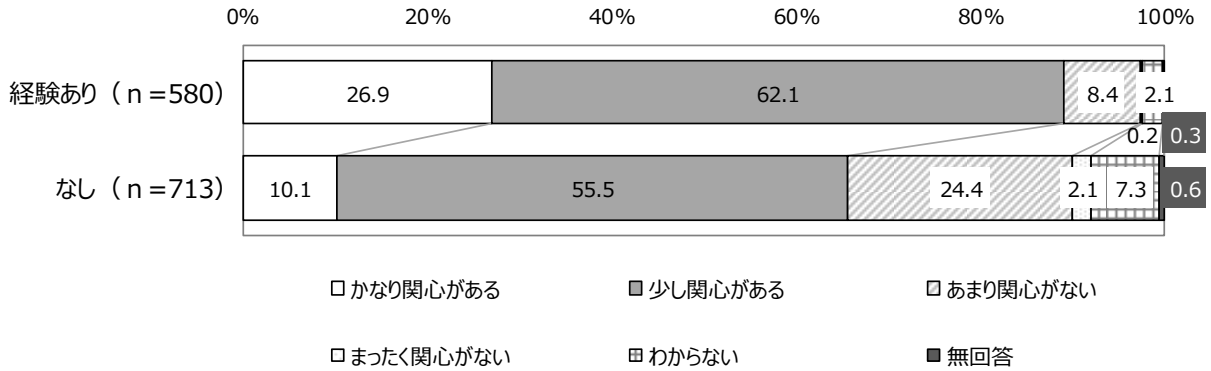
性・年代別でみると、女性においては 30～39 歳、70 歳以上において「少し関心がある」の割合が 5 割半ばと他の年代よりも低くなっている。一方、男性においては「かなり関心がある」の割合が 18～29 歳、70 歳以上で高く2 割を超えている(図 1 － 5)。

図 1 － 5　人権や差別問題への関心（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、“関心がある”は被差別経験がある人で 89.0%、被差別経験がない人で 65.6%と 23.4 ポイントの差が生じている(図 1 － 6)。

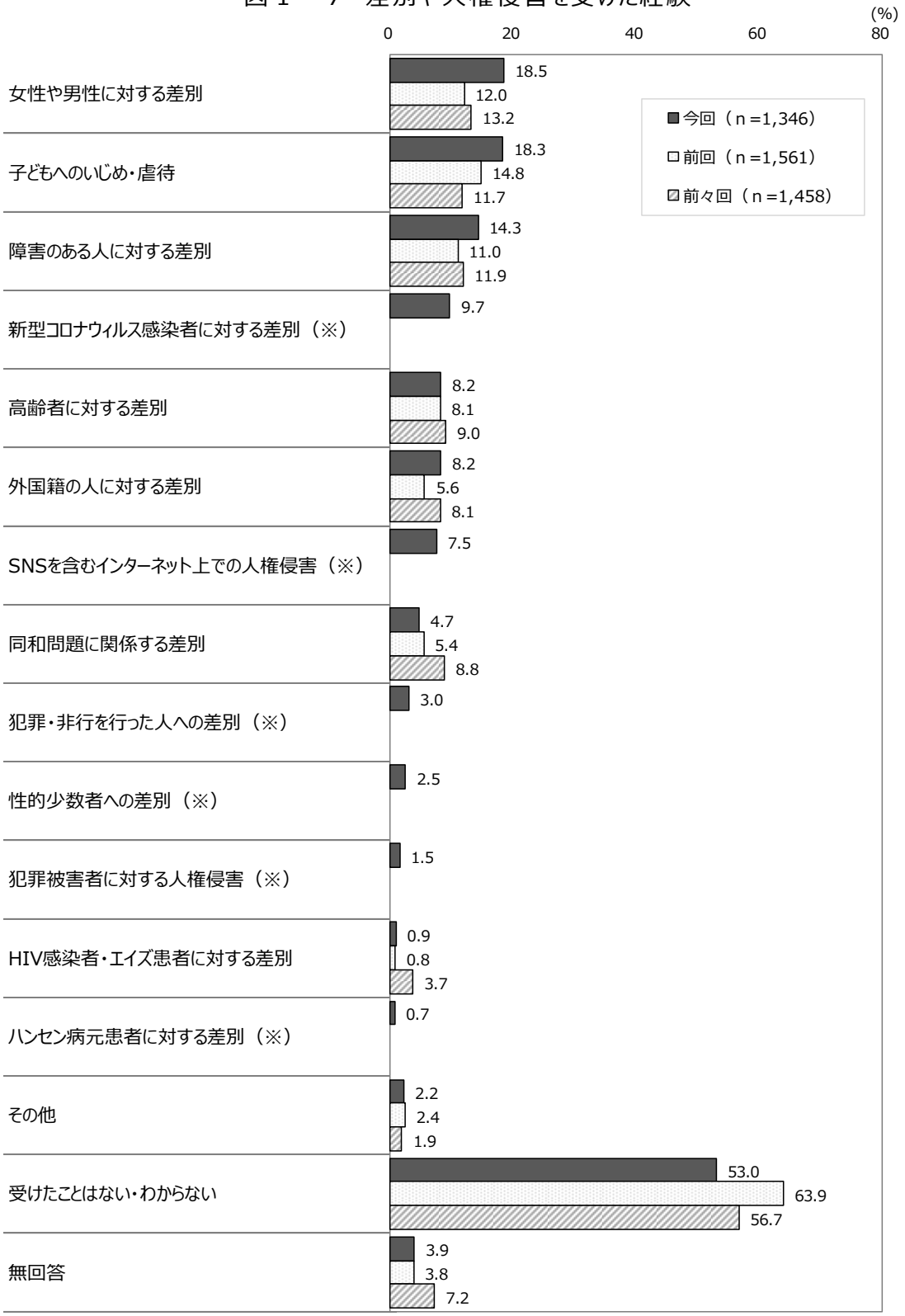
図 1 － 6　人権や差別問題への関心（被差別経験の有無別）



１－３　差別や人権侵害を受けた経験

問３　あなたやあなたのまわりの人が、次のような差別や人権侵害を受けたことがありますか。
(○はあてはまるものすべて)

図１－７　差別や人権侵害を受けた経験



※「新型コロナウイルス感染者に対する差別」、「SNS を含むインターネット上での人権侵害」、「犯罪・非行を行った人への差別」、「性的少数者への差別」、「犯罪被害者に対する人権侵害」、「ハンセン病元患者に対する差別」は今回より追加。

調査対象者本人、あるいは周囲の人が差別や人権侵害を受けた経験について、全体の43.1%が何らかの差別や人権侵害を受けたことがあると回答している。内容では、「女性や男性に対する差別」が 18.5%で最も高く、前回よりも 6.5 ポイント高い。次いで、「子どもへのいじめ・虐待」(18.3%)、「障害のある人に対する差別」(14.3%)とそれぞれ 10%超の回答が続いている。

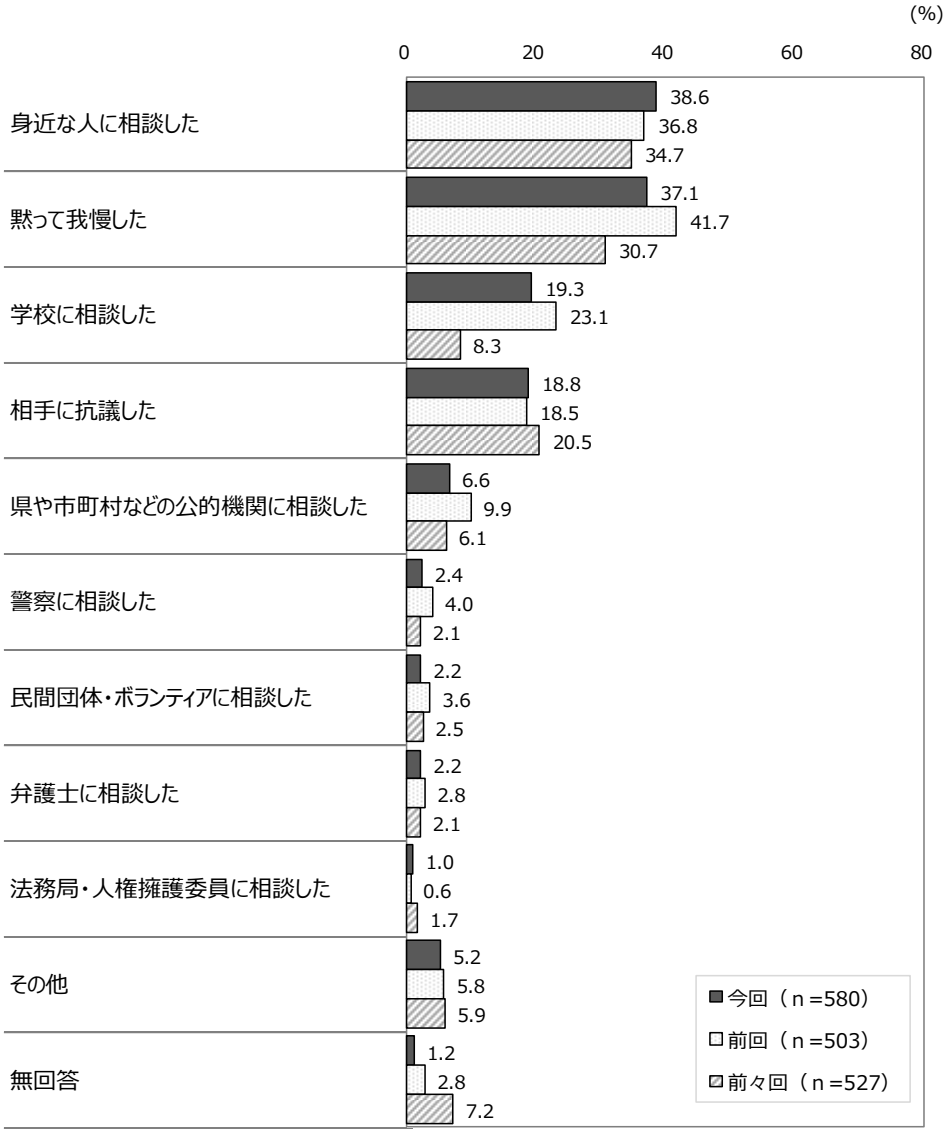
また、「受けたことはない・わからない」は 53.0%と半数以上を占めているが、前回の63.9%から 10.9 ポイント低くなっている。なお、「同和問題に関係する差別」を除いては、どの差別・人権侵害の項目も前回より割合が高くなっている(図１－７)。

１－４　身近な人権侵害への対応

【問３で、１～14 に１つでも○をつけた方に】

問３－１　あなたやあなたのまわりの人は、その人権侵害に対し、どのように対応しましたか。
(○はあてはまるものすべて)

図１－８　身近な人権侵害への対応

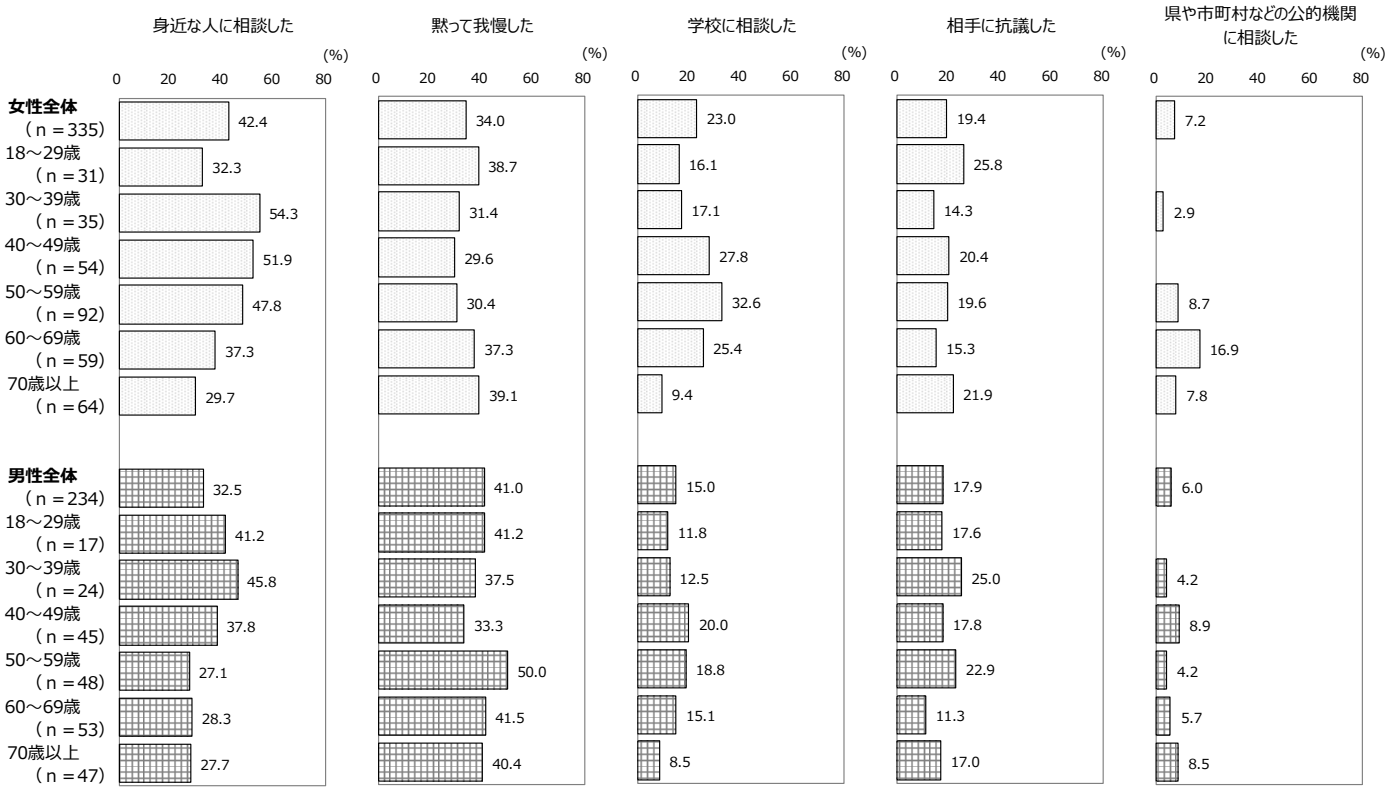


問３において、本人、あるいは周囲の人が何らかの差別や人権侵害を受けたことがあるという人(全体の43.1%)に、その時の対応を聞いたところ、「身近な人に相談した」が38.6%で最も高くなっている。ほかに何らかの対応をとった人の中では、「学校に相談した」が 19.3%、「相手に抗議した」が 18.8%となっている。なお「黙って我慢した」の回答は 37.1%と前回より4.6 ポイント低くなっている(図１－８)。

性別でみると、女性では「身近な人に相談した」（42.4%）、男性では「黙って我慢した」（41.0%）が最も高く、それぞれ 40%を超えている。

性・年代別でみると、男性の 50~59 歳において「黙って我慢した」の割合が 50%と高くなっている。また、女性の 30~39 歳と 40~49 歳において「身近な人に相談した」の割合が 50%を超えて高くなっている(図１－９)。

図１－９　身近な人権侵害への対応（性別、性・年代別）［上位５項目］



受けた差別・人権侵害別でみると、概ねどの人権侵害の内容においても、「身近な人に相談した」あるいは「黙って我慢した」のいずれかで対応していることがうかがえる。しかし、「子どもへのいじめ・虐待」のケースでは、「学校に相談した」が 40.2%と高くなっている。また、「犯罪被害者に対する人権侵害」のケースでは、「相手に抗議した」が 35.0%と高くなっている(表１)。

表１　身近な人権侵害への対応（受けた差別・人権侵害別）

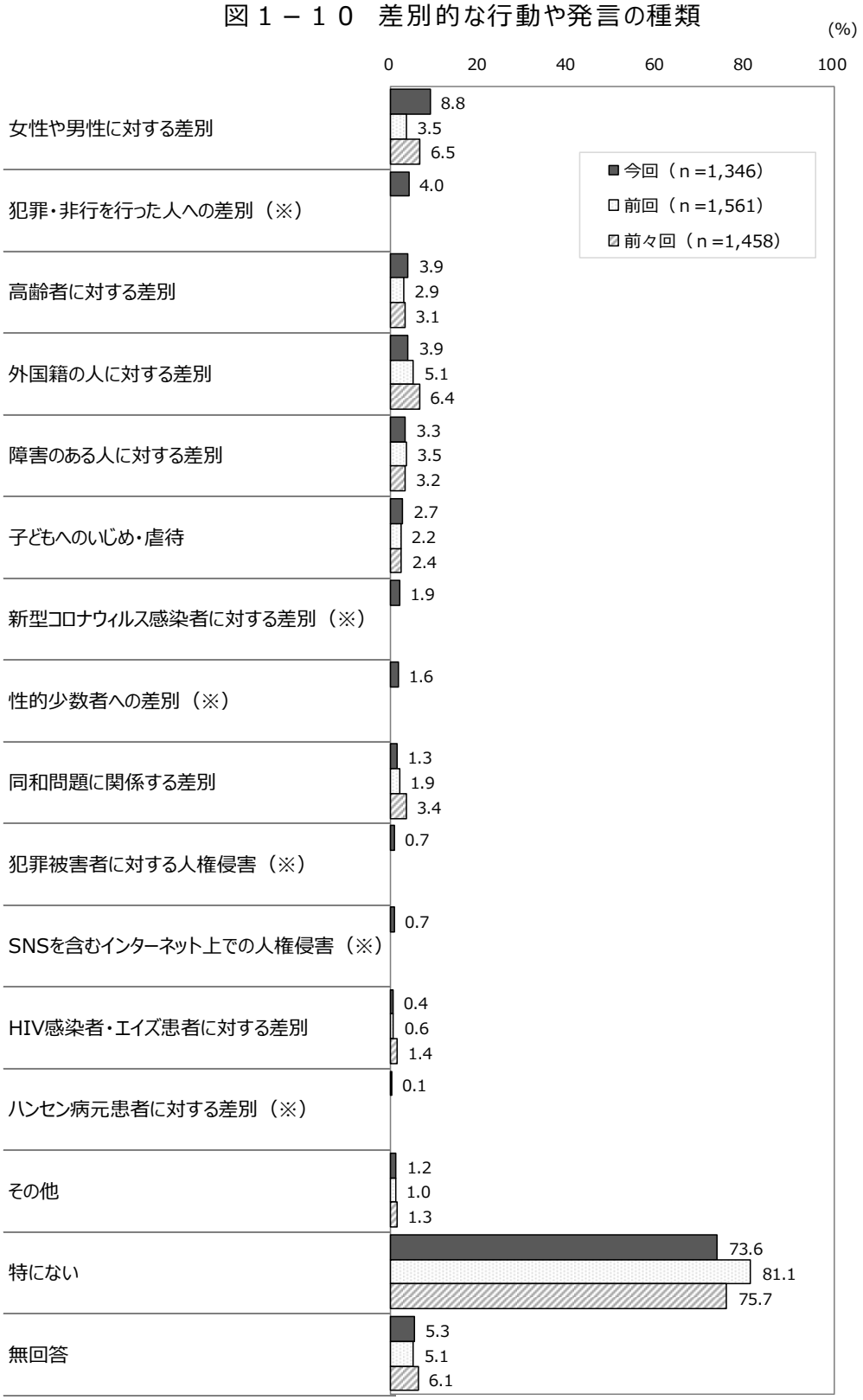
上段：件数 下段：%		n数	問３-１　身近な人権侵害への対応										
			相手に抗議した	身近な人に相談した	警察に相談した	県や市町村などの公的機関に相談した	民間団体・ボランティアに相談した	学校に相談した	弁護士に相談した	法務局・人権擁護委員に相談した	黙って我慢した	その他	無回答
問３　差別や人権侵害を受けた経験	女性や男性に対する差別	249	56	103	9	11	6	35	7	3	105	9	1
		100.0	22.5	41.4	3.6	4.4	2.4	14.1	2.8	1.2	42.2	3.6	0.4
	子どもへのいじめ・虐待	246	61	129	9	23	9	99	10	3	47	9	2
		100.0	24.8	52.4	3.7	9.3	3.7	40.2	4.1	1.2	19.1	3.7	0.8
	高齢者に対する差別	111	27	47	7	9	4	15	6	1	43	6	-
		100.0	24.3	42.3	6.3	8.1	3.6	13.5	5.4	0.9	38.7	5.4	-
	障害のある人に対する差別	192	49	85	11	20	8	29	10	4	61	9	2
		100.0	25.5	44.3	5.7	10.4	4.2	15.1	5.2	2.1	31.8	4.7	1.0
	同和問題に関係する差別	63	12	19	2	3	3	8	4	1	28	4	3
		100.0	19.0	30.2	3.2	4.8	4.8	12.7	6.3	1.6	44.4	6.3	4.8
	外国籍の人に対する差別	111	26	51	6	11	4	16	4	1	38	9	-
		100.0	23.4	45.9	5.4	9.9	3.6	14.4	3.6	0.9	34.2	8.1	-
	HIV感染者・エイズ患者に対する差別	12	2	5	1	1	-	2	1	1	6	-	-
		100.0	16.7	41.7	8.3	8.3	-	16.7	8.3	8.3	50.0	-	-
	ハンセン病元患者に対する差別	9	1	2	1	1	-	-	1	1	6	-	-
		100.0	11.1	22.2	11.1	11.1	-	-	11.1	11.1	66.7	-	-
	新型コロナウィルス感染者に対する差別	131	23	54	8	6	3	20	5	3	56	4	1
		100.0	17.6	41.2	6.1	4.6	2.3	15.3	3.8	2.3	42.7	3.1	0.8
	犯罪被害者に対する人権侵害	20	7	10	2	2	-	3	2	1	6	1	-
		100.0	35.0	50.0	10.0	10.0	-	15.0	10.0	5.0	30.0	5.0	-
	SNSを含むインターネット上での人権侵害	101	31	50	5	8	4	21	3	3	33	4	1
		100.0	30.7	49.5	5.0	7.9	4.0	20.8	3.0	3.0	32.7	4.0	1.0
	性的少数者への差別	33	9	11	2	4	2	7	2	1	14	-	-
		100.0	27.3	33.3	6.1	12.1	6.1	21.2	6.1	3.0	42.4	-	-
	犯罪・非行を行った人への差別	40	9	16	2	3	2	7	2	2	17	1	-
		100.0	22.5	40.0	5.0	7.5	5.0	17.5	5.0	5.0	42.5	2.5	-
	その他	30	4	12	-	-	1	4	-	-	9	8	-
		100.0	13.3	40.0	-	-	3.3	13.3	-	-	30.0	26.7	-
	受けたことはない、わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※上位２項目を色塗り

１－５　差別的な行動や発言の種類

問４　あなたは、これまでに、次のような差別的な行動や発言をしてしまったことがありますか。
(○はあてはまるものすべて)

図１－１０　差別的な行動や発言の種類



※「犯罪・非行を行った人への差別」、「新型コロナウイルス感染者に対する差別」、「性的少数者への差別」、「犯罪被害者に対する人権侵害」、「SNS を含むインターネット上での人権侵害」、「ハンセン病元患者に対する差別」は今回より追加。

これまでにしてしまった差別的な行動や発言について、全体の 21.1%が何らかの差別的な言動や発言の経験が“ある”と回答している。

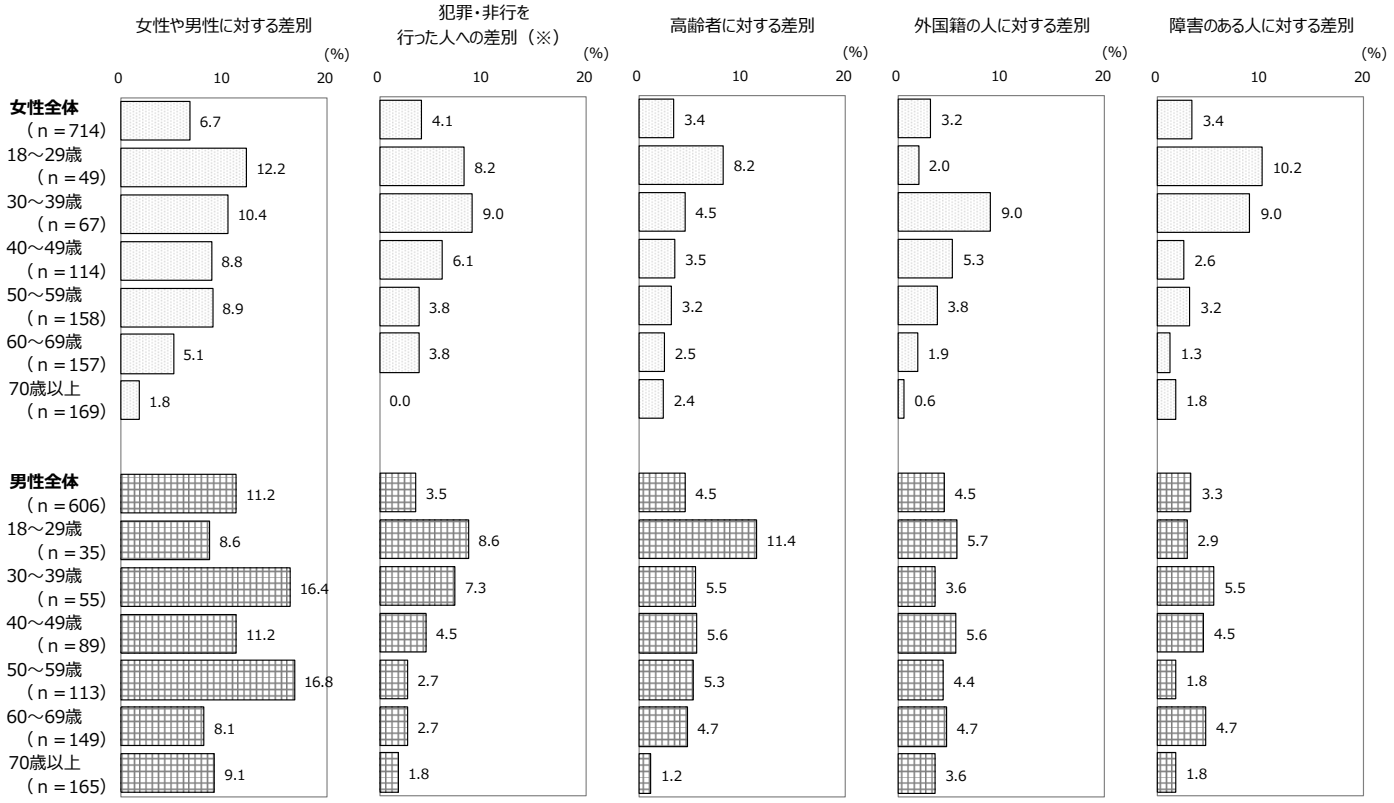
内容としては、「女性や男性に対する差別」(8.8%)、「犯罪・非行を行った人への差別」(4.0%)、「高齢者に対する差別」、「外国籍の人に対する差別」(3.9%（同率）)の順に割合が高くなっている。

また、「特にない」との回答は、前回よりも 7.5 ポイント低くなっている(図１－１０)。

性別でみると、上位 5 項目のうち「女性や男性に対する差別」、「高齢者に対する差別」、「外国籍の人に対する差別」においては、女性に比べ、男性でやや割合が高い。男性における「女性や男性に対する差別」は全体で 11.2%となっている。

性・年代別でみると、女性の 18~29 歳において「障害のある人に対する差別」が 10.2%、30~39 歳において「外国籍の人に対する差別」が 9.0%で他の年代に比べ高くなっている。また、男性の 18~29 歳では「高齢者に対する差別」において 11.4%の回答があり、男女各年代を通じて高くなっている。（図１－１１)。

図１－１１　差別的な行動や発言の種類（性別、性・年代別）［上位５項目］

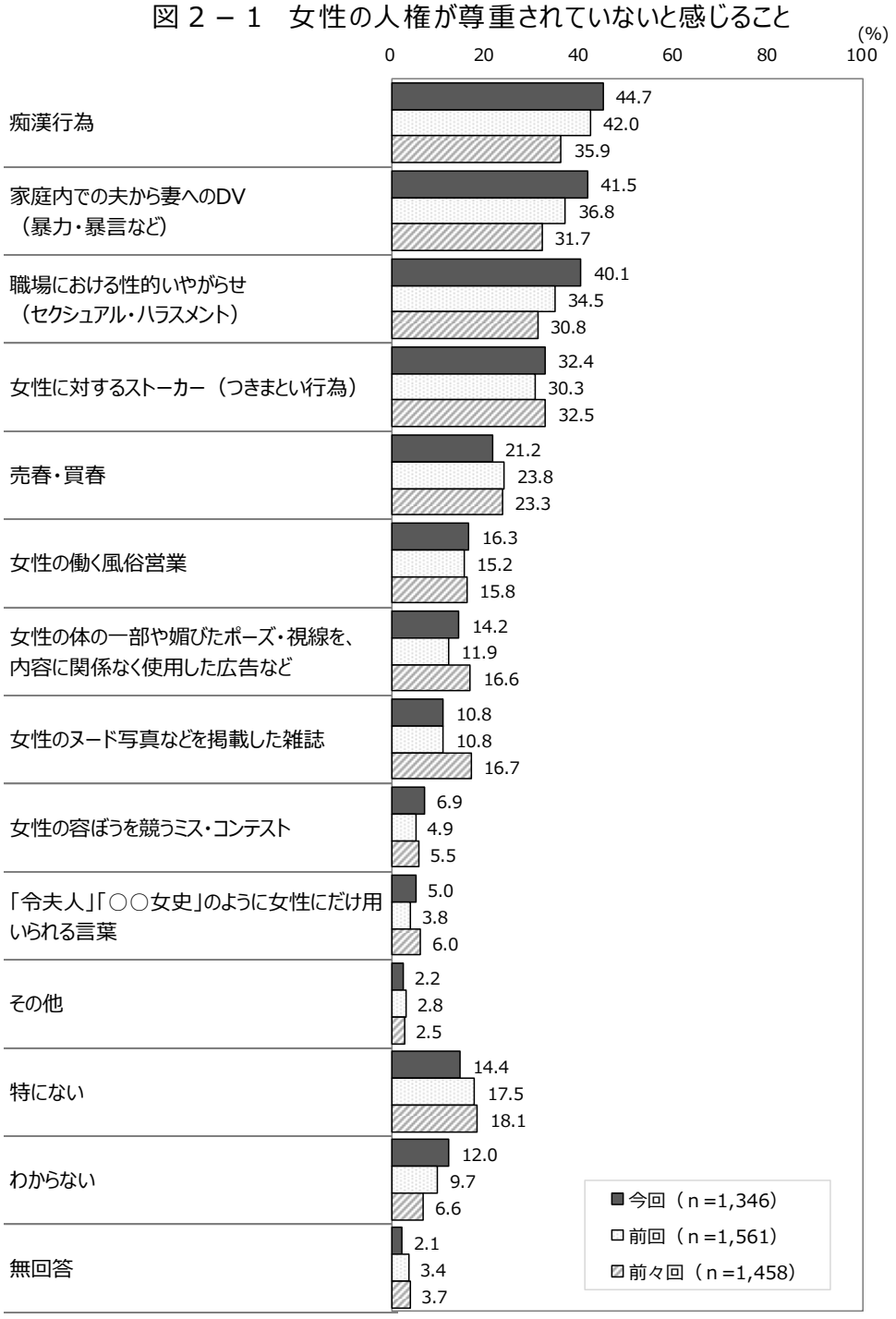


第２章　女性の人権について

２－１　女性の人権が尊重されていないと感じること

問５　あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてでしょうか。(○はあてはまるものすべて)

図２－１　女性の人権が尊重されていないと感じること



女性の人権が尊重されていないと感じることでは、「痴漢行為」が 44.7%で最も高く、前回より 2.7 ポイント高くなっている。次いで「家庭内での夫から妻への DV」41.5%、「職場における性的いやがらせ」が 40.1%で順に続いており、それぞれ前回よりも 5 ポイントほど高くなっている。一方で、「売春・買春」は、前回に比べて 2.6 ポイント低くなっている(図２－１)。

性別でみると、「痴漢行為」、「家庭内での夫から妻への DV」「職場における性的いやがらせ」「女性に対するストーカー」「売春・買春」の上位 5 項目全てにおいて、女性における割合が男性における割合より高く、意識の差がうかがえる。

性・年代別でみると、上位 3 項目において、女性は年代が下がるほど割合が高くなる傾向がみられる。「痴漢行為」では 18~29 歳から 40~49 歳において、「家庭内での夫から妻への DV」と「職場における性的いやがらせ」では 18~29 歳から 30~39 歳において 50%以上の回答となっている。「女性に対するストーカー」は、18~29 歳から 60~69 歳において 30%を超える回答がある。

一方、男性の年代別では、「痴漢行為」が 30~39 歳と 60~69 歳で 50%を超える回答があるが、目立った年代間の特徴はみられない。

また、「特にない」は男性では 18~29 歳が 22.9%と他の年代に比べ高くなっている。女性では、18~29 歳から 40~49 歳では 10%未満の回答となっているが、50~59 歳より上の年代に上がるにつれて割合は高くなっており、70 歳以上では 22.5%となっている(図 2 − 2 −①・②)。

図 2 − 2 −① 女性の人権が尊重されていないと感じること（性別、性・年代別）

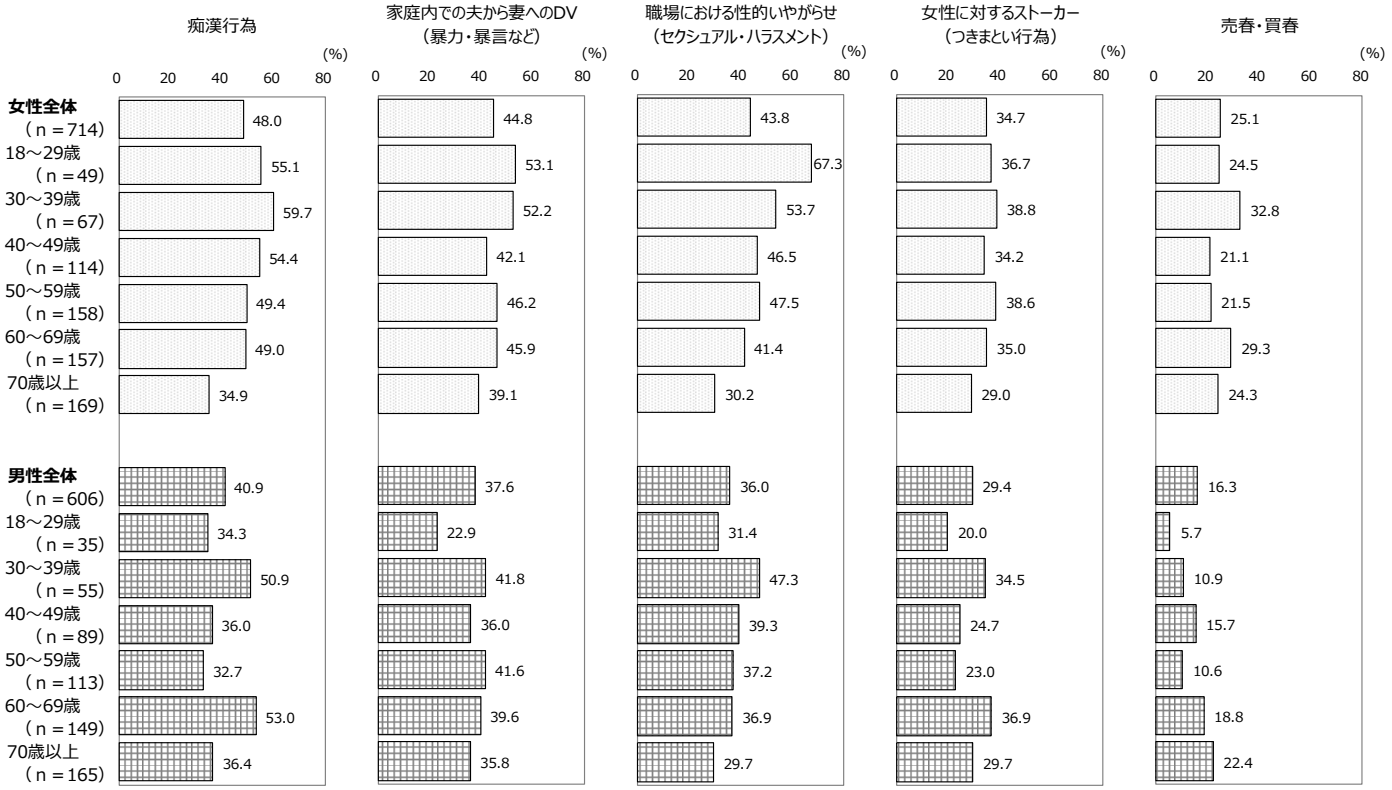
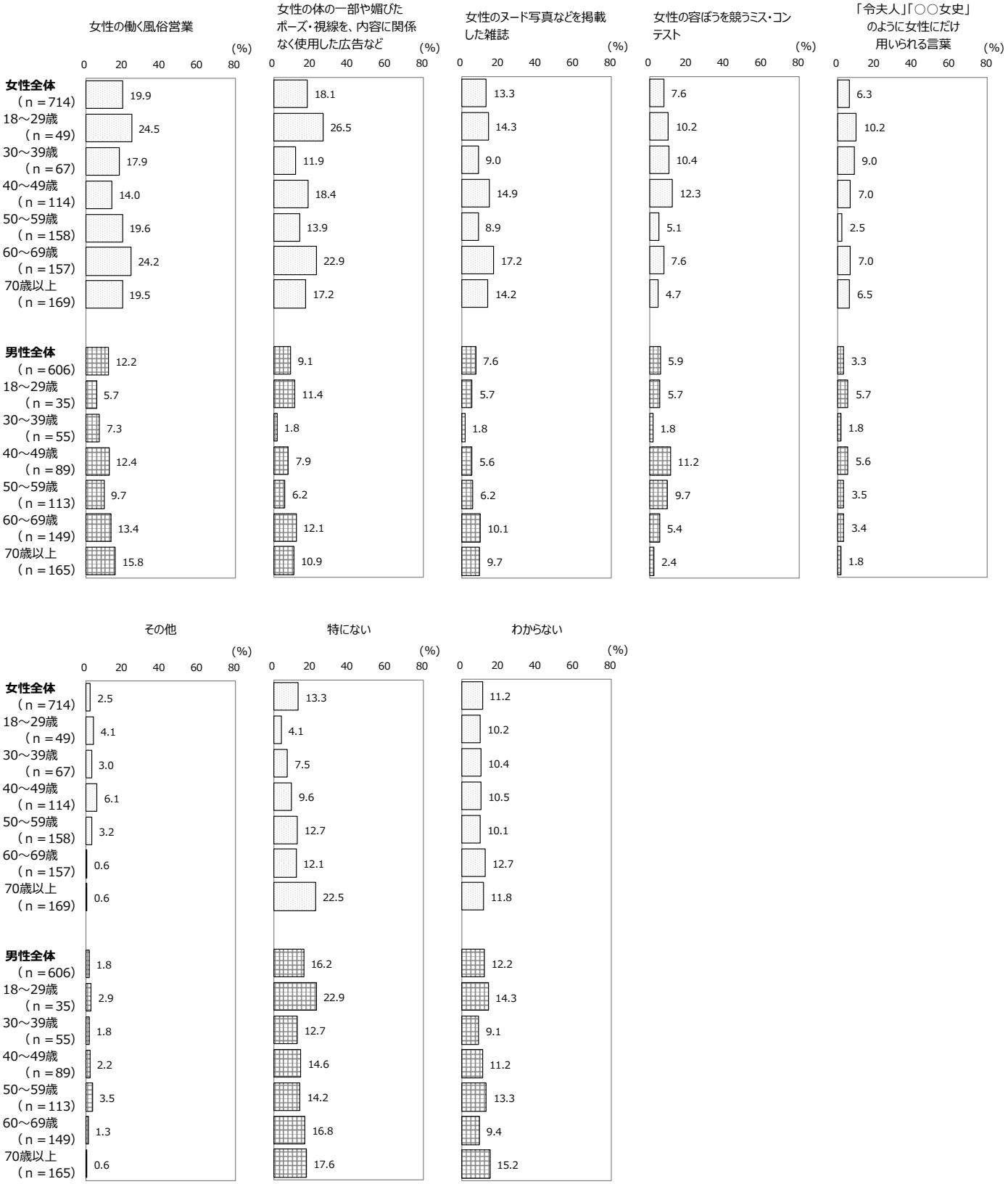


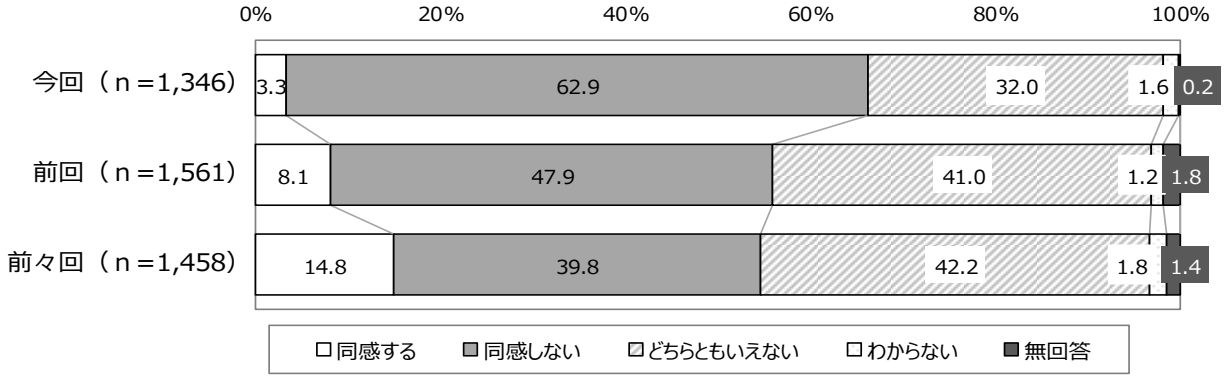
図２－２－②　女性の人権が尊重されていないと感じること（性別、性・年代別）



２－２　性別役割分担への賛否

問６　「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感しますか。それとも同感しませんか。(○は１つだけ)

図２－３　性別役割分担への賛否

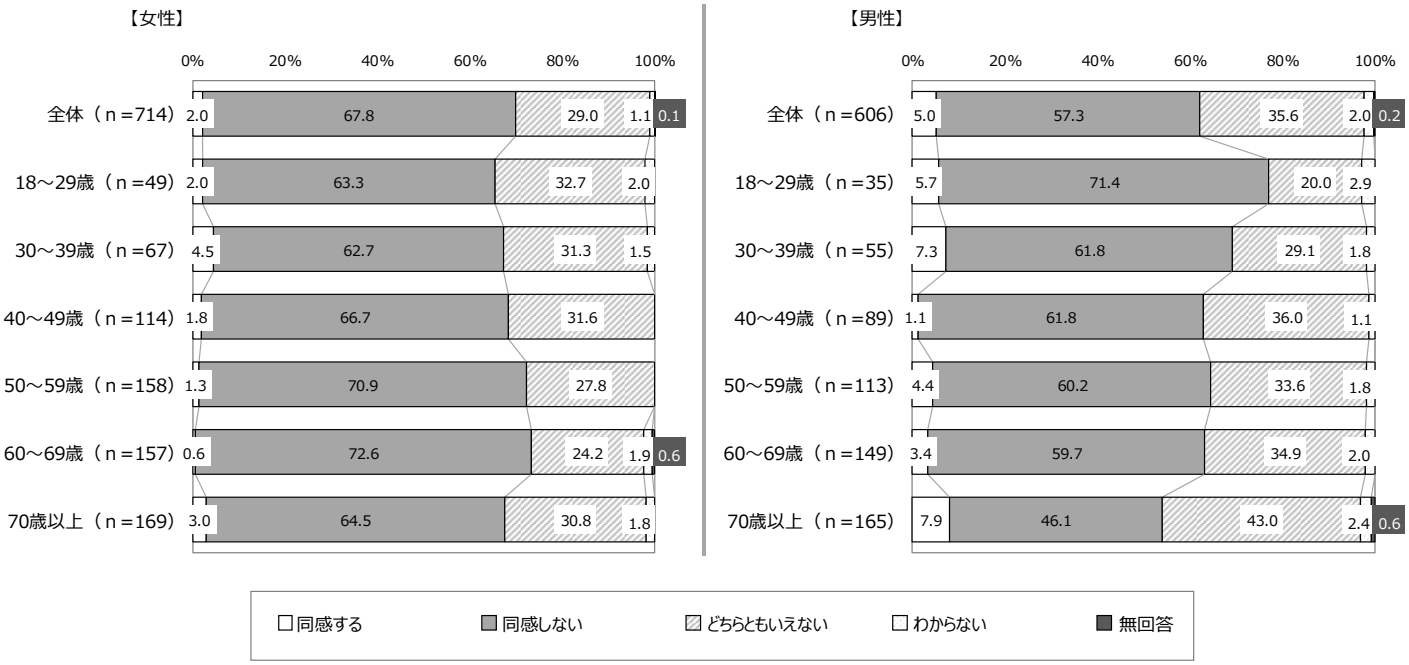


『男は仕事、女は家庭』という考え方の賛否について、「同感する」は 3.3%で前回よりも 4.8 ポイント低くなっている一方、「同感しない」は 62.9%で前回よりも 15 ポイント高くなっている。また、「どちらともいえない」は 9 ポイント低くなり、「わからない」は前回からあまり変化がないことから、固定的な性別の役割分担についての意識の変化がうかがえる(図２－３)。

性別でみると、「同感する」は女性が 2.0%、男性が 5.0%で差は 3.0 ポイントとなっているが、「同感しない」は女性が 67.8%、男性が 57.3%となっており、その差は 10.5 ポイントと大きくなっている。

性・年代別でみると、女性では 18~29 歳から 60~69 歳にかけては年代が上がるほど「同感しない」の割合が高くなる傾向がある。一方男性では、年代が上がるほど「同感しない」の割合が低くなっている(図２－４)。

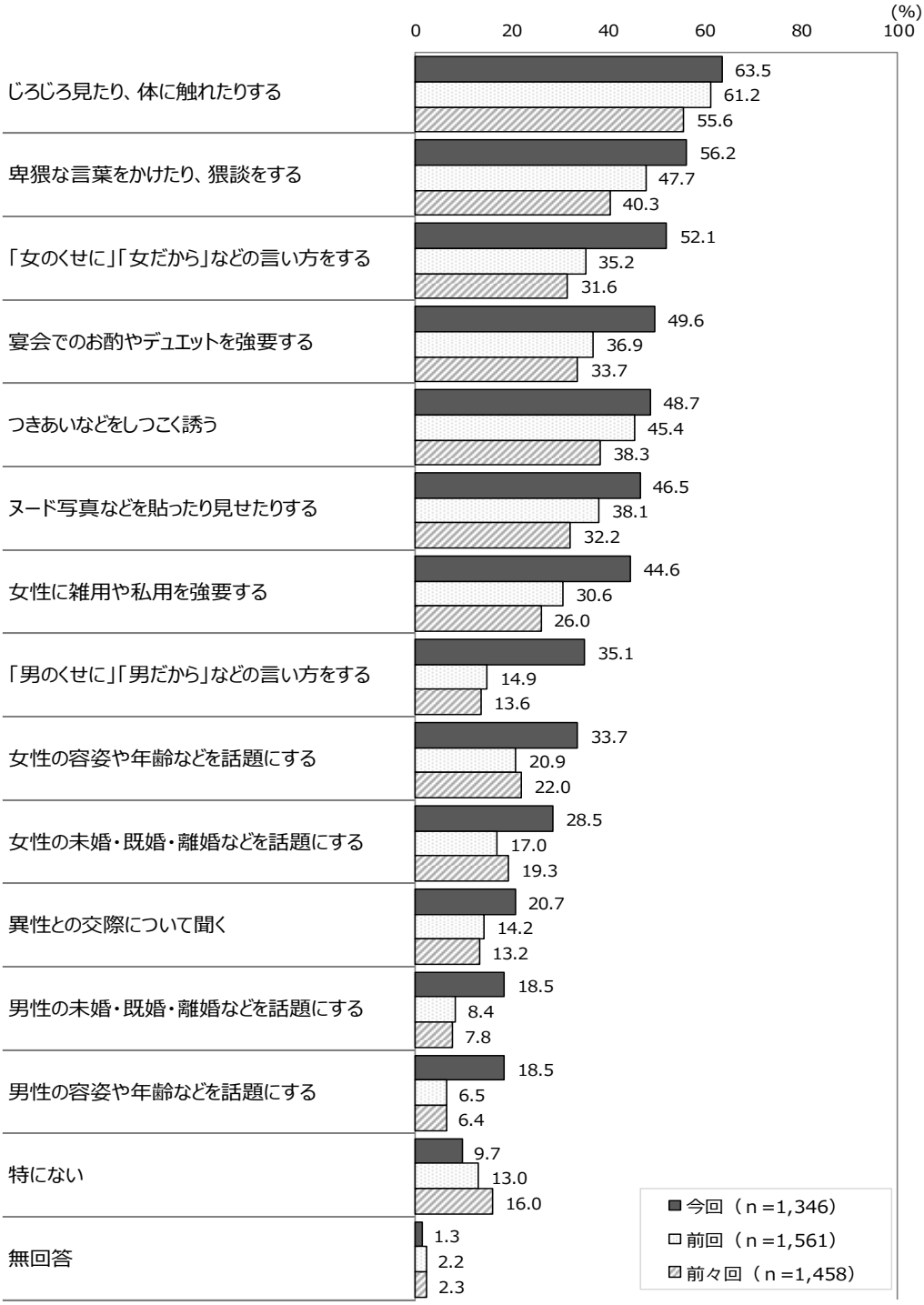
図２－４　性別役割分担への賛否（性別、性・年代別）



２－３　性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うもの

問７　あなたが、性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うものを選んでください。
(○はあてはまるものすべて)

図２－５　性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うもの



性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うものについて、「じろじろ見たり、体に触れたりする」が63.5%で最も高く、次いで、「卑猥な言葉をかけたり、猥談をする」が56.2%、「『女のくせに』『女だから』などの言い方をする」が 52.1%で続く。

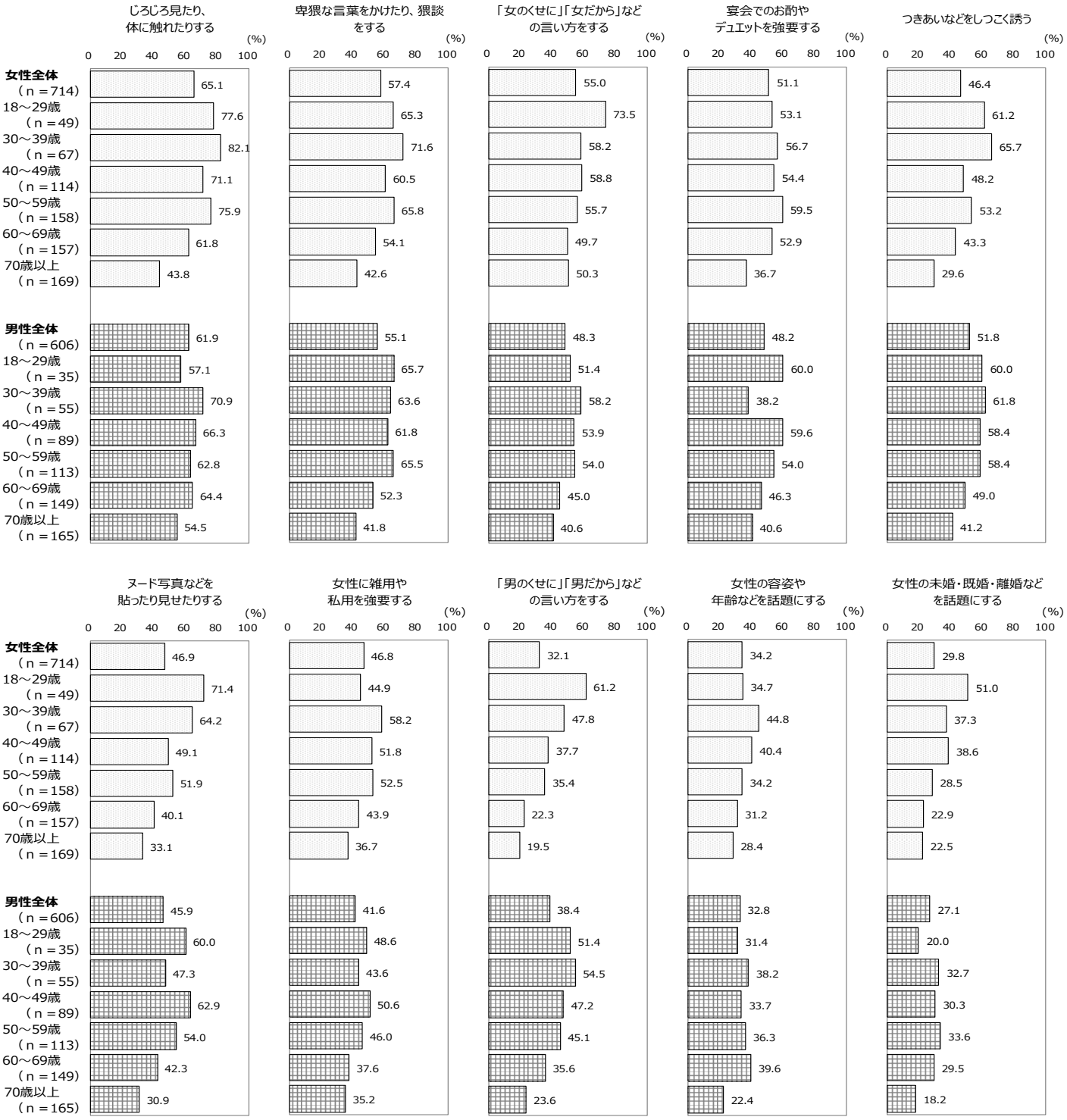
また、全体的に前回よりも回答の割合が高くなっている項目が多く、性的いやがらせに対する意識や知識が浸透しつつあることがうかがえる(図２－５)。

性別でみると、「つきあいなどをしつこく誘う」では 5.4 ポイント男性の割合の方が高く、「女性に雑用や私用を強要する」では 5.2 ポイント女性の割合が高くなっている。全体的には女性の割合がやや高くなっている。

性・年代別でみると、全体で最も割合の高い「じろじろ見たり、身体に触れたりする」は年代が下がるほど割合が高い傾向にあり、男女ともに 30~39 歳が最も高くなっている。また、女性は上位１０項目中５項目、男性は上位１０項目中４項目で 30~39 歳の割合が最も高くなっており、比較的意識が高いことがうかがえる(図２－６)。

図２－６　性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うもの(性別、性・年代別)

［上位１０項目］



性別役割分担への賛否別でみると、“男は仕事、女は家庭”に同感している方は各項目での割合が低くなっている(図２－７)。

図２－７　性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うもの(性別役割分担への賛否別)

［上位１０項目］

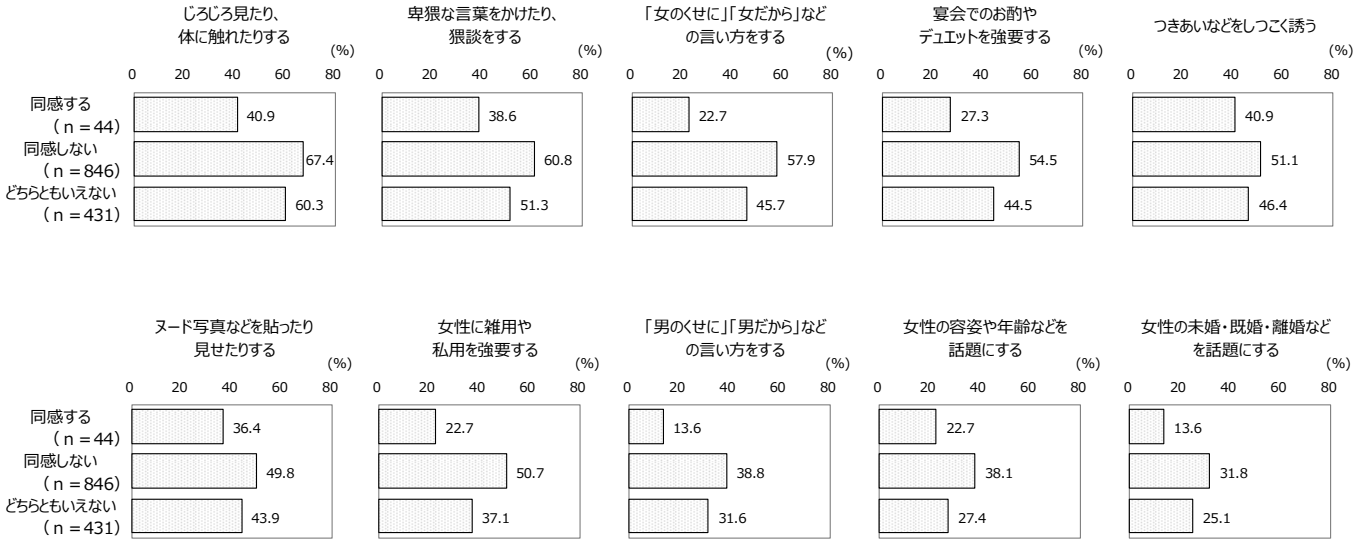


表２　性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うもの(性別役割分担への賛否別)

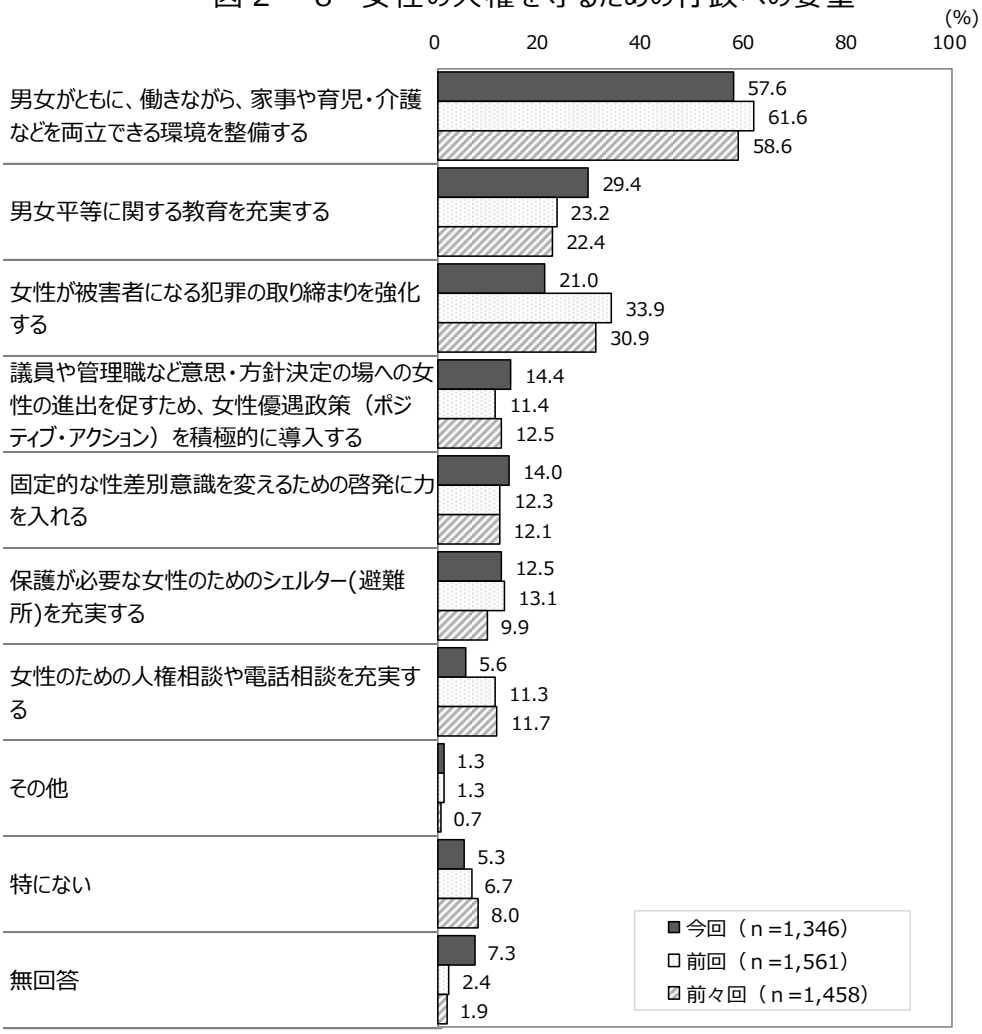
		n数	問７　性的いやがらせ(セクシャル・ハラスメント)と思うもの														
上段：件数 下段：％			「女のくせに」「女だから」などの言い方をする	「男のくせに」「男だから」などの言い方をする	女性の未婚・既婚・離婚などを話題にする	男性の未婚・既婚・離婚などを話題にする	女性の容姿や年齢などを話題にする	男性の容姿や年齢などを話題にする	異性との交際について聞く	宴会でのお酌やデュエットを強要する	女性に雑用や私用を強要する	卑猥な言葉をかけたり、猥談をする	ヌード写真などを貼ったり見せたりする	じろじろ見たり、体に触れたりする	つきあいなどをしつこく誘う	特にない	無回答
問6 性別役割分担への賛否	同感する	44	10	6	6	3	10	5	5	12	10	17	16	18	18	14	2
		100.0	22.7	13.6	13.6	6.8	22.7	11.4	11.4	27.3	22.7	38.6	36.4	40.9	40.9	31.8	4.5
	同感しない	846	490	328	269	177	322	172	201	461	429	514	421	570	432	49	6
		100.0	57.9	38.8	31.8	20.9	38.1	20.3	23.8	54.5	50.7	60.8	49.8	67.4	51.1	5.8	0.7
	どちらともいえない	431	197	136	108	68	118	70	72	192	160	221	189	260	200	57	6
		100.0	45.7	31.6	25.1	15.8	27.4	16.2	16.7	44.5	37.1	51.3	43.9	60.3	46.4	13.2	1.4
	わからない	22	4	3	1	1	3	2	1	3	1	4	-	6	4	11	2
		100.0	18.2	13.6	4.5	4.5	13.6	9.1	4.5	13.6	4.5	18.2	-	27.3	18.2	50.0	9.1

※上位２項目を色塗り

２－４　女性の人権を守るための行政への要望

問８　女性の人権を守るためには、行政はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。
（○は２つまで）

図２－８　女性の人権を守るための行政への要望



女性の人権を守るための行政への要望について、「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が57.6%で最も高くなったが、前回よりも4.0ポイント低くなっている。次いで、「男女平等に関する教育を充実する」が 29.4%、「女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する」が21.0%で続く。（図２－８）。

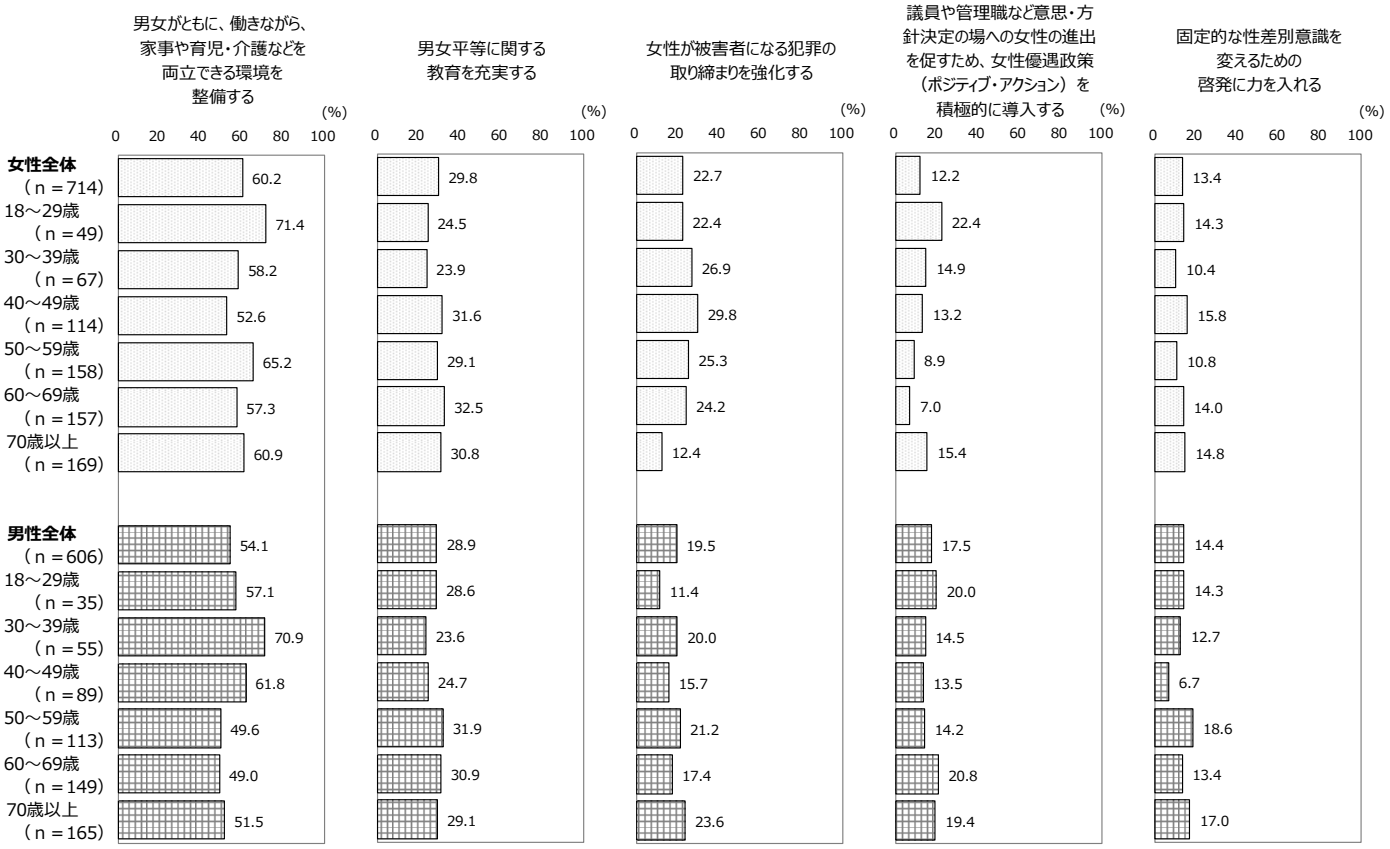
性別でみると、最も要望の割合が高い「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」においては女性が 60.2%、男性が 54.1%と 6.1 ポイントの差があり、女性の要望が強いことがうかがえる。一方、「議員や管理職など意思・方針決定の場への女性の進出を促すため、女性優遇政策（ポジティブ・アクション）を積極的に導入する」では男性が 17.5%、女性が 12.2%で 5.3 ポイントの差があり、男性の要望する割合が高い。

性・年代別でみると、女性では 18~29 歳、男性では 30~39 歳で「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が 70%以上の高い割合で要望されている。また、女性の 18~29 歳では「議員や管理職など意思・方針決定の場への女性の進出を促すため、女性優遇政策（ポジティブ・アクション）を積極的に導入する」（22.4%）でも他の年代に比べ高くなっている。

一方男性では、40~49 歳で「固定的な性差別意識を変えるための啓発に力を入れる」（6.7%）が他の年代に比べ低くなっている(図２－９)。

図２－９　女性の人権を守るための行政への要望（性別、性・年代別）

［上位５項目］

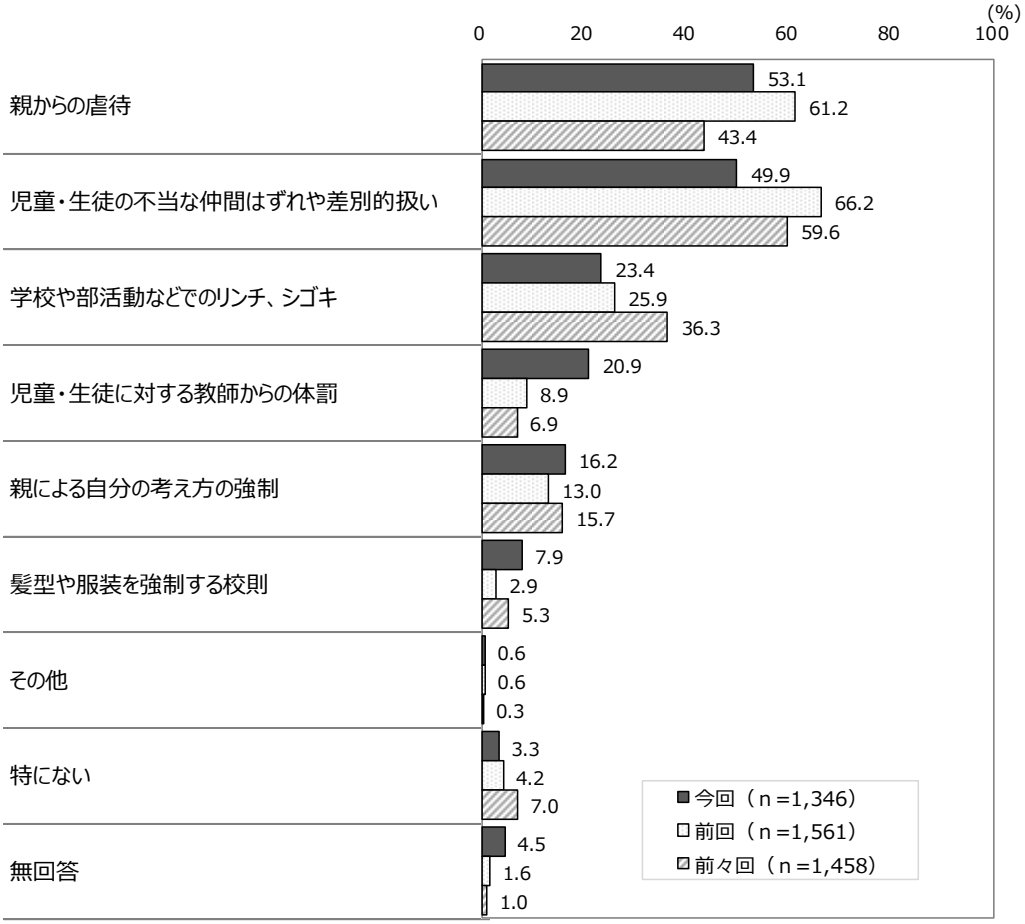


第３章　子どもたちの人権について

３－１　子どもたちの人権問題

問９　次にあげる子どもたちの人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。
（○は２つまで）

図３－１　子どもたちの人権問題

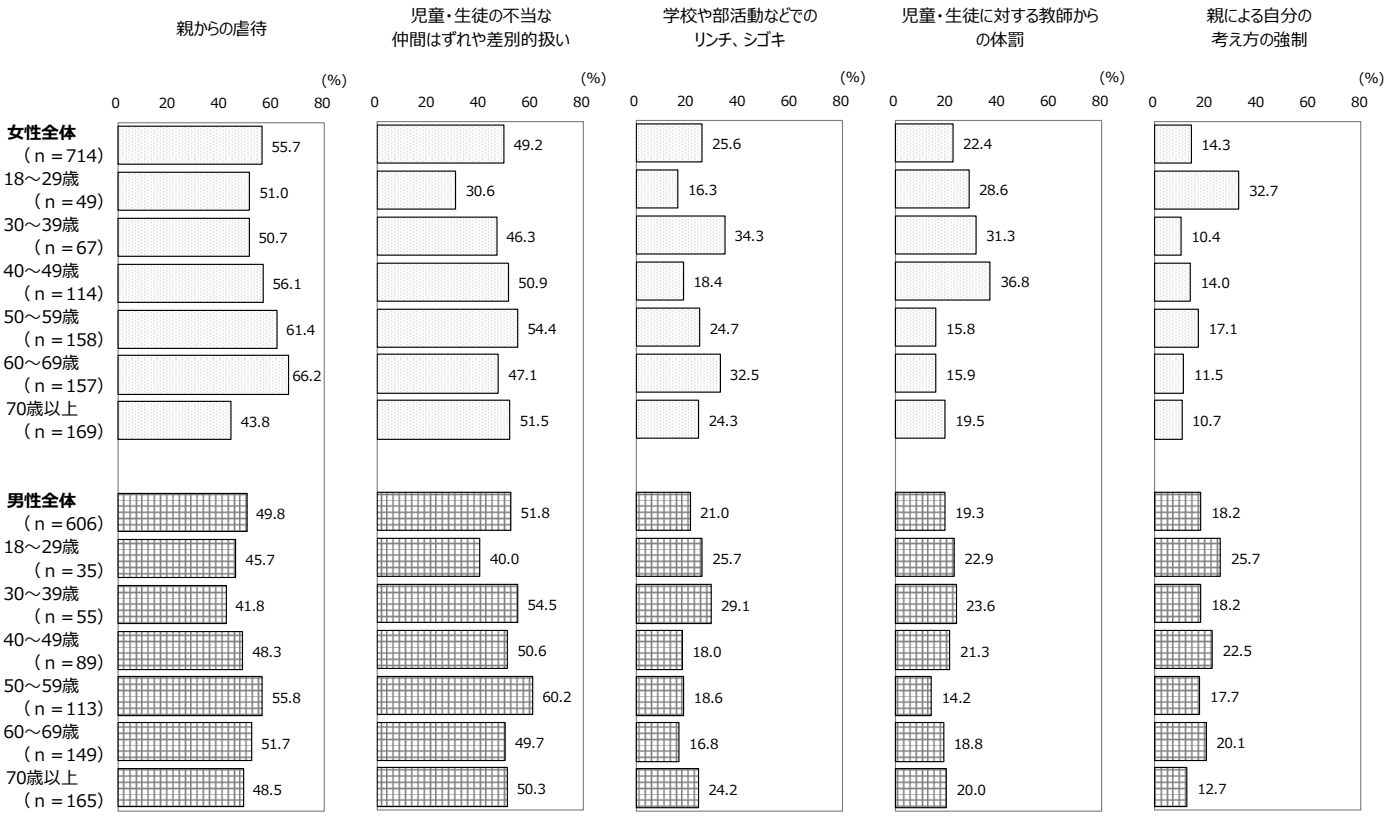


子どもたちの人権問題について、「親からの虐待」が 53.1%で最も高く、次いで、「児童・生徒の不当な仲間はずれや差別的扱い」49.9%、「学校や部活動などでのリンチ、シゴキ」が 23.4%で続く。「親からの虐待」は前回より 8.1 ポイント、「児童・生徒の不当な仲間はずれや差別的扱い」は前回より 16.3 ポイントそれぞれ低くなり、「児童・生徒に対する教師からの体罰」は前回より 12.0 ポイント、「髪型や服装を強制する校則」は前回より 5.0 ポイントそれぞれ高くなっていることから、関心の変化が生じていることがうかがえる。（図３－１）。

性別でみると、「親からの虐待」では女性が 55.7%、男性が 49.8%で 5.9 ポイント女性が高くなっている。

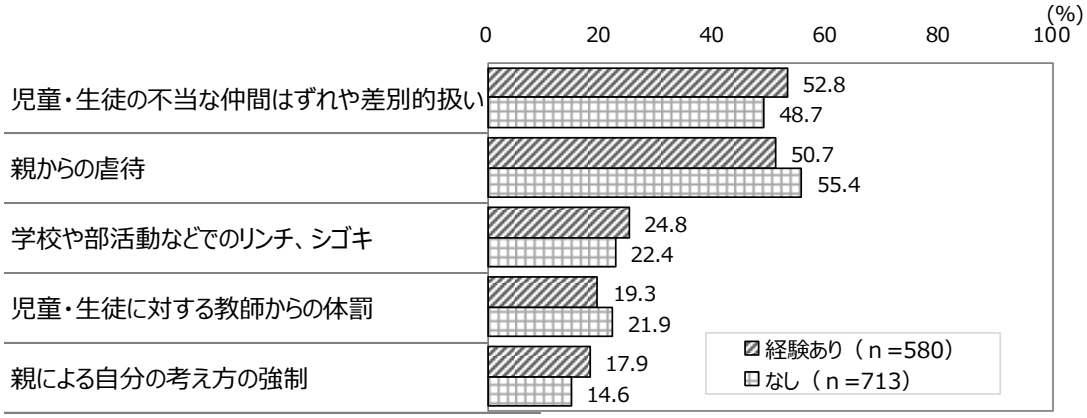
性・年代別でみると、「児童・生徒の不当な仲間はずれや差別的扱い」は男女ともに 50～59 歳において割合が高くなっている。また、「親による自分の考え方の強制」では男女ともに 18～29 歳において割合が高くなっている。(図３－２)。

図３－２　子どもたちの人権問題（性別、性・年代別）[上位５項目]



被差別経験の有無でみると、被差別経験のある人と、被差別経験のない人では、全体的に大きな差はみられない(図３－３)。

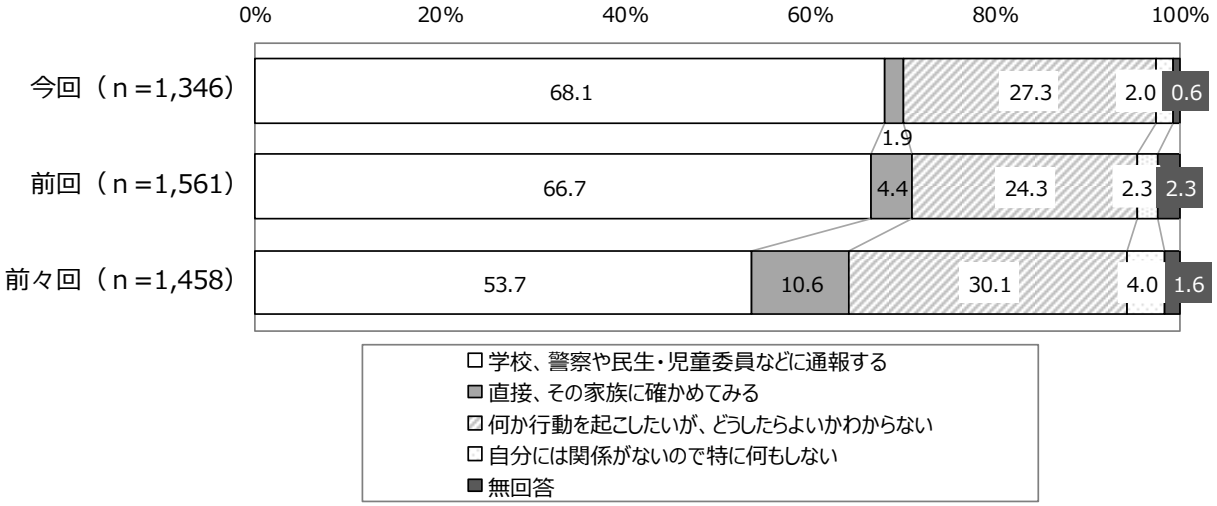
図３－３　子どもたちの人権問題（被差別経験の有無別）[上位５項目]



３－２　近所の子どもが虐待されていることを知った場合の対応

問１０　近所の子どもが虐待されていることを知った場合、あなたならどうしますか。
(○は１つだけ)

図３－４　近所の子どもが虐待されていることを知った場合の対応

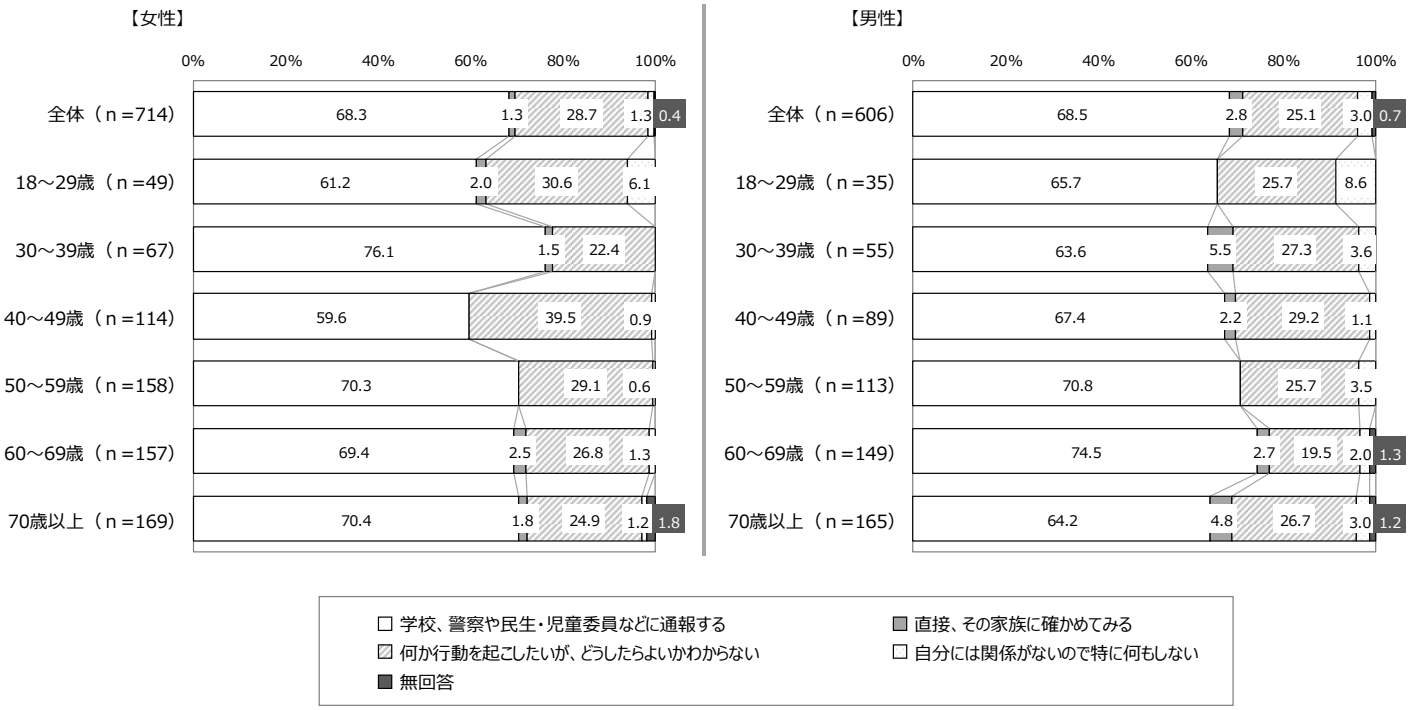


近所の子どもが虐待されていることを知った場合の対応について、「学校、警察や民生・児童委員などに通報する」が 68.1%で大半を占めており、前回より 1.4 ポイント高くなっている。また、「何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない」は 27.3%と前回より 3.0 ポイント高くなっている(図３－４)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、女性の 40~49 歳では「何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない」の割合が 39.5%と男女各年代通じて最も高くなっている。また、「自分には関係がないので特に何もしない」の割合は男女とも 18~29 歳で高くなっている。（図３－５）。

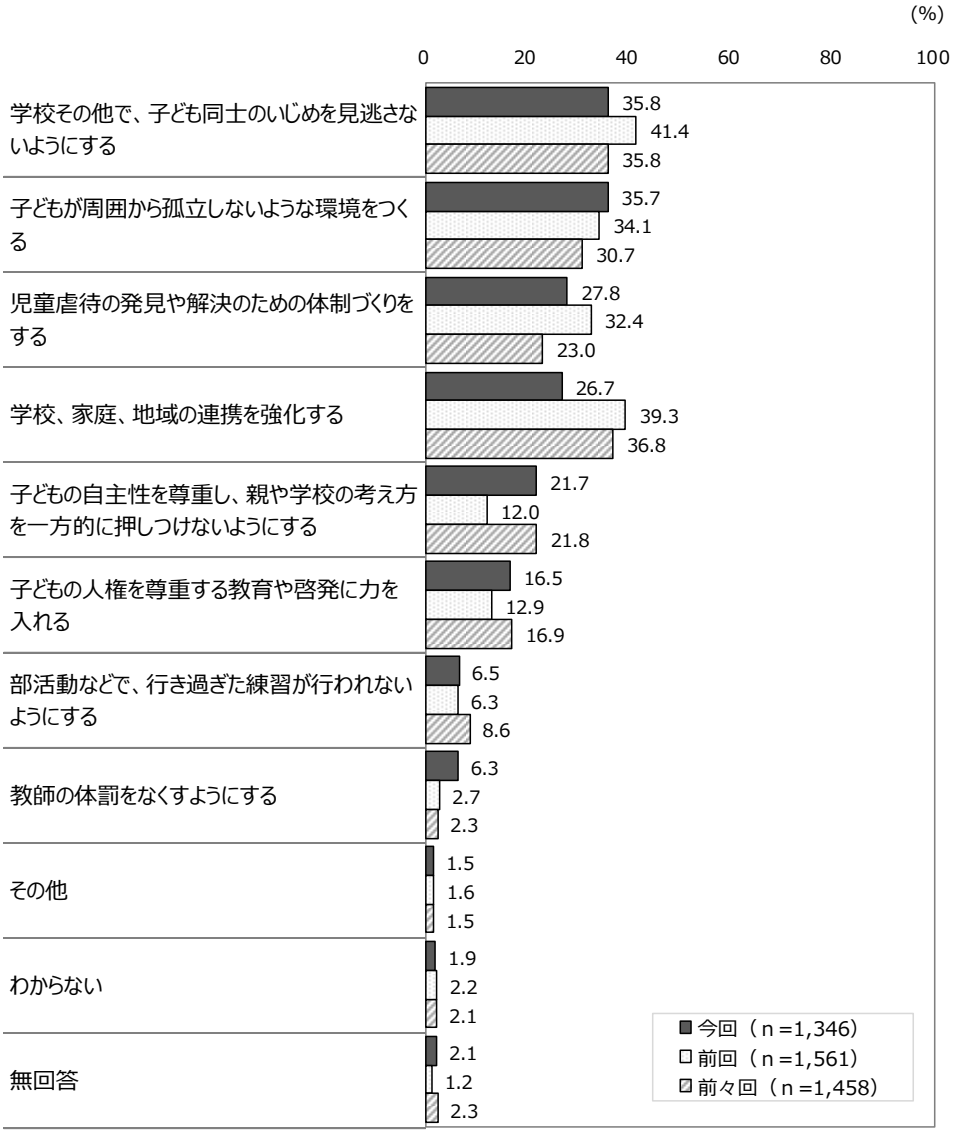
図３－５　近所の子どもが虐待されていることを知った場合の対応（性別、性・年代別）



３－３　子どもたちの人権を守るための大人たちの行動

問１１　子どもたちの人権を守るため、大人たちはどのようにするべきだと思いますか。特に大切と思うものを選んでください。(○は２つまで)

図３－６　子どもたちの人権を守るための大人たちの行動



子どもたちの人権を守るための大人たちの行動について、「学校その他で、子ども同士のいじめを見逃さないようにする」が 35.8%で最も高く、次いで「子どもが周囲から孤立しないような環境をつくる」が 35.7%、「児童虐待の発見や解決のための体制づくりをする」が 27.8%と続いた。上位 3 項目のうち、「学校その他で、子ども同士のいじめを見逃さないようにする」は、前回より 5.6 ポイント、「児童虐待の発見や解決のための体制づくりをする」は前回より 4.6 ポイントそれぞれ割合が低くなっている。また「学校、家庭、地域の連携を強化する」（26.7%）の割合も前回より 12.6 ポイント低くなっている。

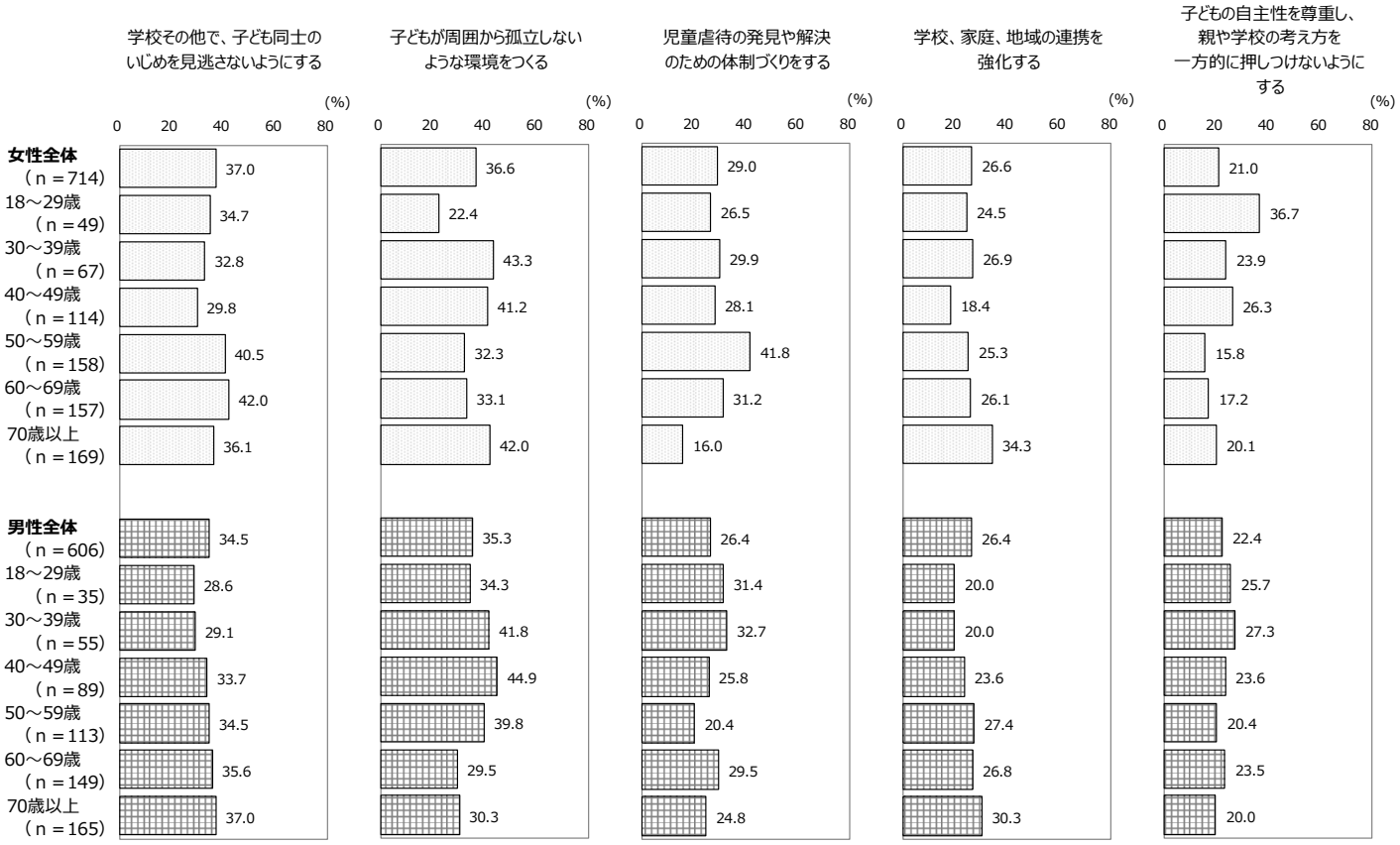
一方で、「子どもの自主性を尊重し、親や学校の考え方を一方的に押しつけないようにする」については 21.7%と前回より 9.7 ポイント高くなっており、関心が高まっていることがうかがえる。（図３－６）。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男女ともに 30~39 歳から 40~49 歳において「子どもが周囲から孤立しないような環境をつくる」の割合が高くなっている。また、「児童虐待の発見や解決のための体制づくりをする」において、50~59 歳の女性が 41.8%で他の年代よりも割合が高くなっている。（図３－７）。

図３－７　子どもたちの人権を守るための大人たちの行動（性別、性・年代別）

［上位５項目］

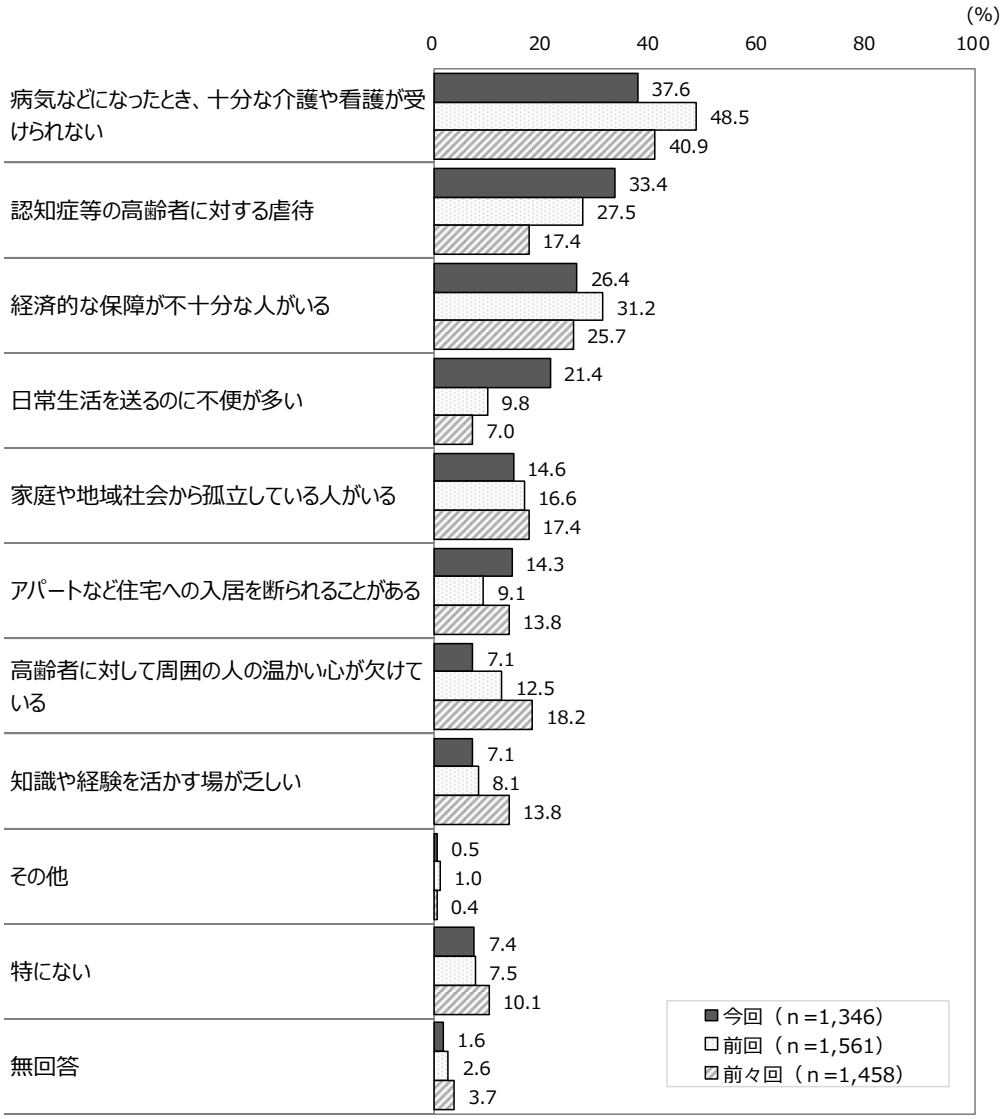


第４章　高齢者の人権について

４－１　高齢者の人権問題

問１２　次にあげる高齢者の人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。
(○は２つまで)

図４－１　高齢者の人権問題



高齢者の人権問題について、「病気などになったとき、十分な介護や看護が受けられない」が 37.6%で最も高く、次いで、「認知症等の高齢者に対する虐待」が 33.4%、「経済的な保障が不十分な人がいる」が 26.4%で続いている。「病気などになったとき、十分な介護や看護が受けられない」は前回より 10.9 ポイント低くなっている。一方、「日常生活を送るのに不便が多い」は、前回より 11.6 ポイント高くなっており、関心が高まっていることがうかがえる(図４－１)。

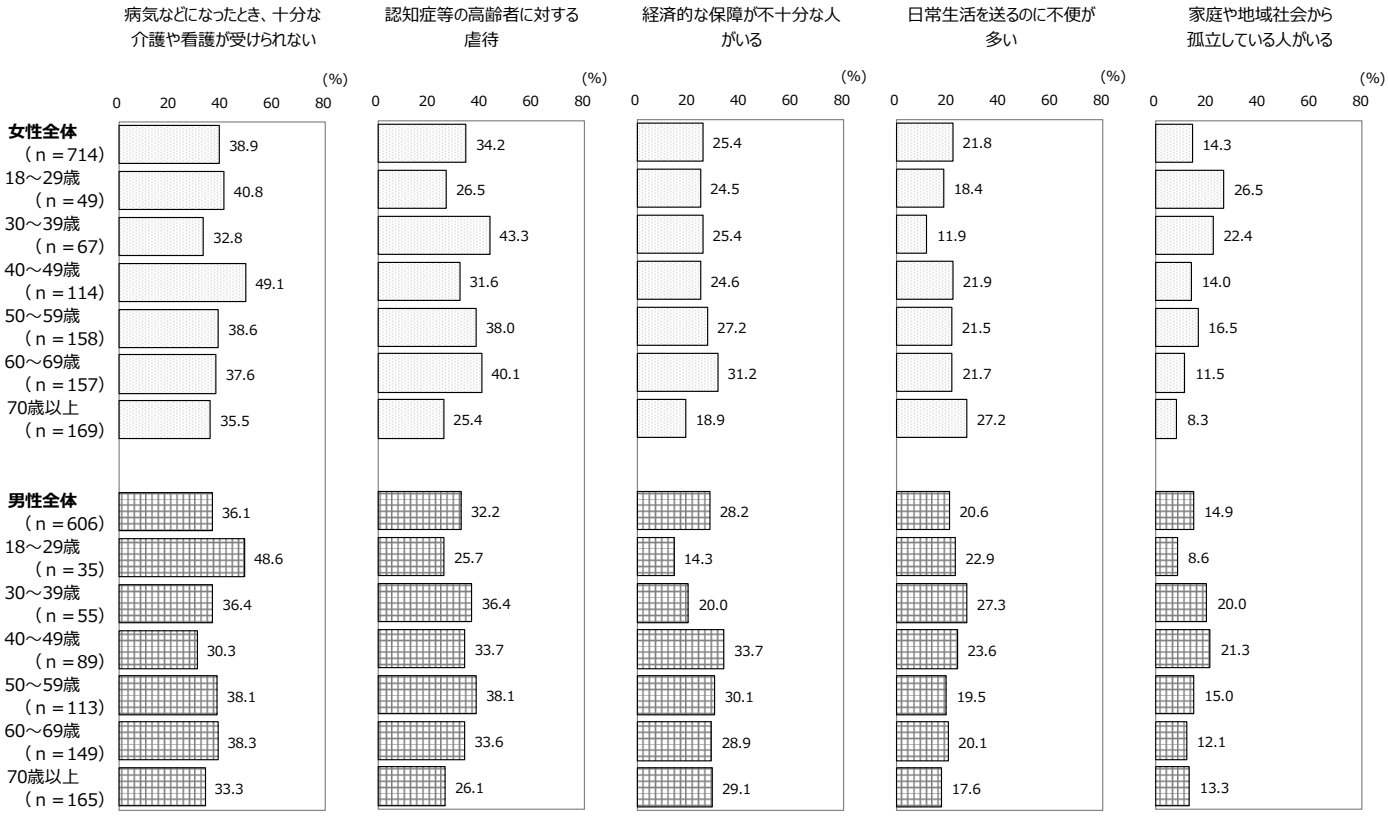
性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、女性の 18~29 歳、40~49 歳においては、「病気などになったとき、十分な介護や看護が受けられない」の割合が高く 40%を超えている。

男性においては 18~29 歳で「病気などになったとき、十分な介護や看護が受けられない」が 48.6%と他の年代より高くなっている。

「家庭や地域社会から孤立している人がいる」では女性では 70 歳以上が 8.3%で最も低く、男性では 18~29 歳が 8.6%で最も低くなっており、男女間で関心の低い世代に違いがみられる（図４－２）。

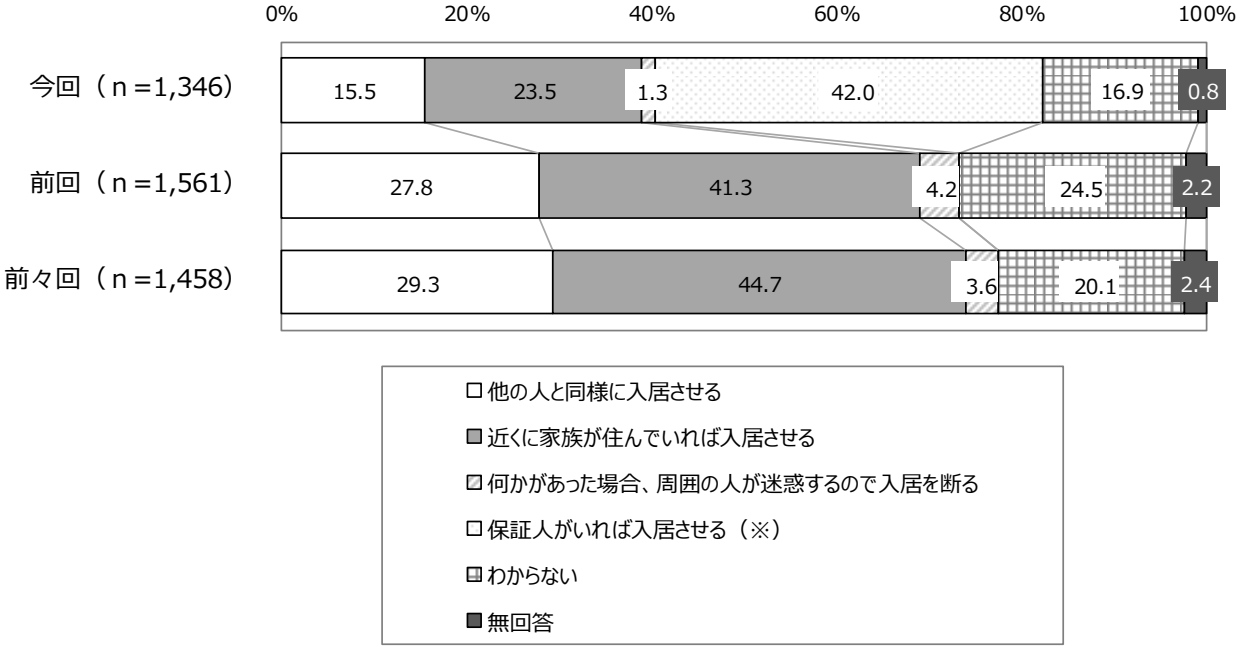
図４－２　高齢者の人権問題（性別、性・年代別）[上位５項目]



４－２　ひとり身の高齢者の入居希望への対応

問１３　あなたが、アパート経営者だとして、ひとり身の高齢者が入居を申し込んできた場合、あなたならどうしますか。(○は１つだけ)

図４－３　ひとり身の高齢者の入居希望への対応



※「保証人がいれば入居させる」は今回より追加

ひとり身の高齢者の入居希望への対応について、「保証人がいれば入居させる」が42.0%と最も高く、次いで、「近くに家族が住んでいれば入居させる」が 23.5%、「他の人と同様に入居させる」が 15.5%と続いており、条件付きを含め入居させると回答した割合は、前回より 11.9 ポイント高くなっている。一方で、「わからない」は 16.9%で前回より 7.6 ポイント低くなっている。

なお、「何かあった場合、周囲の人が迷惑するので入居を断る」といった明確な入居拒否については 1.3%でわずかとなっている(図４－３)。

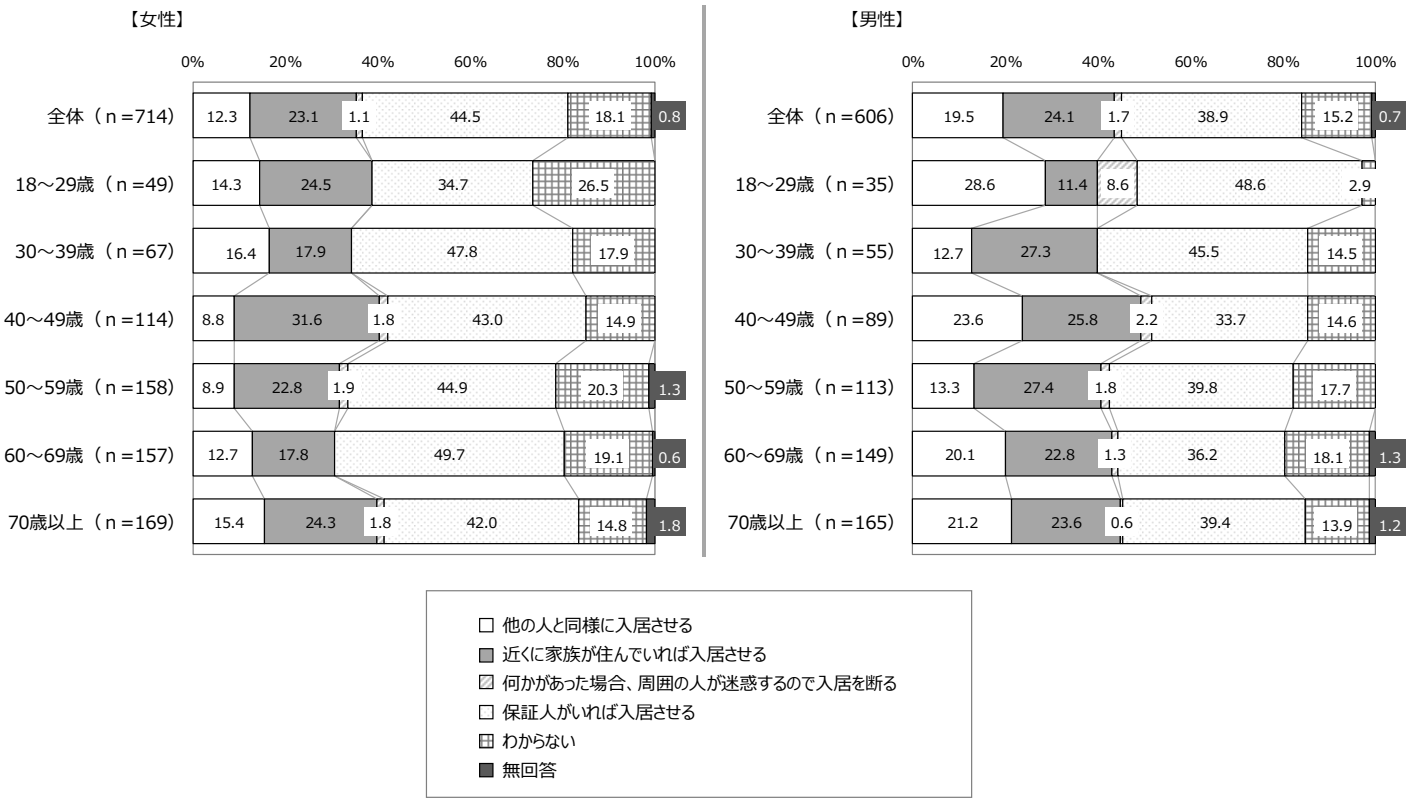
性別でみると、「他の人と同様に入居させる」では女性が 12.3%、男性が 19.5%となり、男性が女性より 7.2 ポイント高くなっている。一方、「保証人がいれば入居させる」では女性が 44.5%、男性が 38.9%となり、女性が男性より 5.6 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「保証人がいれば入居させる」が最も高い項目となっているが、男性の 18~29 歳（48.6%）が最も割合が高い年代なのに対し、女性の 18~29 歳（34.7%）は最も割合が低い年代となっている。また、「わからない」においても、女性の 18~29 歳（26.5%）と男性の 18~29 歳（2.9%）で 23.6 ポイントの差があり、同年代の男女間での違いがみられる。

女性の 40~49 歳から 50~59 歳では「他の人と同様に入居させる」の割合が男女通じて他の年代より低く、10%未満となっている。

(図４－４)。

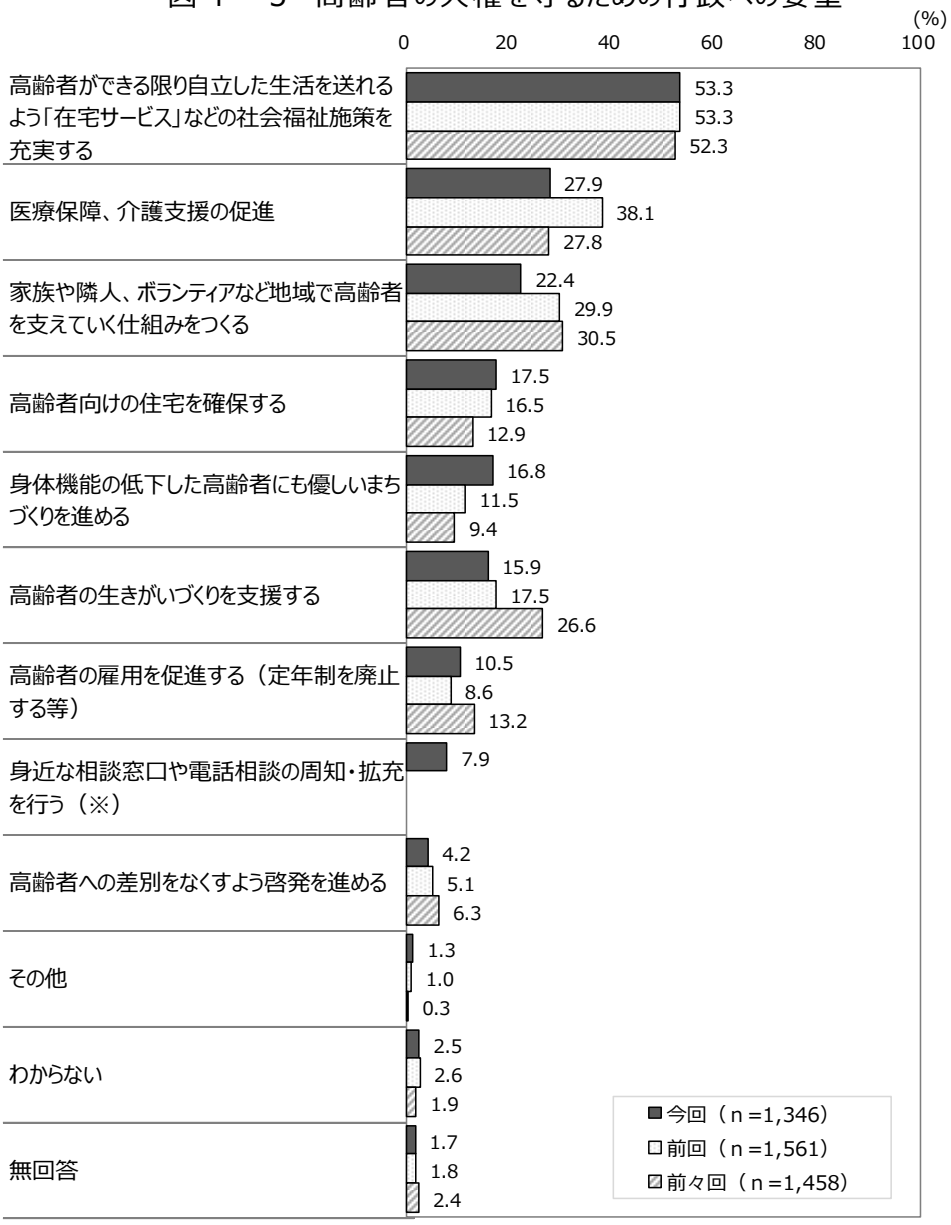
図４－４　ひとり身の高齢者の入居希望への対応（性別、性・年代別）



４－３　高齢者の人権を守るための行政への要望

問１４　高齢者の人権を守るため、行政はどのようなことを行えばよいでしょうか。特に大切だと思うものを選んでください。(○は２つまで)

図４－５　高齢者の人権を守るための行政への要望



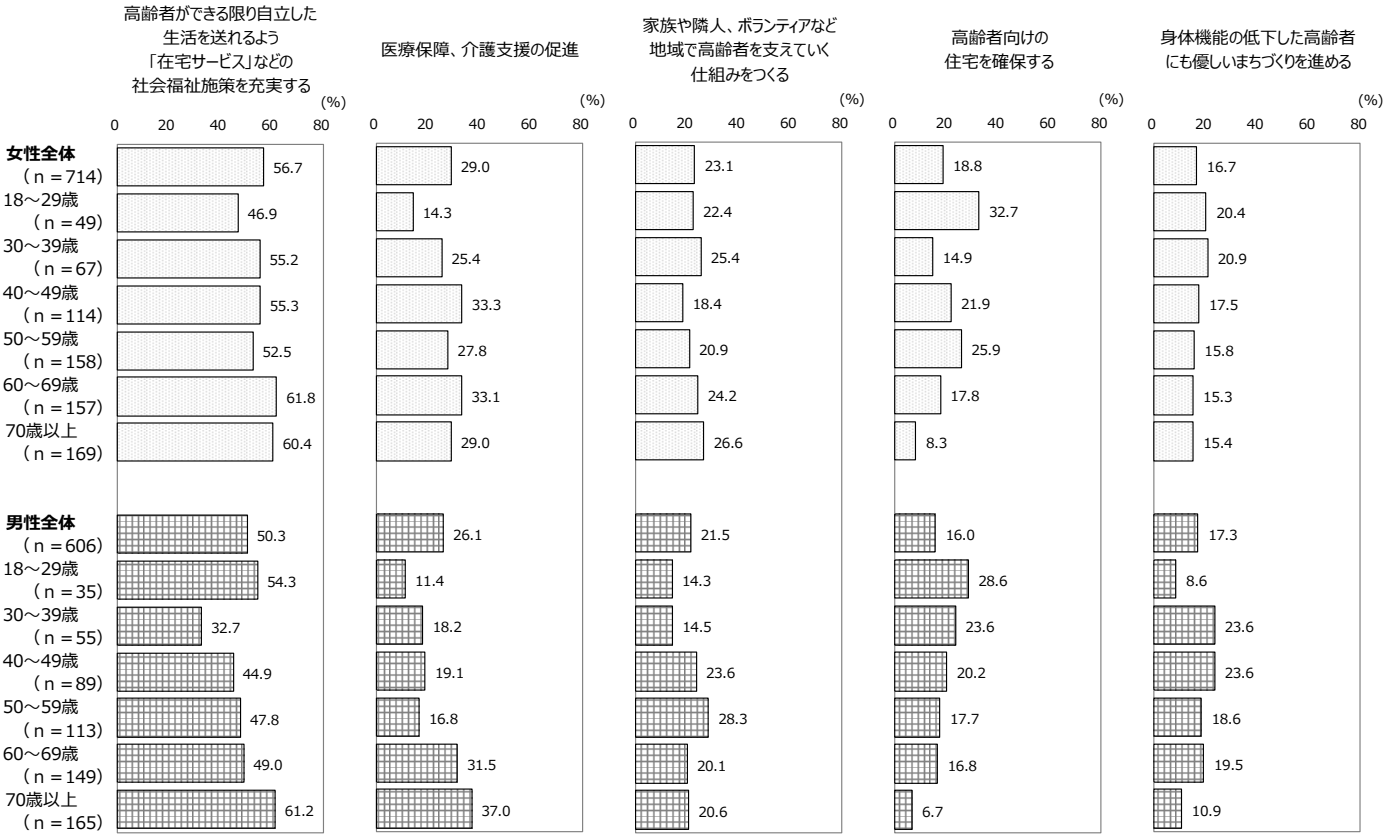
※「身近な相談窓口や電話相談の周知・拡充を行う」は今回より追加

高齢者の人権を守るための行政への要望について、「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう『在宅サービス』などの社会福祉施策を充実する」が 53.3%で最も高く、前回と同じ割合となっている。次いで、「医療保障、介護支援の促進」が 27.9%、「家族や隣人、ボランティアなど地域で高齢者を支えていく仕組みをつくる」が 22.4%で続く。「医療保障、介護支援の促進」は前回より 10.2 ポイント低くなっており、「家族や隣人、ボランティアなど地域で高齢者を支えていく仕組みをつくる」は前回より 7.5 ポイント低くなっている。一方、「身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める」（16.8%）は前回より 5.3 ポイント高くなっており、行政への期待がうかがえる(図４－５)。

性別でみると、「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう『在宅サービス』などの社会福祉施策を充実する」は女性が 56.7%で男性の 50.3%より 6.4 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう『在宅サービス』などの社会福祉施策を充実する」では、女性の 30~39 歳から 70 歳以上、男性の 18~29 歳と 70 歳以上において 50%以上と高い割合になっている。「医療保障、介護支援の促進」では、女性の 40~49 歳と 60~69 歳、男性の 60~69 歳から 70 歳以上において 30%以上と割合が高くなっている(図４－６)。

図４－６　高齢者の人権を守るための行政への要望（性別、性・年代別）[上位５項目]

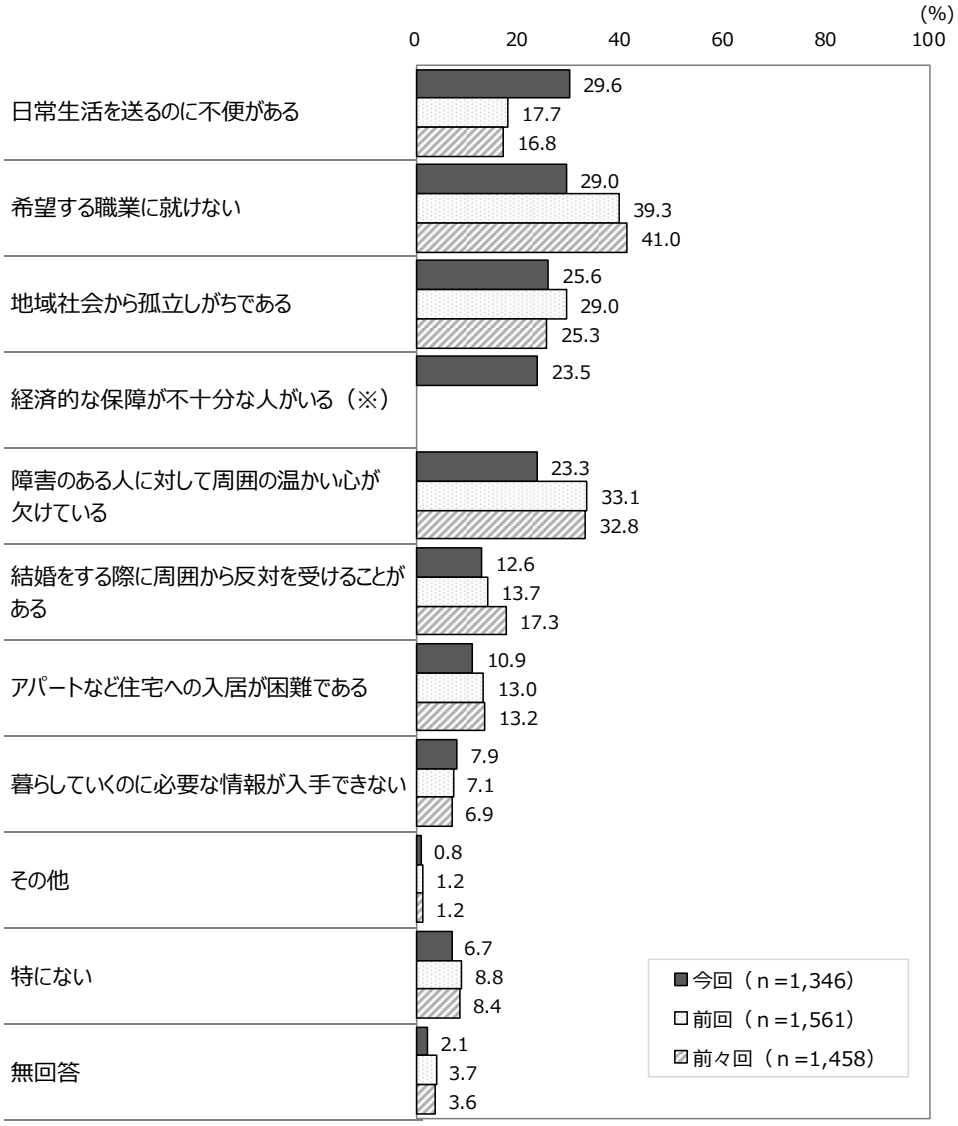


第５章　障害のある人たちの人権について

５－１　障害のある人たちの人権問題

問１５　次にあげる障害のある人たちの人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。
（○は２つまで）

図５－１　障害のある人たちの人権問題



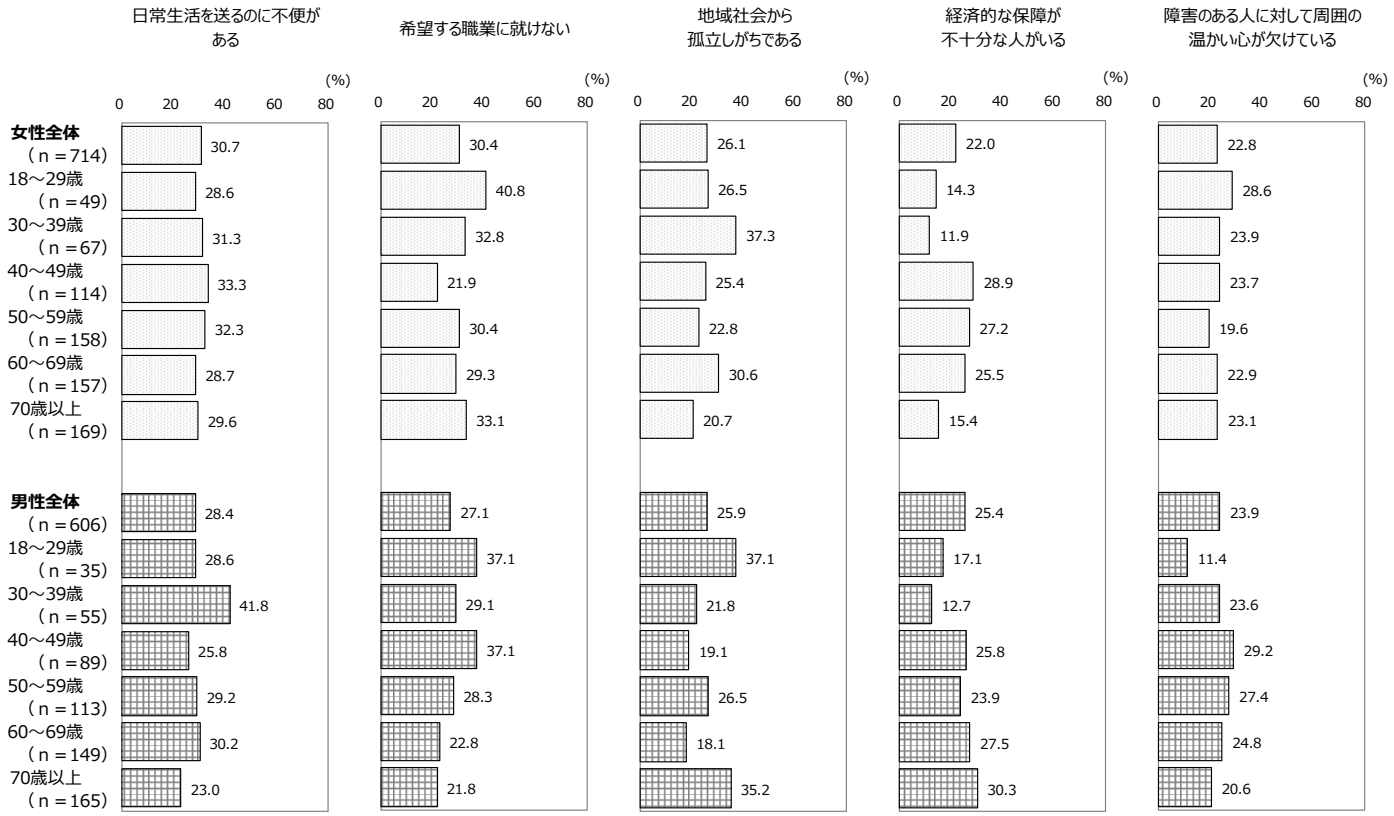
※「経済的な保障が不十分な人がいる」は今回より追加

障害のある人たちの人権問題について、「日常生活を送るのに不便がある」が 29.6%で最も高く、次いで、「希望する職業に就けない」が 29.0%、「地域社会から孤立しがちである」が 25.6%と続く。「日常生活を送るのに不便がある」は前回より 11.9 ポイント高くなっている。一方、「希望する職業に就けない」は前回より 10.3 ポイント低くなっている(図５－１)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

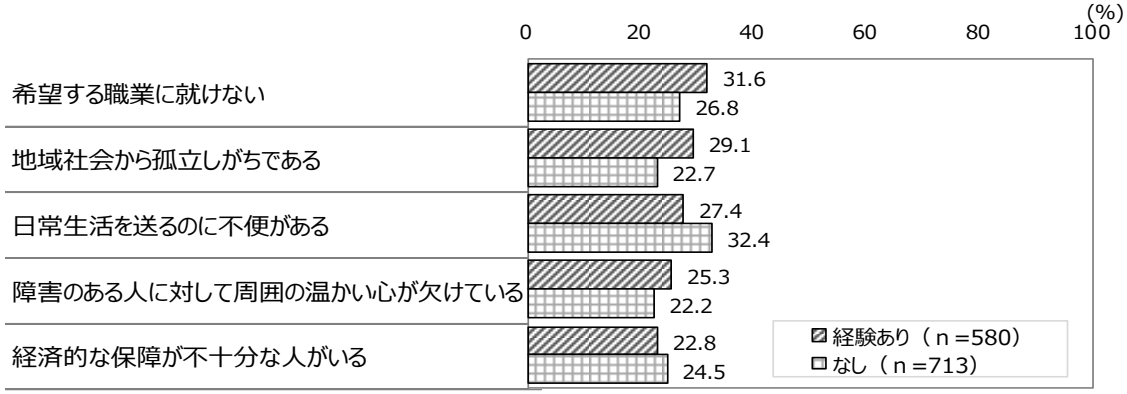
性・年代別でみると、「日常生活を送るのに不便がある」における男性の 30~39 歳は 41.8%と男女各年代を通じて最も高い割合となっている。一方、「障害のある人に対して周囲の温かい心が欠けている」では、男性の 18~29 歳が 11.4%と男女各年代を通じて最も低い割合となっている。(図５－２)。

図５－２　障害のある人たちの人権問題（性別、性・年代別）[上位５項目]



被差別経験の有無別でみると、「地域社会から孤立しがちである」が被差別経験のある人で 29.1%、被差別経験のない人で 22.7%と 6.4 ポイントの差がある。また、「日常生活を送るのに不便がある」では被差別経験のある人で 27.4%、被差別経験のない人で 32.4%と 5.0 ポイントの差が生じている(図５－３)。

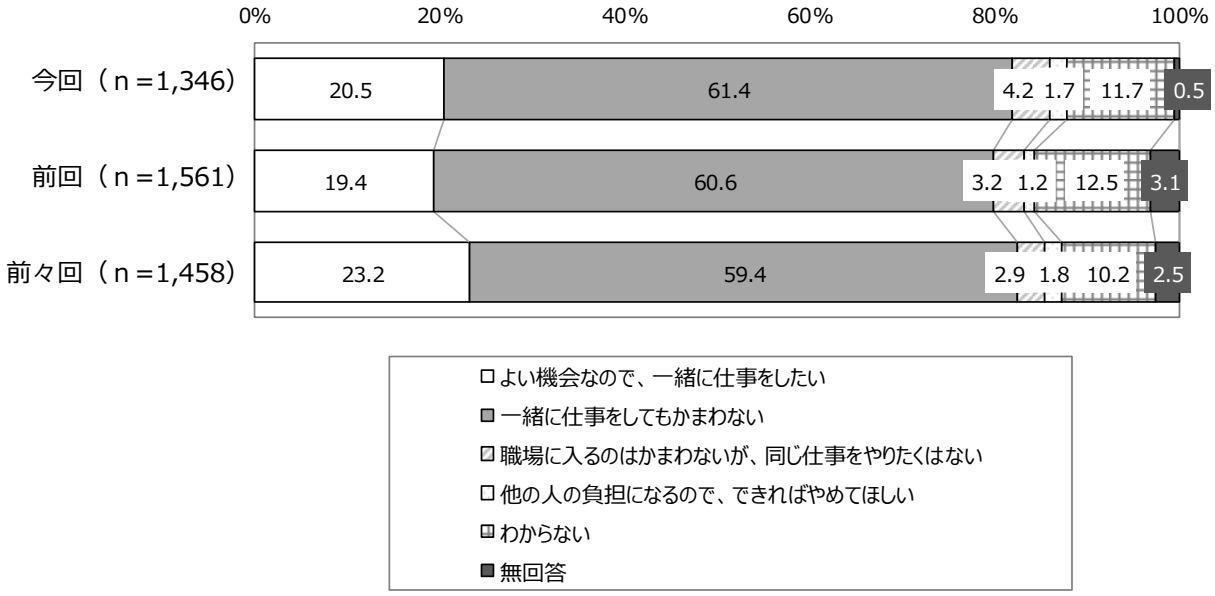
図５－３　障害のある人たちの人権問題（被差別経験の有無別）[上位５項目]



５－２　職場で、障害のある人とない人が一緒に働く場合の対応

問１６　職場で、障害のある人とない人が一緒に働く場合、あなたならどうしますか。
(○は１つだけ)

図５－４　職場で、障害のある人とない人が一緒に働く場合の対応



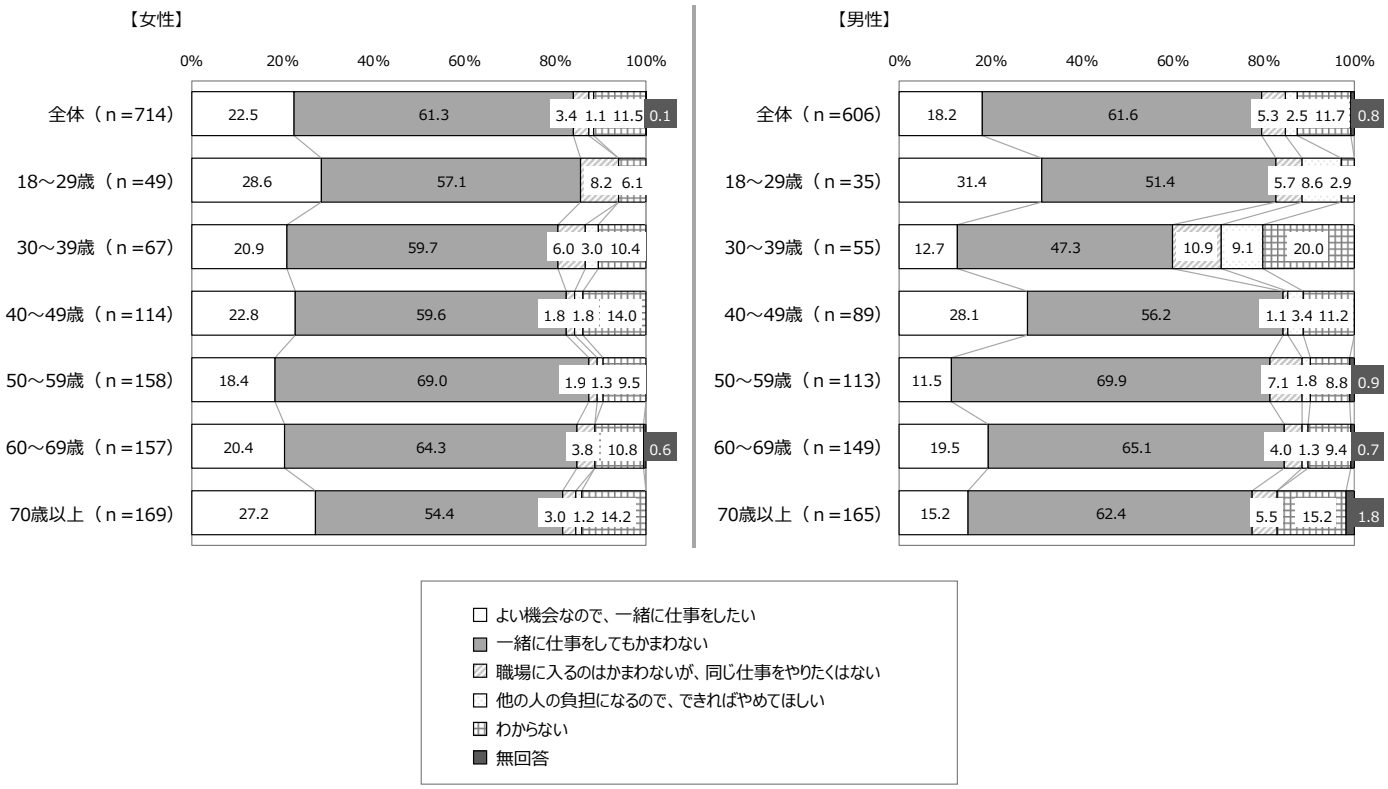
職場で、障害のある人とない人が一緒に働く場合の対応について、「一緒に仕事をしてもかまわない」が61.4%で最も高く、次いで「よい機会なので、一緒に仕事をしたい」の20.5%となっており、前回と同様の結果で大きな増減もみられなかった。

なお、「職場に入るのはかまわないが、同じ仕事はやりたくない」と「他の人の負担になるので、できればやめてほしい」においても同様の結果となった(図５－４)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

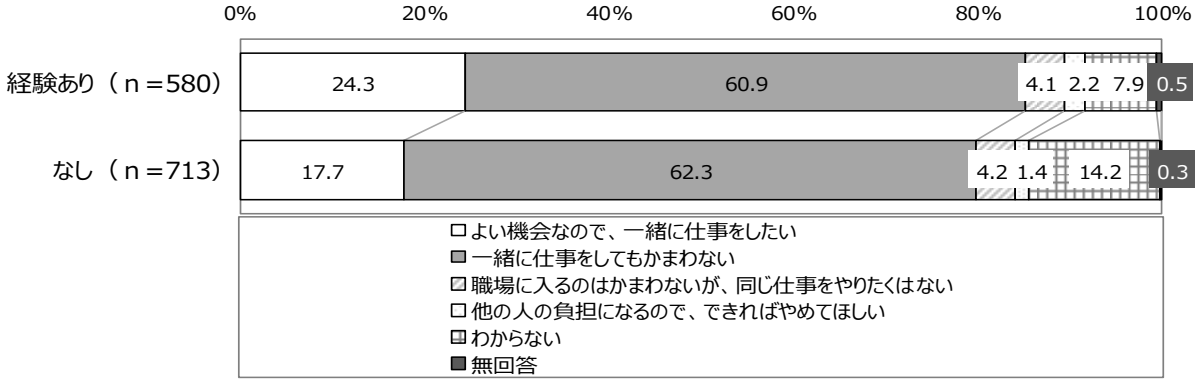
性・年代別でみると、「よい機会なので、一緒に仕事をしたい」は男女ともに 18~29 歳が最も高くなっている。「職場に入るのはかまわないが、同じ仕事をやりたくはない」は全体的に低い割合ではあるが、男性の 30~39 歳が 10%を超えて、他の年代より高い割合となっている(図５－５)。

図５－５　職場で、障害のある人とない人が一緒に働く場合の対応（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、「よい機会なので、一緒に仕事をしたい」と「一緒に仕事をしてもかまわない」を合わせた“一緒に仕事をしてもよい”の割合は被差別経験のある人で 85.2%、被差別経験のない人で 80.0%と 5.2 ポイントの差が生じている。また、「わからない」では、被差別経験のない人で 14.2%と、被差別経験のある人の 7.9%より 6.3 ポイント高くなっている(図５－６)。

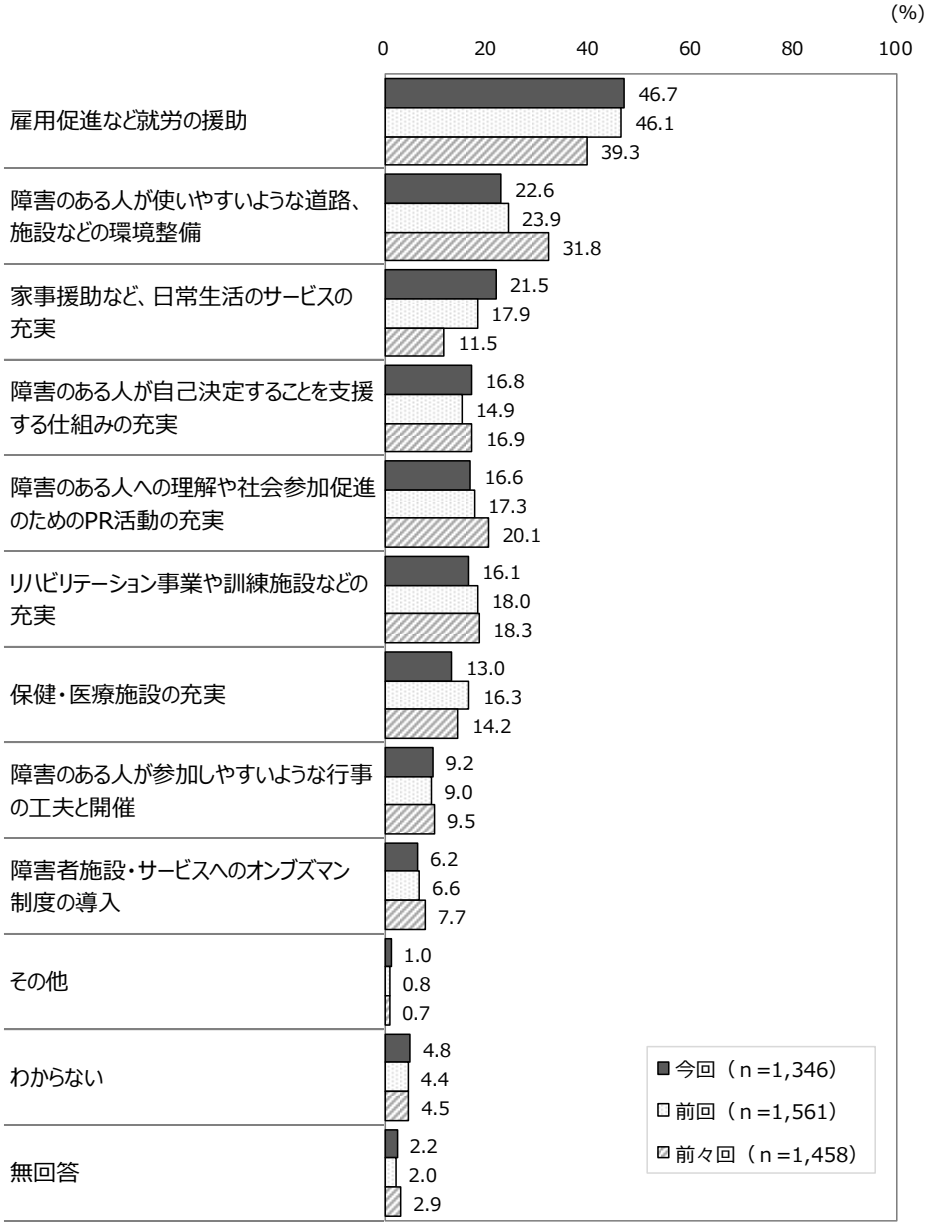
図５－６　職場で、障害のある人とない人が一緒に働く場合の対応（被差別経験の有無別）



５－３　障害のある人たちの人権を守るための行政への要望

問１７　障害のある人たちの人権を守るため、行政はどのようなことを行えばよいでしょうか。
特に大切だと思うものを選んでください。(○は２つまで)

図５－７　障害のある人たちの人権を守るための行政への要望

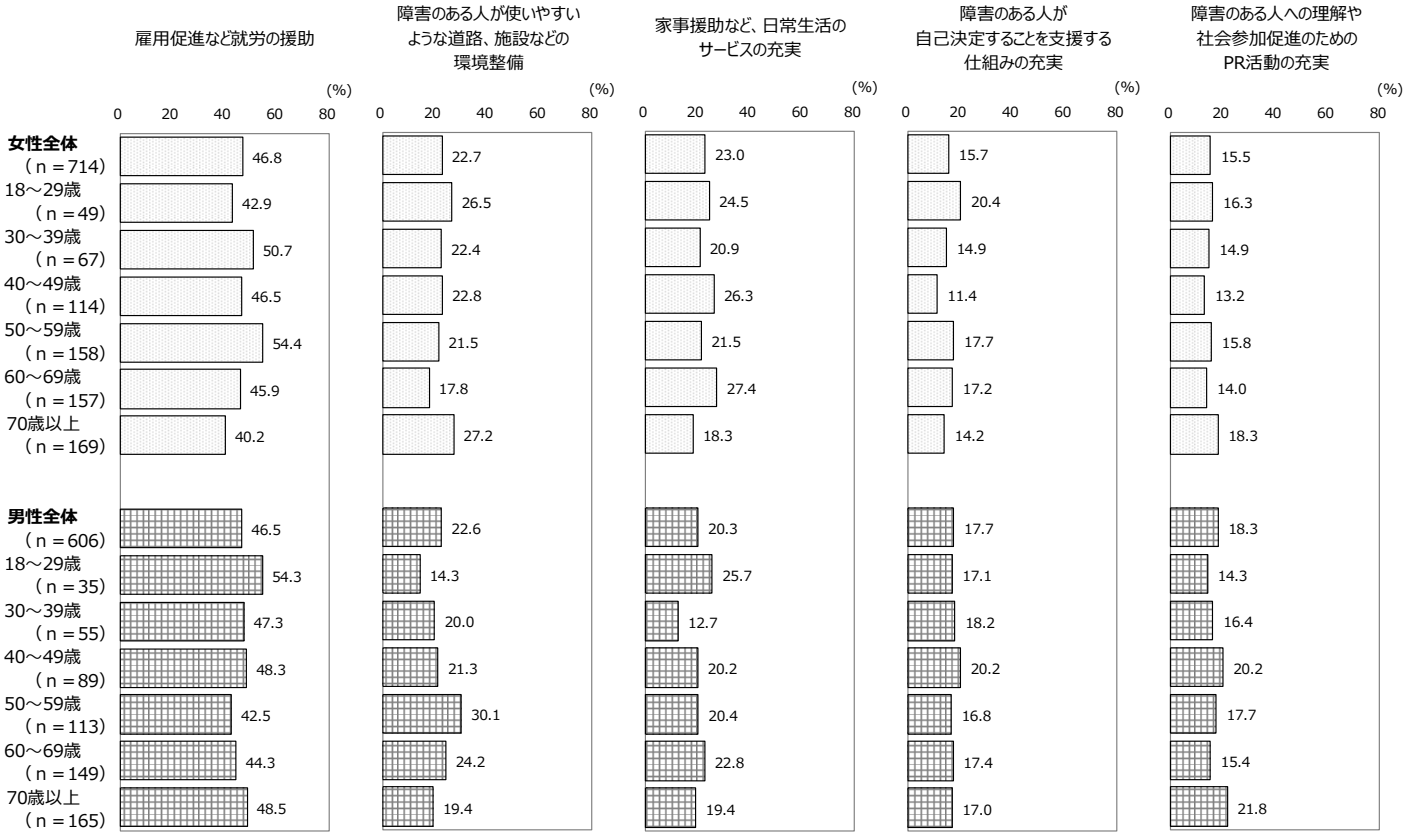


障害のある人たちの人権を守るための行政への要望について、「雇用促進など就労の援助」が 46.7%で最も高く、次いで、「障害のある人が使いやすいような道路、施設などの環境整備」が 22.6%、「家事援助など、日常生活のサービスの充実」は 21.5%と続いた。前回調査と比べると、「家事援助など、日常生活のサービスの充実」は 3.6 ポイント高くなり、「保健・医療施設の充実」は 3.3 ポイント低くなっている(図５－７)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「雇用促進など就労の援助」は女性の 30~39 歳と 50～59 歳、男性の 18~29 歳で割合が高くなり、50%を超えている。「家事援助など、日常生活のサービスの充実」では男性の 30~39 歳が 12.7%と他の年代より低くなっている（図５－８）。

図５－８　障害のある人たちの人権を守るための行政への要望（性別、性・年代別）[上位５項目]

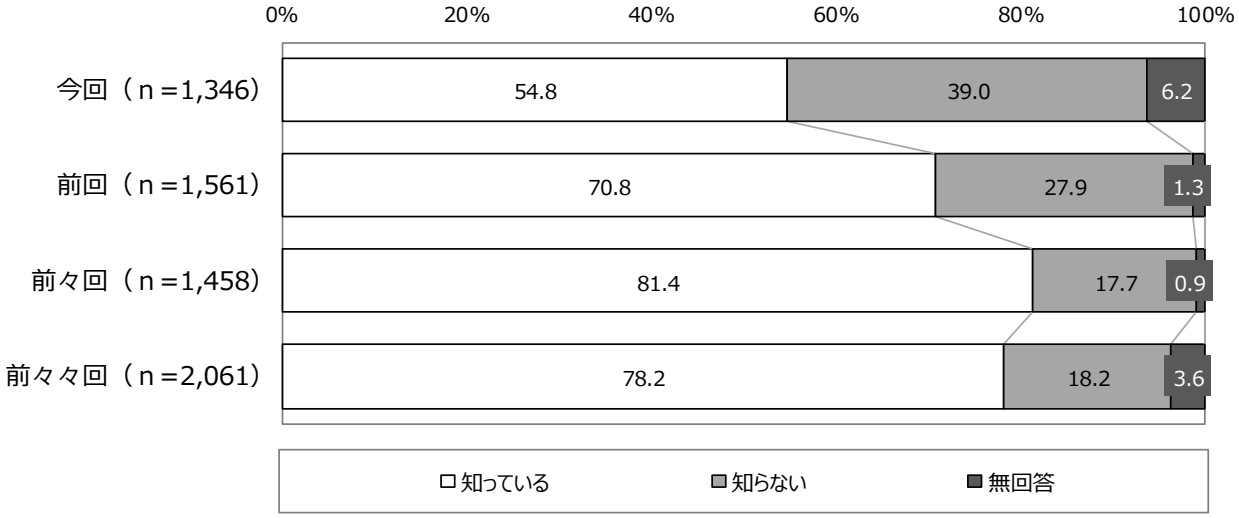


第６章　同和問題について

６－１　同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』の認知状況

問１８　あなたは、県内に同和地区(部落)と呼ばれている地区があること、あるいは「同和問題（部落差別問題）」などがあるのを知っていますか。(○は１つだけ)

図６－１　同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』の認知状況



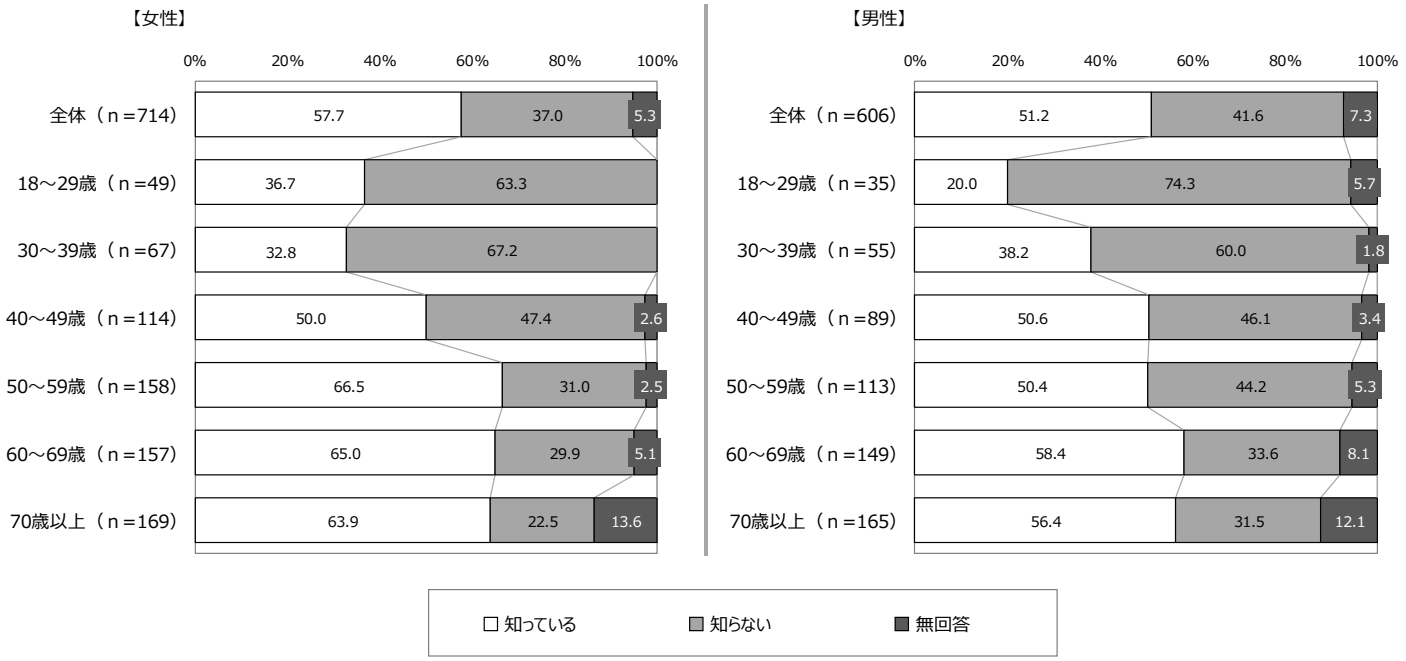
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』の認知状況について、「知っている」が54.8%、「知らない」が39.0%となっている。

前回から今回にかけては「知っている」が 16.0 ポイント低くなる一方、「知らない」は 11.1 ポイント高くなっており、前々回から同様の傾向が続いている(図６－１)。

性別でみると、「知っている」は女性の 57.7%が男性の 51.2%より 6.5 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男女ともに年代が下がるほど「知らない」の割合が高くなる傾向がみられ、18~29 歳から 30～39 歳においては 60%以上となり、「知らない」が「知っている」を上回っている。認知度の高い年代は、男女とも 40~49 歳より上の年代で、50%を超えている。（図６－２）。

図６－２ 同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』の認知状況（性別、性･年代別）

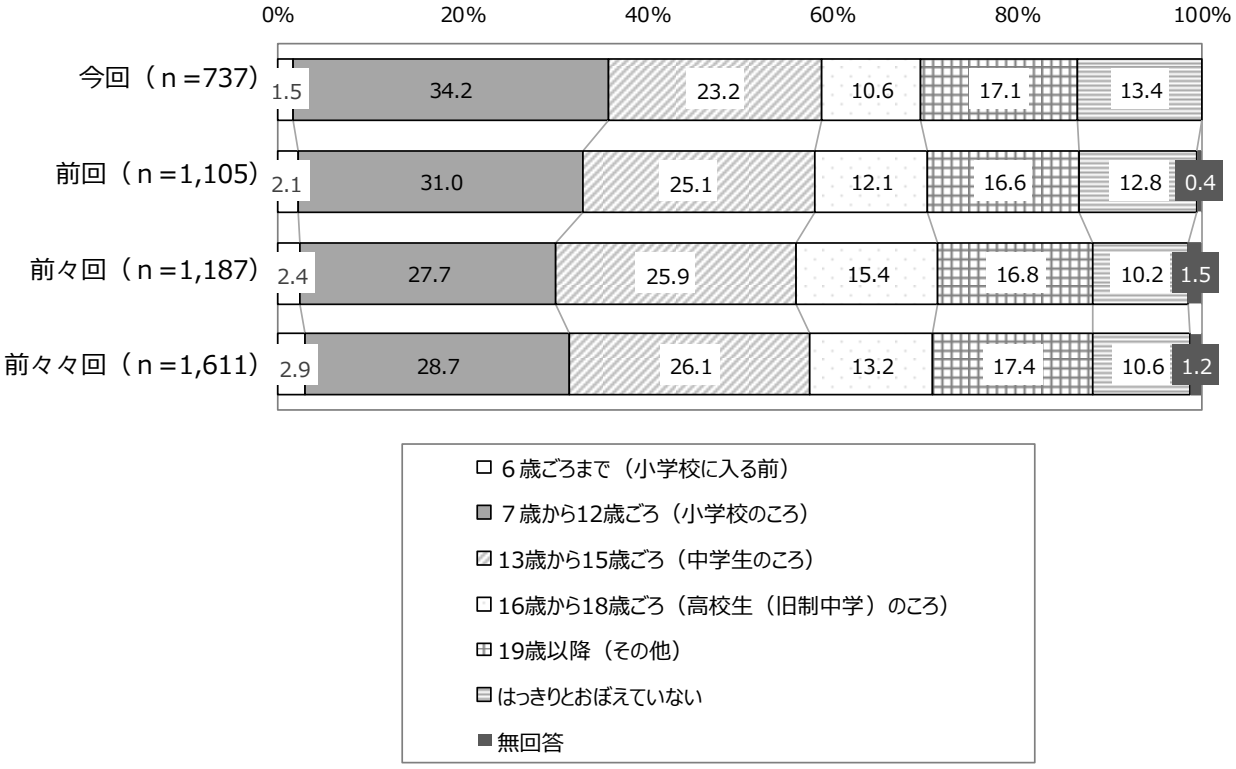


６－２　同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』の認知時期

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－１　あなたが、同和地区や同和問題について、はじめて知ったのは、いつごろですか。(○は１つだけ)

図６－３　同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』の認知時期



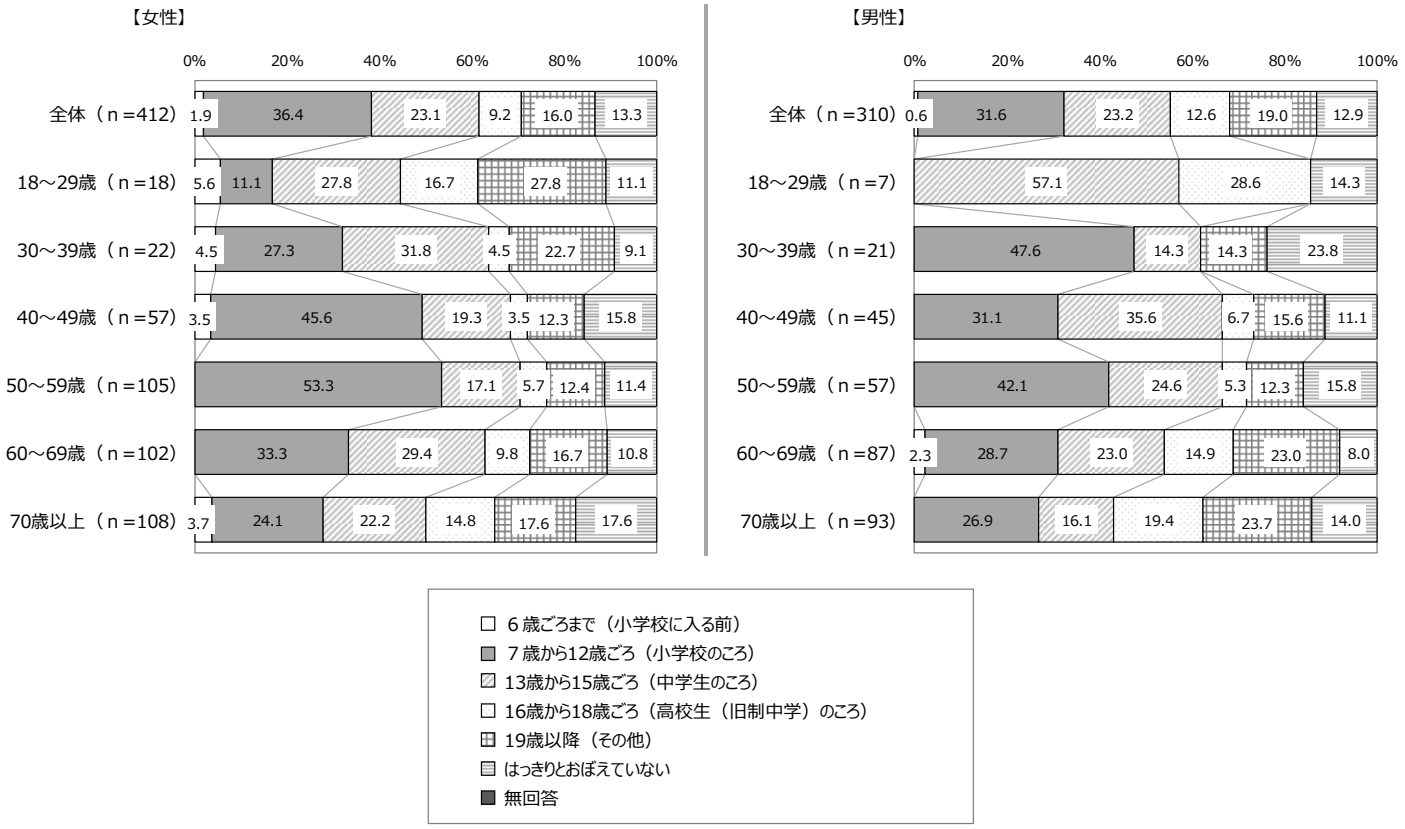
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人(全体の 54.8%)に、認知した時期を聞いたところ、「7 歳から 12 歳ごろ(小学生のころ)」が 34.2%で最も高く、次いで高い「13 歳から 15 歳ごろ(中学生のころ)」の 23.2%を合わせると、半数を超える 57.4%の人が、小中学生のころに知る機会があったといえる。

認知する時期は、前々回、前回と比較しても大きな変化はみられない(図６－３)。

性別でみると、女性では「7 歳から 12 歳ごろ(小学生のころ)」の割合が男性よりもやや高く、男性では「16 歳から 18 歳ごろ（高校生（旧制中学）のころ）」の割合が女性よりもやや高くなっているが、大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「7 歳から 12 歳ごろ(小学生のころ)」では女性の 40~49 歳から 50~59 歳、男性の 30~39 歳と 50~59 歳の割合が高くなっており、40%以上となっている(図６－４)。

図６－４　同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』の認知時期（性別、性･年代別）

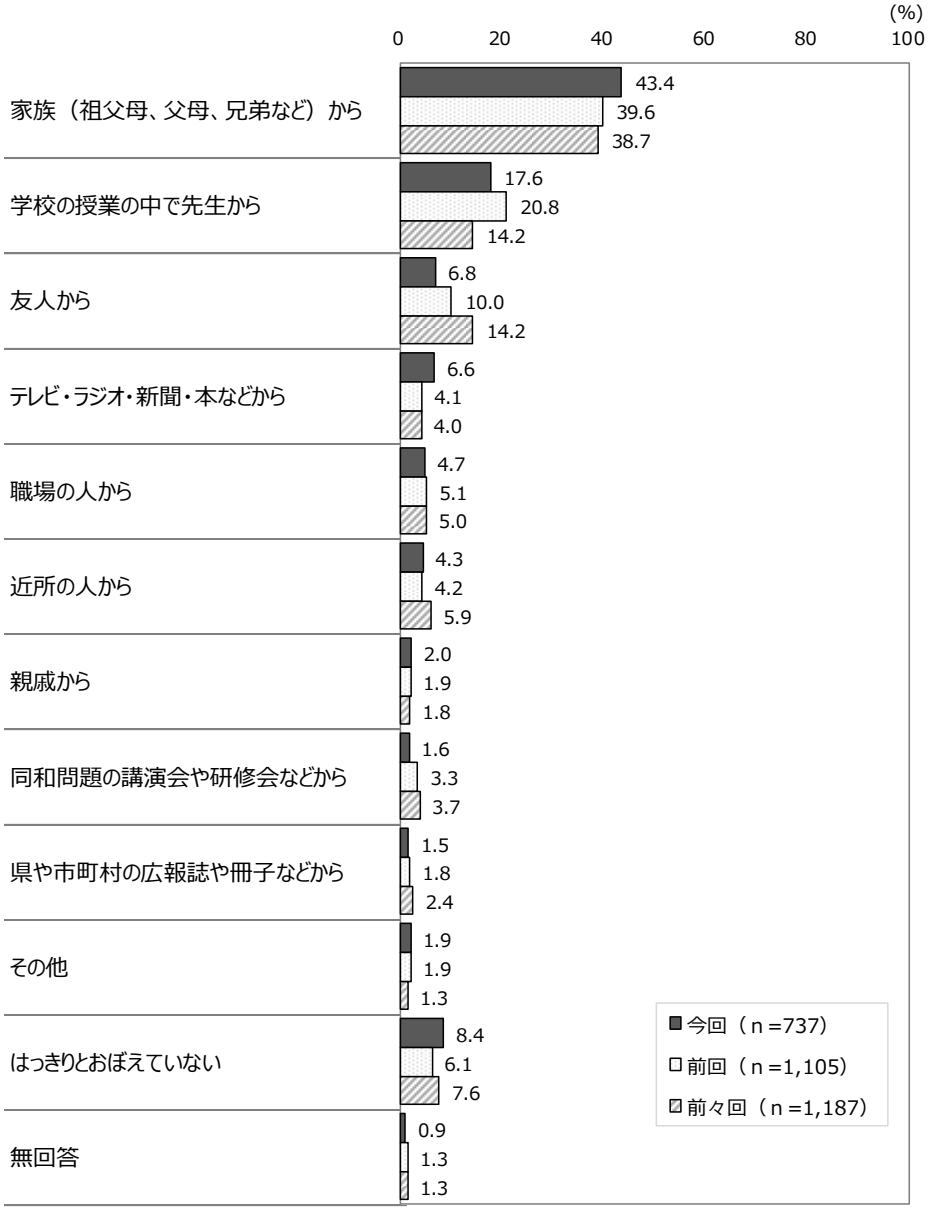


６－３　同和問題を認識したきっかけ

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－２　あなたが、いわゆる同和地区が県内にあることや、同和問題について、はじめて知ったきっかけは何ですか。(○は１つだけ)

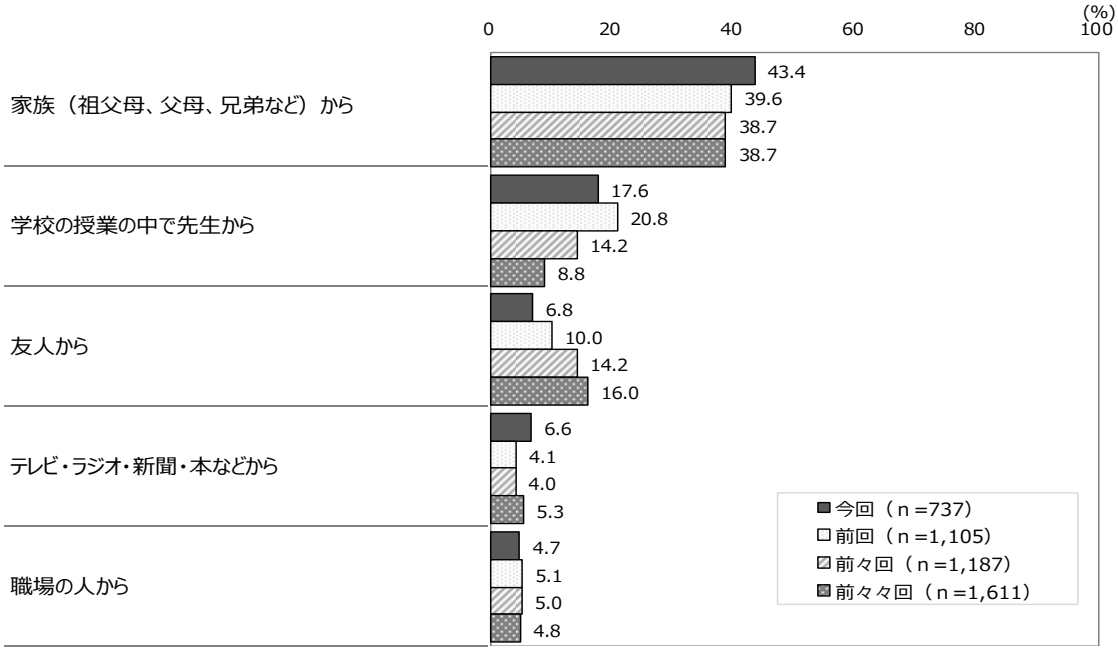
図６－５　同和問題を認識したきっかけ



同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、認識したきっかけを聞いたところ、「家族(祖父母、父母、兄弟など)から」が 43.4%で最も高く、前回から 3.8 ポイント高くなっている。次いで、「学校の授業の中で先生から」が 17.6%で続き、前回より 3.2 ポイント低くなっている。また、「友人から」は 6.8%で、前回より 3.2 ポイント低い(図６－５)。

上位５項目を経年で比較すると、最も高い「家族(祖父母、父母、兄弟など)から」は高くなる傾向がみられ、「友人から」の割合は低くなる傾向がみられる(図６－６)。

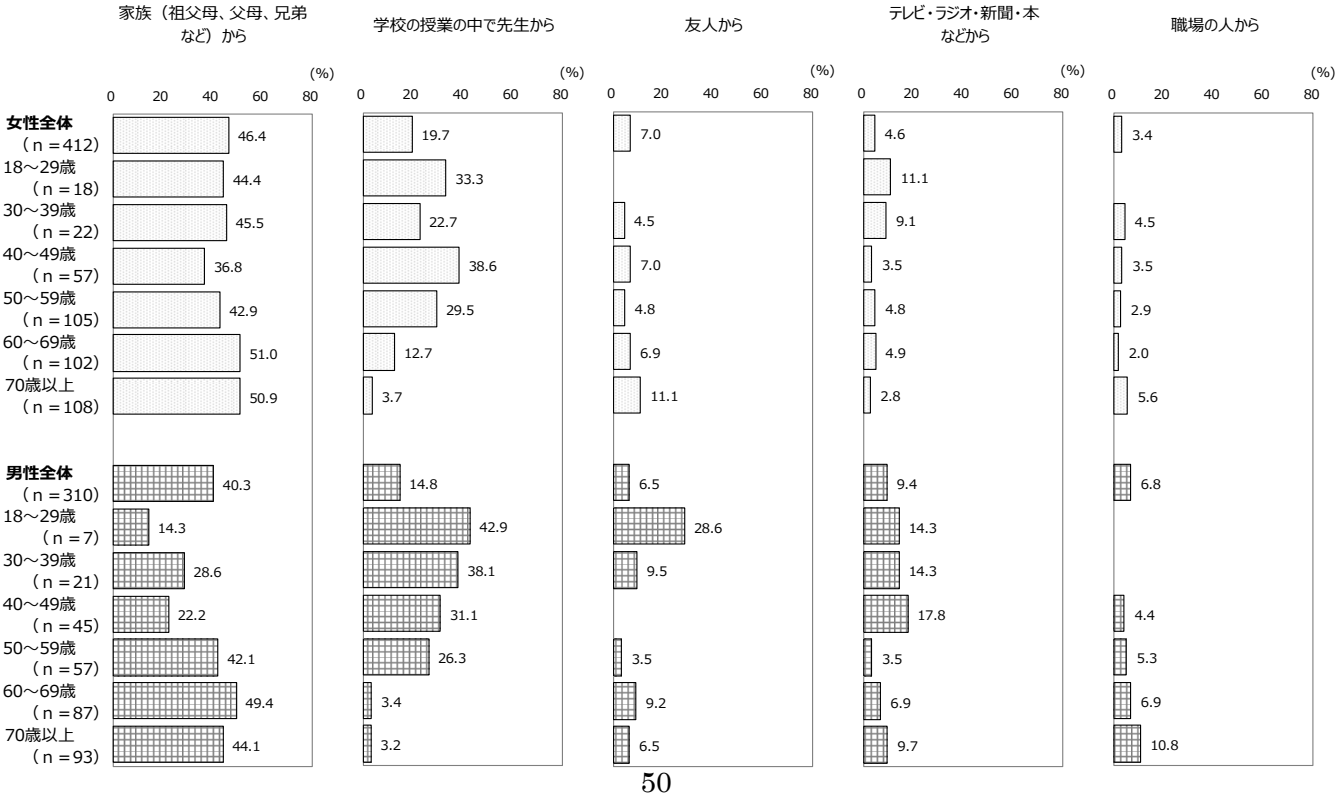
図６－６　同和問題を認識したきっかけ（前回、前々回、前々々回との比較）[上位５項目]



性別でみると、「家族（祖父母、父母、兄弟など）から」と「学校の授業の中で先生から」は女性が男性より高くなり、「テレビ・ラジオ・新聞・本などから」と「職場の人から」は男性が女性より高くなっている。

性・年代別でみると、「学校の授業の中で先生から」は女性の 70 歳以上と男性の 60~69 歳から 70 歳以上で 3%台と極端に低い割合となっている(図６－７)。

図６－７　同和問題を認識したきっかけ（性別、性･年代別）[上位５項目]



同和問題の認知時期別でみると、認知時期に関係なく、知るきっかけは「家族(祖父母、父母、兄弟など)から」の割合が最も高くなっている。また、「７歳から 12 歳ごろ（小学生のころ）」から「13 歳から 15 歳ごろ(中学生のころ)」までは、「学校の授業の中で先生から」の割合が高くなるが、「16 歳から 18 歳ごろ(高校生(旧制中学)のころ)」では「友人から」の割合が高くなり、「19 歳以降(その他)」では「職場の人から」の割合が高くなる(表３)。

表３　同和問題を認識したきっかけ（同和問題の認知時期別）

上段：件数 下段：%		n数	問18-２　同和問題を認識したきっかけ											
			家族（祖父母、父母、兄弟など）から	親戚から	友人から	近所の人から	学校の授業の中で先生から	職場の人から	テレビ・ラジオ・新聞・本などから	県や市町村の広報誌や冊子などから	同和問題の講演会や研修会などから	その他	はっきりとおぼえていない	無回答
問18-１　同和地区（部落）や『同和問題』『部落差別』の認知時期	６歳ごろまで（小学校に入る前）	11	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
		100.0	81.8	-	9.1	-	-	-	-	-	-	-	9.1	-
	７歳から12歳ごろ（小学生のころ）	252	132	3	6	10	82	-	6	-	-	3	9	1
		100.0	52.4	1.2	2.4	4.0	32.5	-	2.4	-	-	1.2	3.6	0.4
	13歳から15歳ごろ（中学生のころ）	171	77	2	13	9	37	-	15	3	1	-	11	3
		100.0	45.0	1.2	7.6	5.3	21.6	-	8.8	1.8	0.6	-	6.4	1.8
	16歳から18歳ごろ（高校生（旧制中学）のころ）	78	27	2	15	4	6	3	5	3	3	2	7	1
		100.0	34.6	2.6	19.2	5.1	7.7	3.8	6.4	3.8	3.8	2.6	9.0	1.3
	19歳以降（その他）	126	44	4	13	3	1	27	10	3	6	9	5	1
		100.0	34.9	3.2	10.3	2.4	0.8	21.4	7.9	2.4	4.8	7.1	4.0	0.8
	はっきりとおぼえていない	99	31	4	2	6	4	5	13	2	2	-	29	1
		100.0	31.3	4.0	2.0	6.1	4.0	5.1	13.1	2.0	2.0	-	29.3	1.0

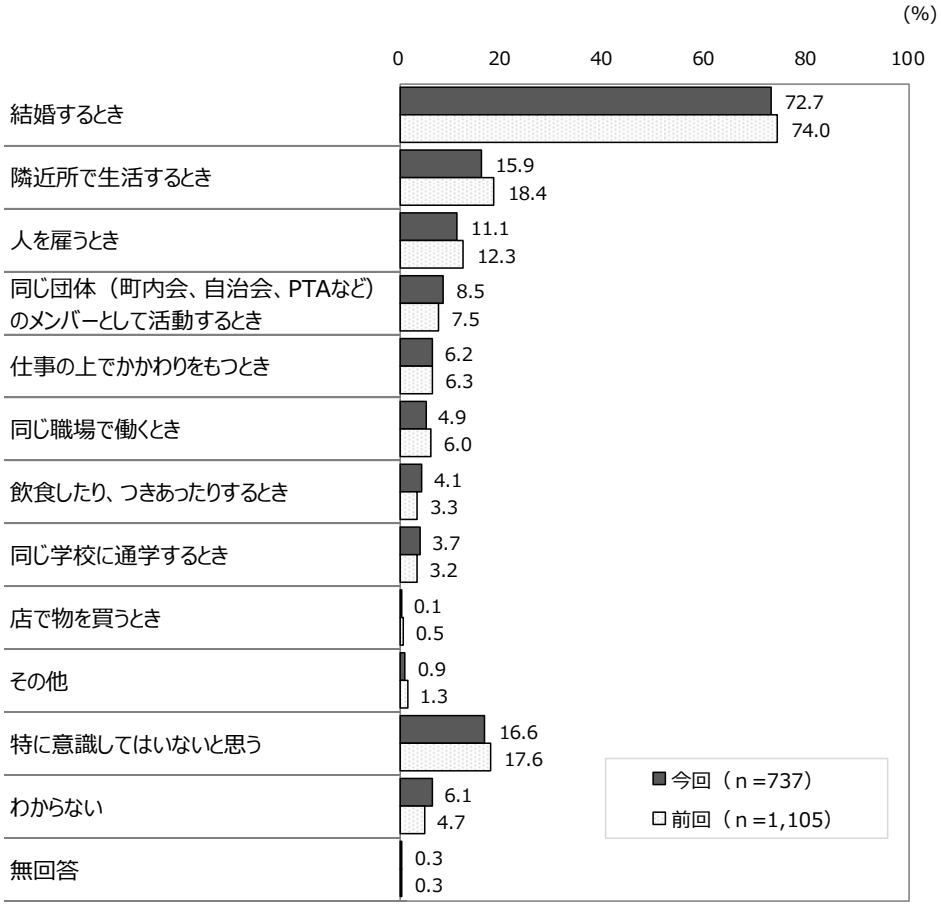
※上位２項目を色塗り

６－４　世間の人たちが同和地区の人のことを意識していると思う場合

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－３　あなたは、世間の人々が、どういう場合に同和問題を気にしたり、意識しているとお考えですか。(○はあてはまるものすべて)

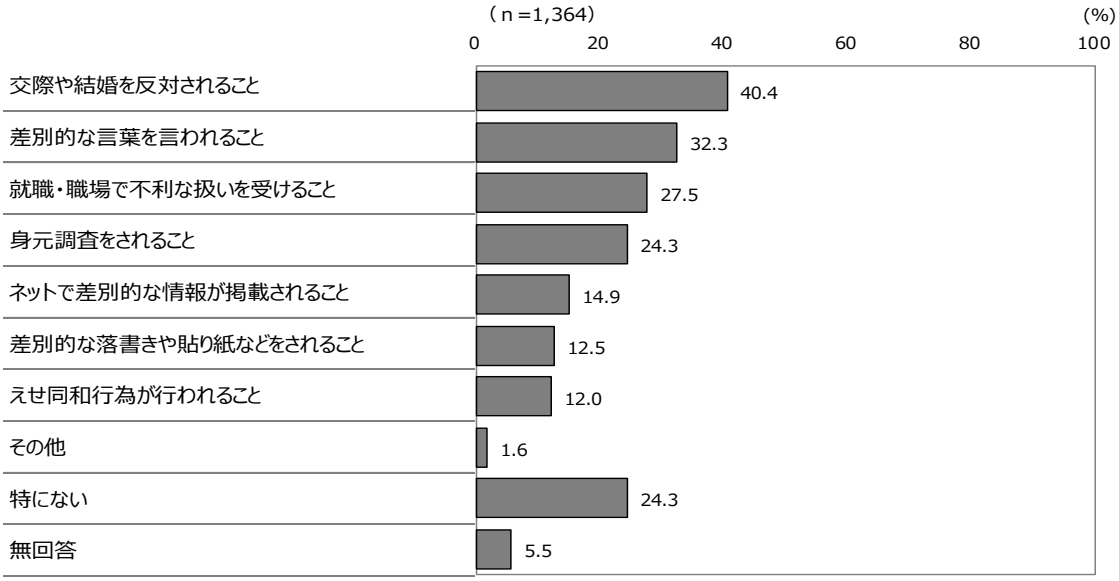
図６－８　世間の人たちが同和地区の人のことを意識していると思う場合



同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、世間の人たちが同和地区の人のことを意識していると思う場合について聞いたところ、「結婚するとき」が72.7%で他の項目より突出して高い割合となっている。次いで、「隣近所で生活するとき」15.9%、「人を雇うとき」11.1%で続き、それぞれ10%を超える割合となっている。また、「特に意識してはいないと思う」も16.6%で10%を超える割合となっている(図６－８)。

参考として、国調査『同和問題でどのような人権問題が起きていると思うか』の結果と比較すると、「交際や結婚を反対されること」が40.4%で最も高く、今回の調査と同様に同和問題は“結婚”に強く関係するイメージを持っている人が多いことがうかがえる（図６－９)。

図６－９　参考）同和問題でどのような人権問題が起きていると思うか【国調査（R4）】

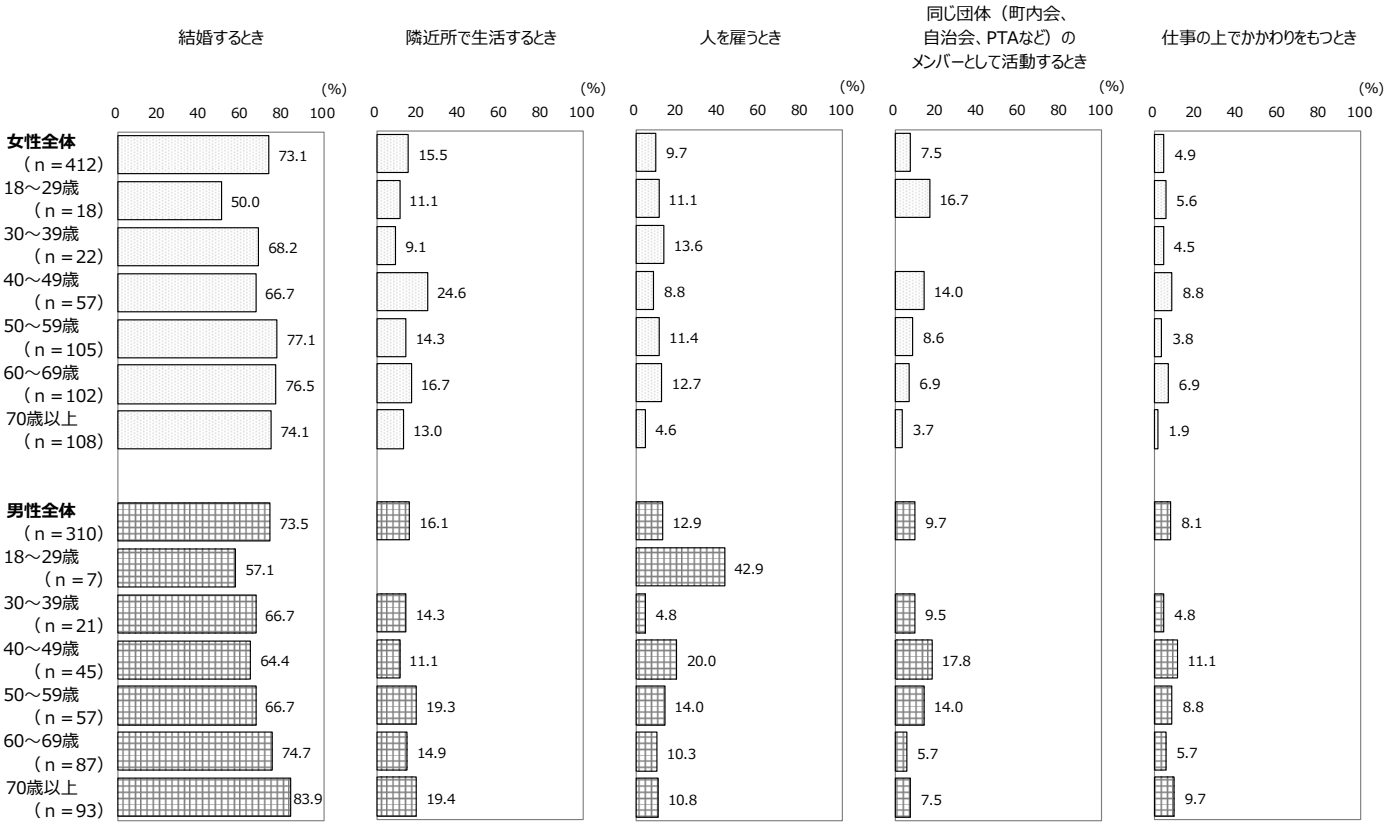


性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「結婚するとき」において、男女ともに年代が上がるにつれて割合が高い傾向がみえる。特に女性では 50~59 歳から 70 歳以上、男性は 60~69 歳から 70 歳以上で 70%以上となっている（図６－１０）。

図６－１０　世間の人たちが同和地区の人のことを意識していると思う場合（性別、性・年代別）

[上位５項目]

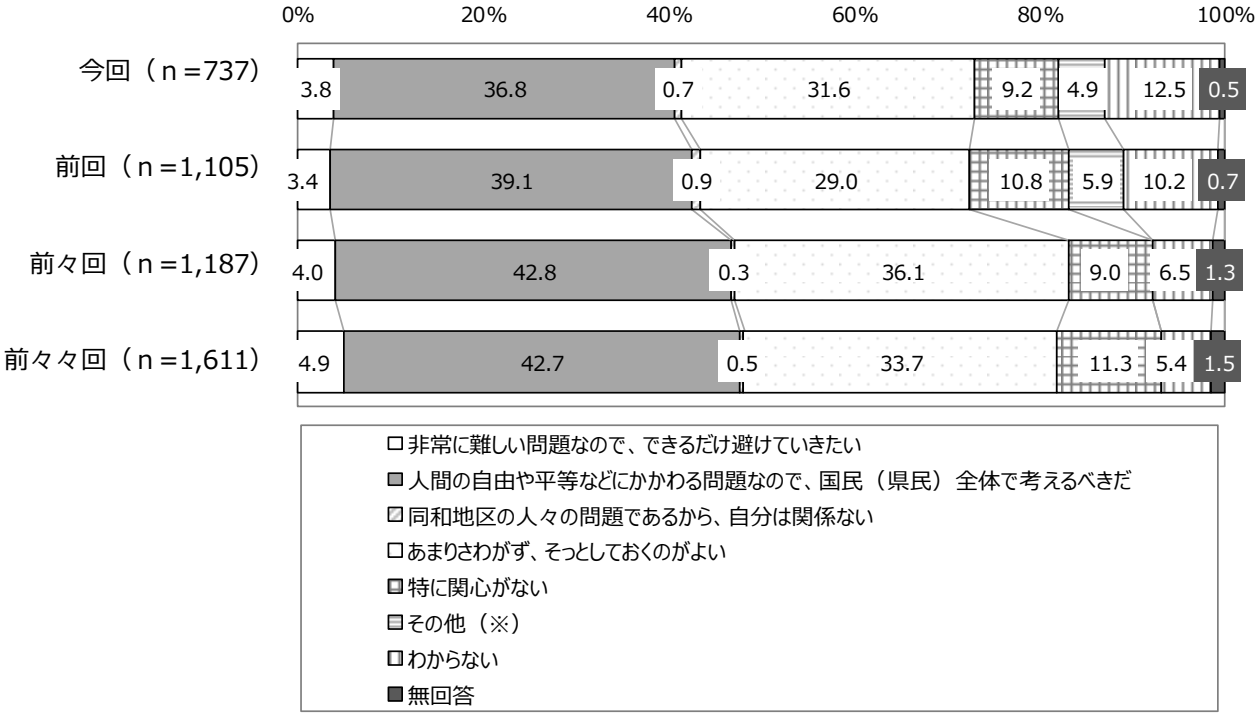


６－５　同和地区や同和問題についての考え方

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－４　同和問題について、あなたはどう考えますか。あなたのお考えにいちばん近いものを選んでください。(○は１つだけ)

図６－１１　同和地区や同和問題についての考え方



※「その他」は前回より追加

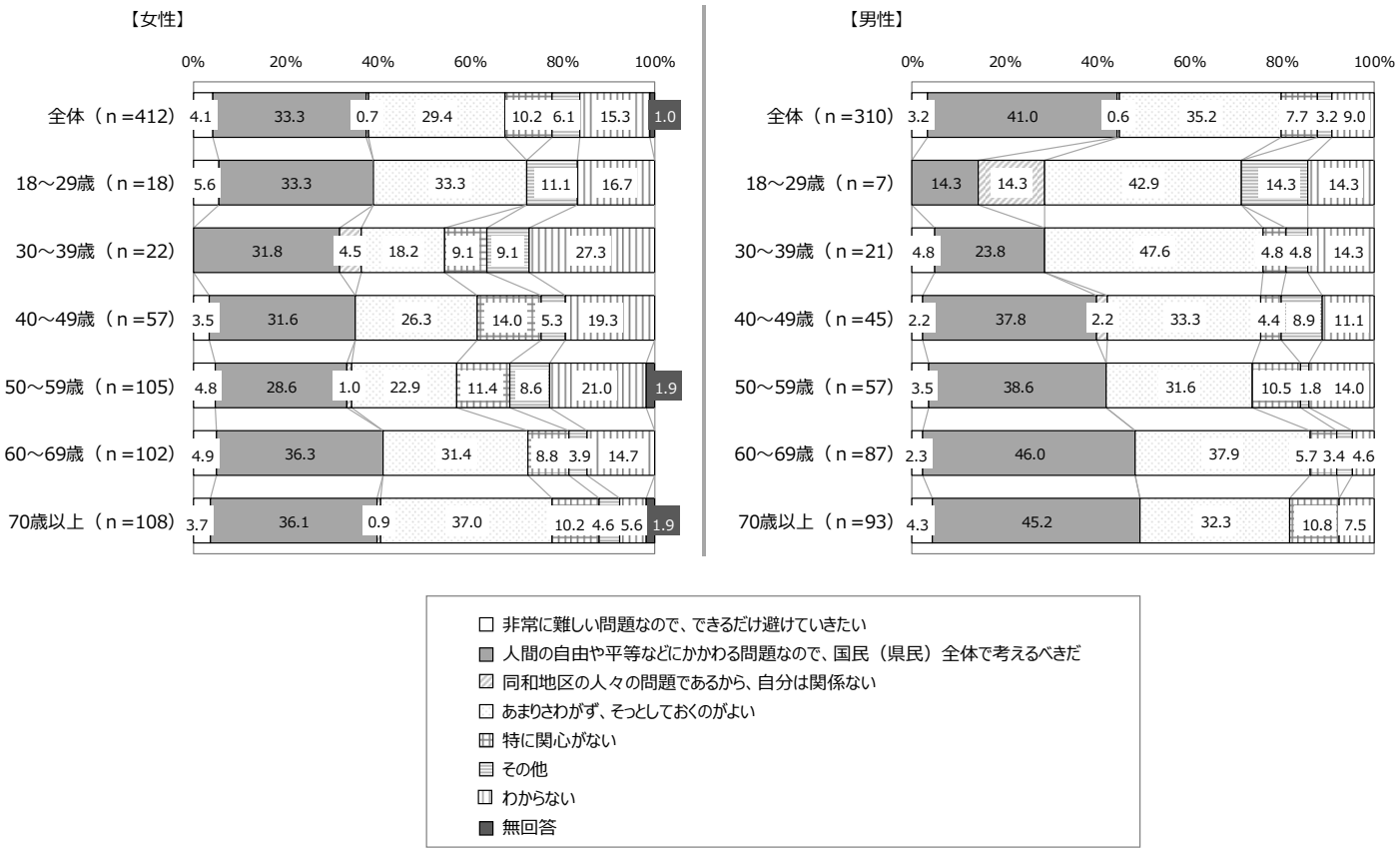
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に同和地区や同和問題の考え方について聞いたところ、「人間の自由や平等などにかかわる問題なので、国民(県民)全体で考えるべきだ」が 36.8%で最も高くなっているが、前回よりは 2.3 ポイント低い。次いで、「あまりさわがず、そっとしておくのがよい」が 31.6%で続くが、こちらは前回より 2.6 ポイント高くなっている。

一方、「わからない」とする回答が前々々回以降、調査ごとに高くなる傾向がみられる(図６－１１)。

性別でみると、男性では「人間の自由や平等などにかかわる問題なので、国民(県民)全体で考えるべきだ」が 41.0%で、女性の 33.3%より 7.7 ポイント高い。女性では、「わからない」が 15.3%で、男性の 9.0%より 6.3 ポイント高い。

性・年代別でみると、「あまりさわがず、そっとしておくのがよい」は男性の 30~39 歳では 47.6%で男女各年代を通じても最も高い割合となっている。「わからない」は女性の 70 歳以上、男性の 60~69 歳と 70 歳以上で 10%未満の低い割合となっている（図６－１２)。

図６－１２　同和地区や同和問題についての考え方（性別、性・年代別）

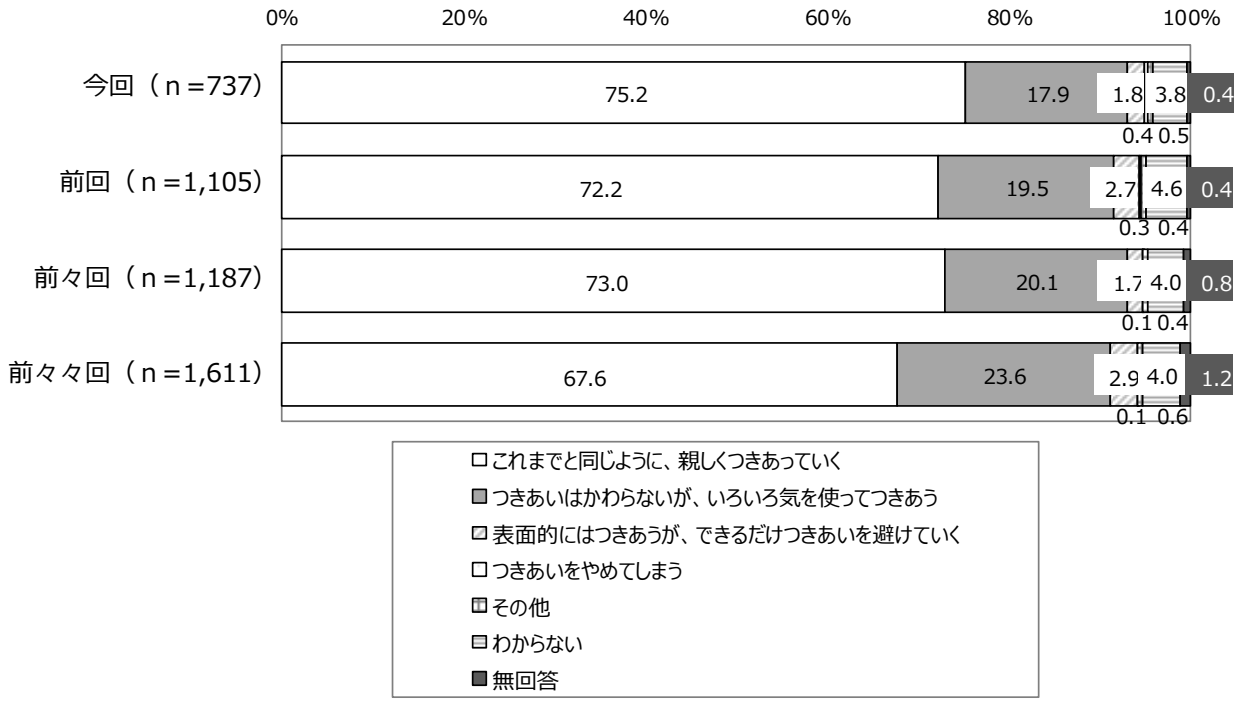


６－６　親しい人が同和地区出身者の場合の対応

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】
問１８－５　あなたは次のような場合、自分はどうするだろうと思いますか。

（１）日頃から親しくつきあっている職場の人や、近所の人がいわゆる同和地区出身の人であることがわかったとき……。次の中からあなたのお気持ちに近いものを選んでください。(○は１つだけ)

図６－１３　親しい人が同和地区出身者の場合の対応



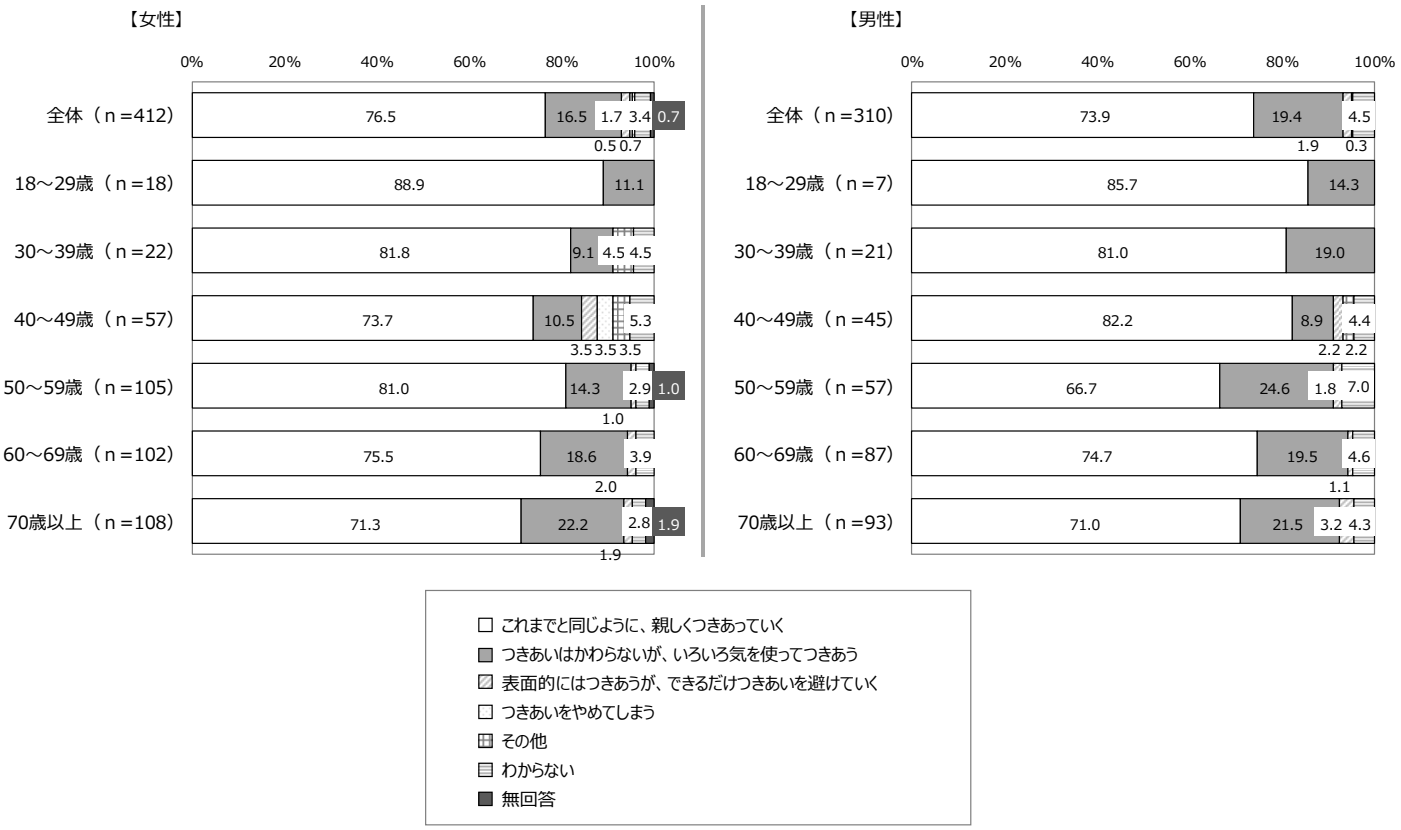
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、親しい人が同和地区出身者であった場合の対応について聞いたところ、「これまでと同じように、親しくつきあっていく」が 75.2%で大半を占める割合となっている。

全体として、前回から今回にかけては、あまり変化はみられない(図６－１３)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、女性では 18~29 歳から 30~39 歳と 50~59 歳、男性では 18~29 歳から 40~49 歳の年代で「これまでと同じように、親しくつきあっていく」が 80%を超える割合となっている。「つきあいはかわらないが、いろいろ気を使ってつきあう」は女性の 30~39 歳、男性の 40~49 歳で 10%未満の低い割合となっている（図６－１４）。

図６－１４　親しい人が同和地区出身者の場合の対応（性別、性・年代別）

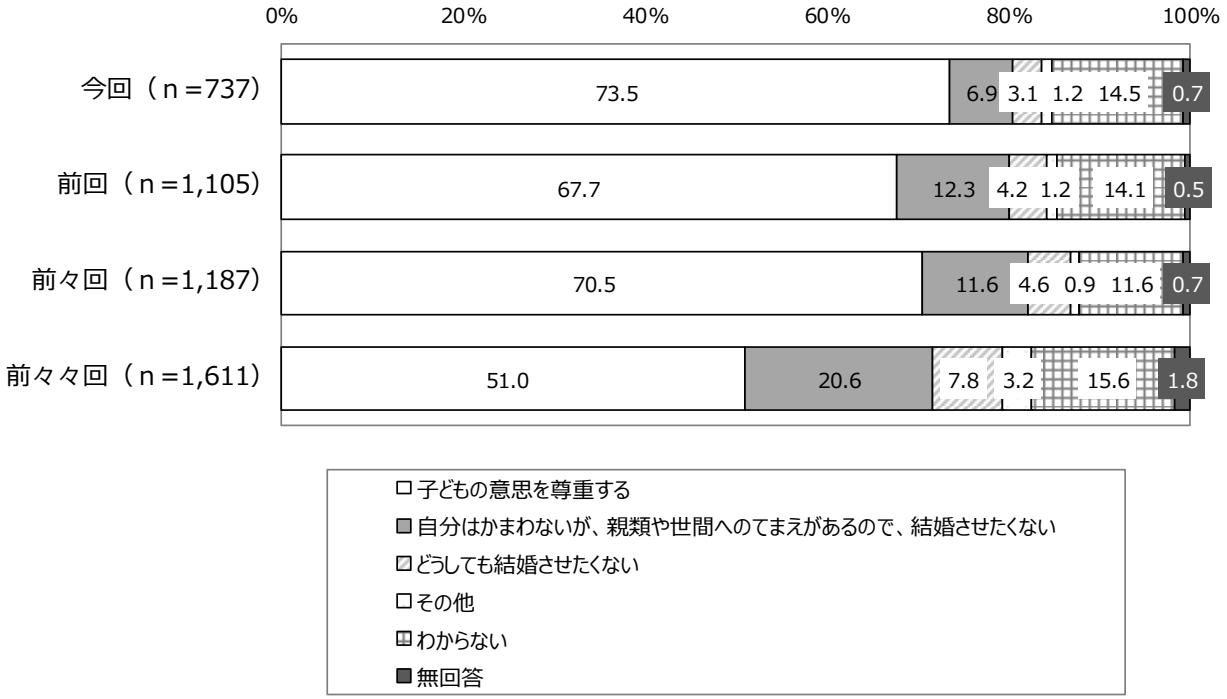


６－７　子どもの結婚相手が同和地区出身者の場合の対応

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】
問１８－５　あなたは次のような場合、自分はどうするだろうと思いますか。

（２）あなたにお子さんがいるとして、そのお子さんが結婚しようとしている相手が、いわゆる同和地区出身の人であることがわかったとき……。次の中からあなたのお気持ちに近いものを選んでください。(○は１つだけ)

図６－１５　子どもの結婚相手が同和地区出身者の場合の対応



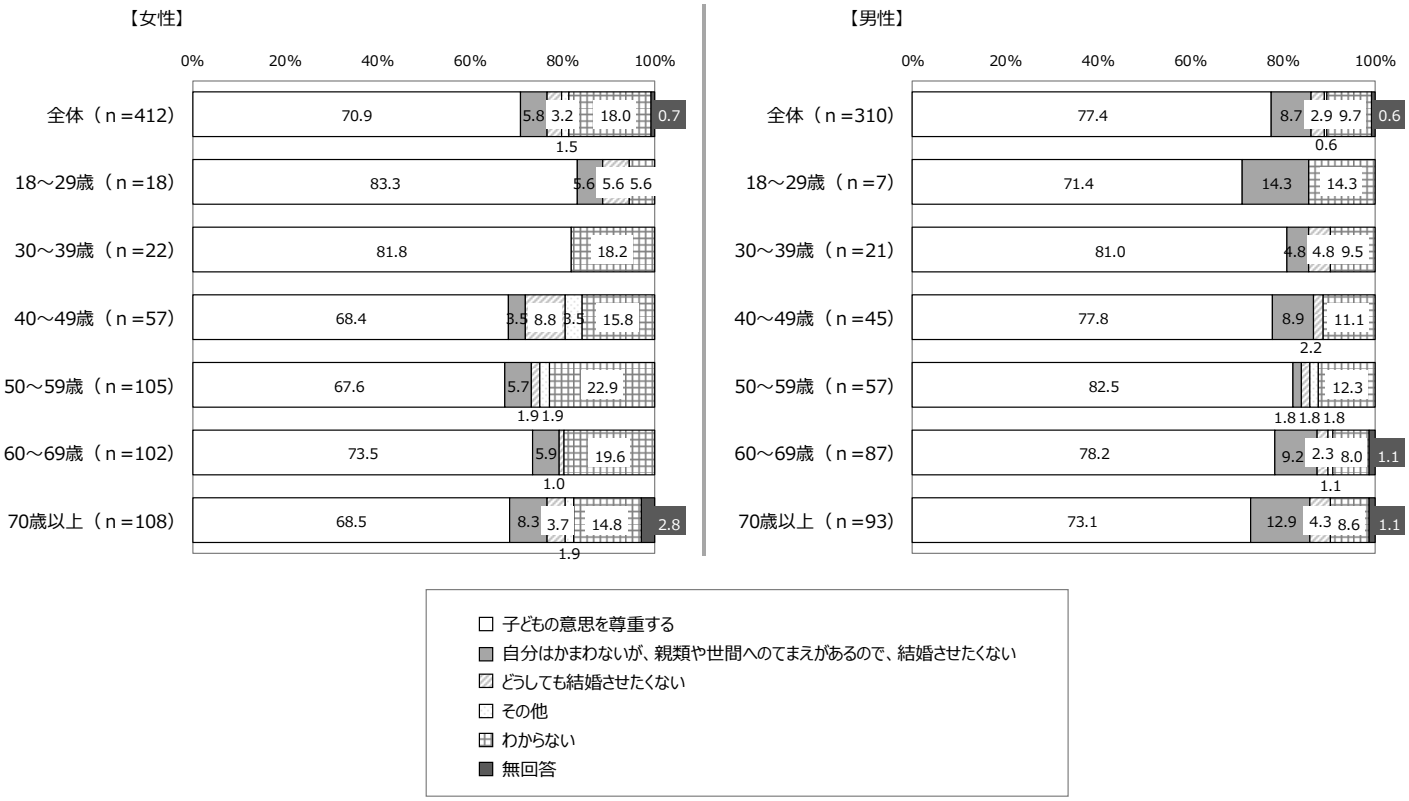
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、子どもの結婚相手が同和地区出身者であった場合の対応について聞いたところ、「子どもの意思を尊重する」が 73.5%で最も高く、前回より 5.8 ポイント高くなっている。次いで高い「自分はかまわないが、親類や世間へのてまえがあるので、結婚させたくない」は 6.9%で前回より 5.4 ポイント低くなっている。

「自分はかまわないが、親類や世間へのてまえがあるので、結婚させたくない」と「どうしても結婚させたくない」の否定的な意見は調査ごとに減少傾向がみられる(図６－１５)。

性別でみると、「子どもの意思を尊重する」が女性で 70.9%、男性で 77.4%と、6.5 ポイントの差が生じている。また、「わからない」では、女性が 18.0%、男性が 9.7%で 8.3 ポイントの差が生じている。

性・年代別でみると、女性では「自分はかまわないが、親類や世間へのてまえがあるので、結婚させたくない」が 40～49 歳以上で年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。また、「わからない」は女性の 30~39 歳から 60~69 歳で高くなっており、特に 50~59 歳では 20%を超えている(図６－１６)。

図６－１６　子どもの結婚相手が同和地区出身者の場合の対応（性別、性・年代別）

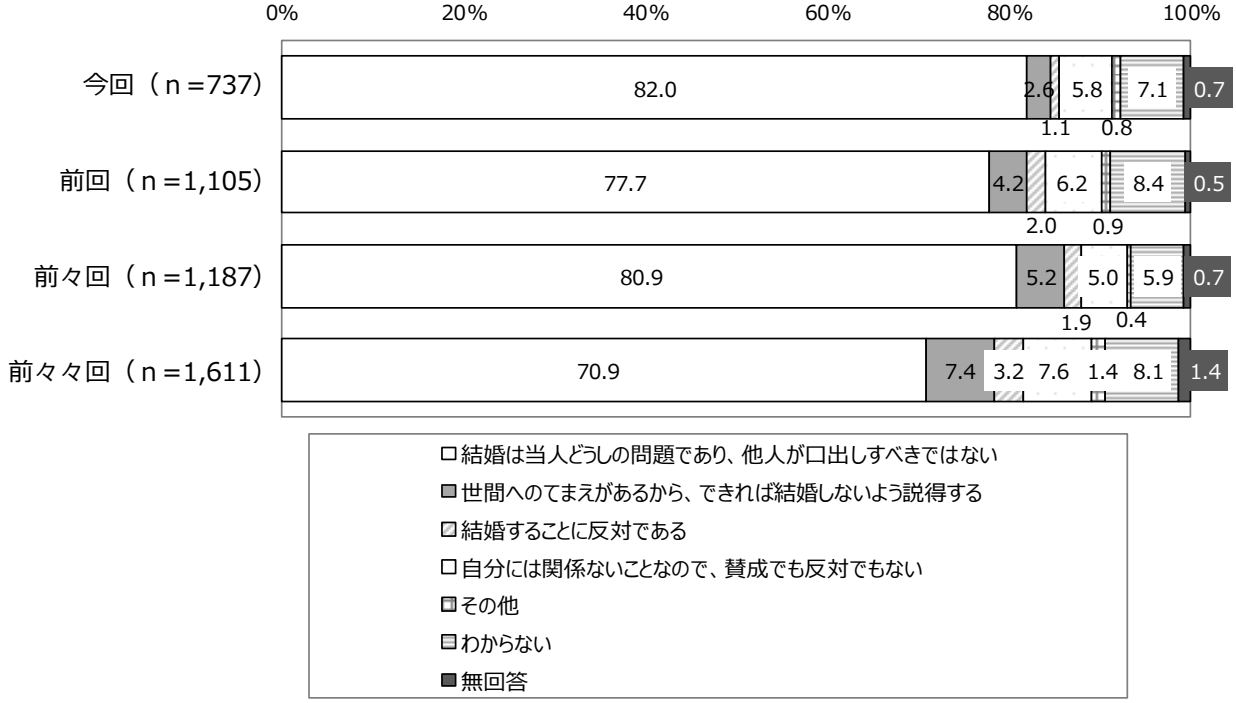


６－８　親類や親しい人の結婚相手が同和地区出身者の場合の対応

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】
問１８－５　あなたは次のような場合、自分はどうするだろうと思いますか。

（３）もし、あなたの親類や親しい人が結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき……。次の中からあなたのお気持ちに近いものを選んでください。(○は１つだけ)

図６－１７　親類や親しい人の結婚相手が同和地区出身者の場合の対応

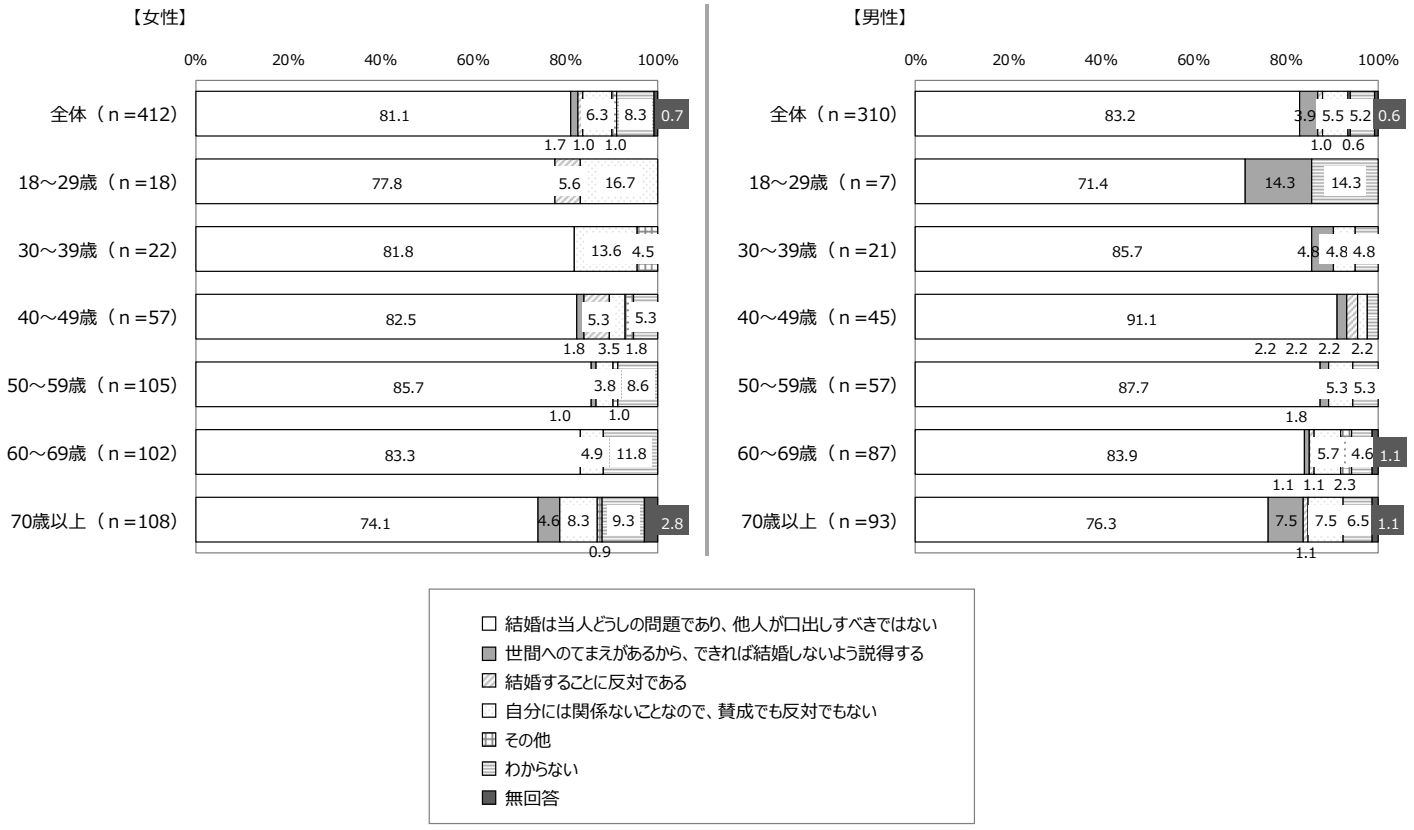


同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、親類や親しい人の結婚相手が同和地区出身者であった場合の対応について聞いたところ、「結婚は当人どうしの問題であり、他人が口出しすべきでない」82.0％で最も高く、前回より 4.3 ポイント高くなっている。全体的に、ほぼ前回と同様の結果であるといえる(図６－１７)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「結婚は当人どうしの問題であり、他人が口出しすべきでない」は男女各年代のすべてにおいて70%以上の割合となっており、特に男性の40~49歳では90%を超えている。女性の18~29歳から30~39歳では「自分には関係のないことなので、賛成でも反対でもない」にそれぞれ 10%以上の回答があり、他の年代より高くなっている(図６－１８)。

図６－１８　親類や親しい人の結婚相手が同和地区出身者の場合の対応（性別、性・年代別）



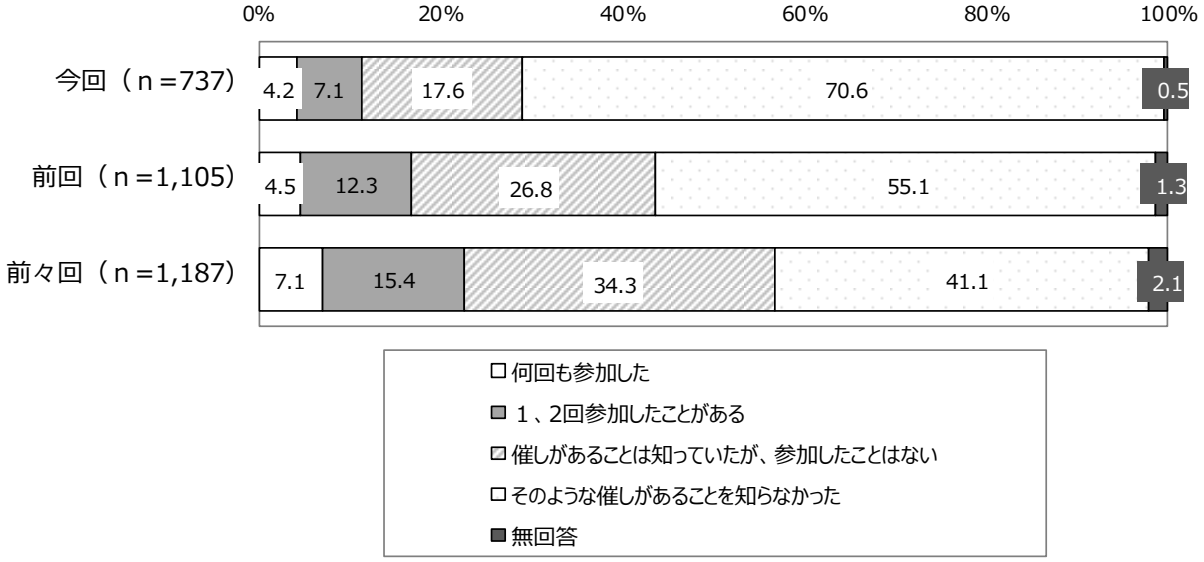
６－９　同和問題の講演会や研修会などへの参加の有無

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－６　県や市町村では、同和問題を解決するために、啓発活動や同和教育を積極的に行っています。このことに関する（１）～（５）のことがらについてお聞きします。

（１）あなたは、県や市町村などで行っている、同和問題の講演会や研修会などに参加したことがありますか。(○は１つだけ)

図６－１９　同和問題の講演会や研修会などへの参加の有無



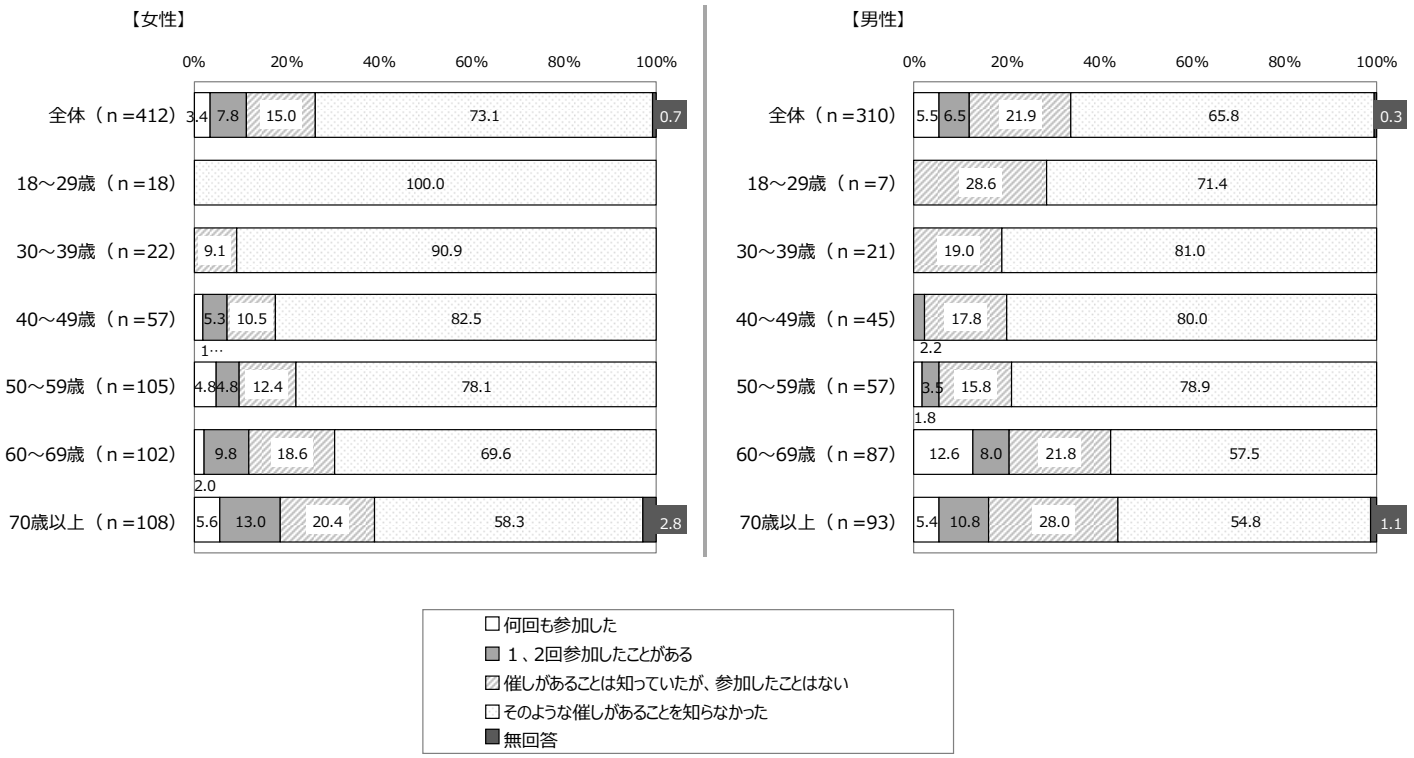
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、同和問題の講演会や研修会などへの参加の有無について聞いたところ、「そのような催しがあることを知らなかった」が 70.6%で過半数を占め、前回より 15.5 ポイント高くなっている。

なお、「催しがあることは知っていたが、参加したことはない」は 17.6%で前回より 9.2 ポイント、「1、2 回参加したことがある」は 7.1%で 5.2 ポイント、それぞれ低くなっている(図６－１９)。

性別でみると、「そのような催しがあることを知らなかった」で女性が 73.1%と、男性の 65.8%より 7.3 ポイント高くなっており、「催しがあることは知っていたが、参加したことがない」で男性が 21.9%と、女性の 15.0%より 6.9 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「そのような催しがあることを知らなかった」は男女ともに 18~29 歳から 50~59 歳にかけて割合が高く、いずれも 70%を超えており、特に女性の 18~29 歳においては 100%に達した。「何回も参加した」は男性の 60~69 歳で高く、「1、2 回参加したことがある」は男女ともに 70 歳以上の年代で高くなり、10%を超えている(図６－２０)。

図６－２０　同和問題の講演会や研修会などへの参加の有無（性別、性・年代別）



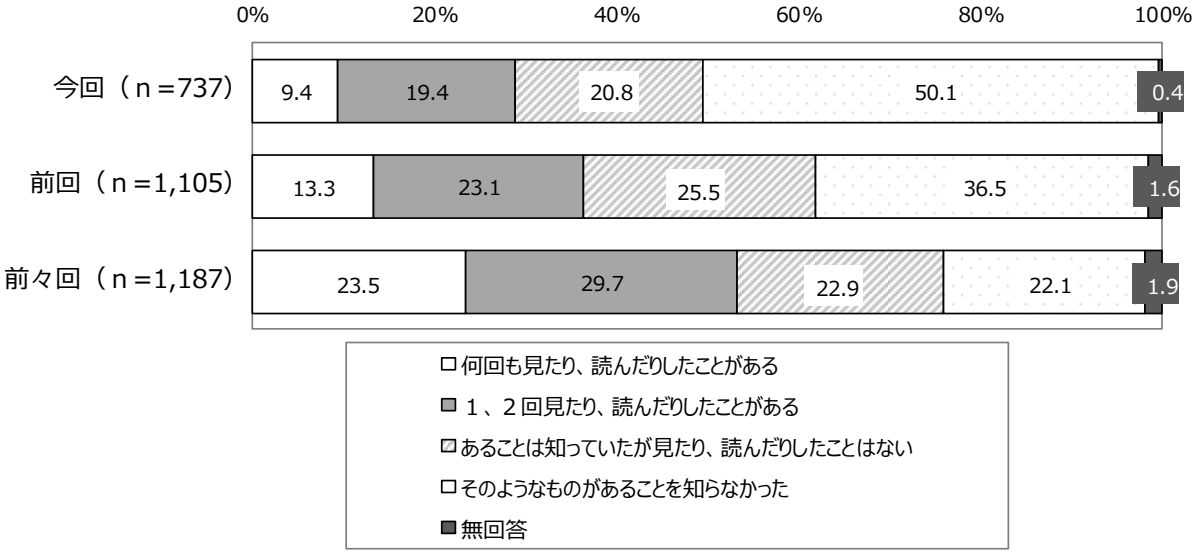
６－１０　同和問題に関する広報紙等の周知状況

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－６　県や市町村では、同和問題を解決するために、啓発活動や同和教育を積極的に行っています。このことに関する（１）～（５）のことがらについてお聞きします。

（２）県や市町村では、新聞、テレビの他、さまざまな広報紙やパンフレット、小冊子などで同和問題をとりあげています。あなたは、そのようなものを見たり、読んだりしたことがありますか。(○は１つだけ)

図６－２１　同和問題に関する広報紙等の周知状況



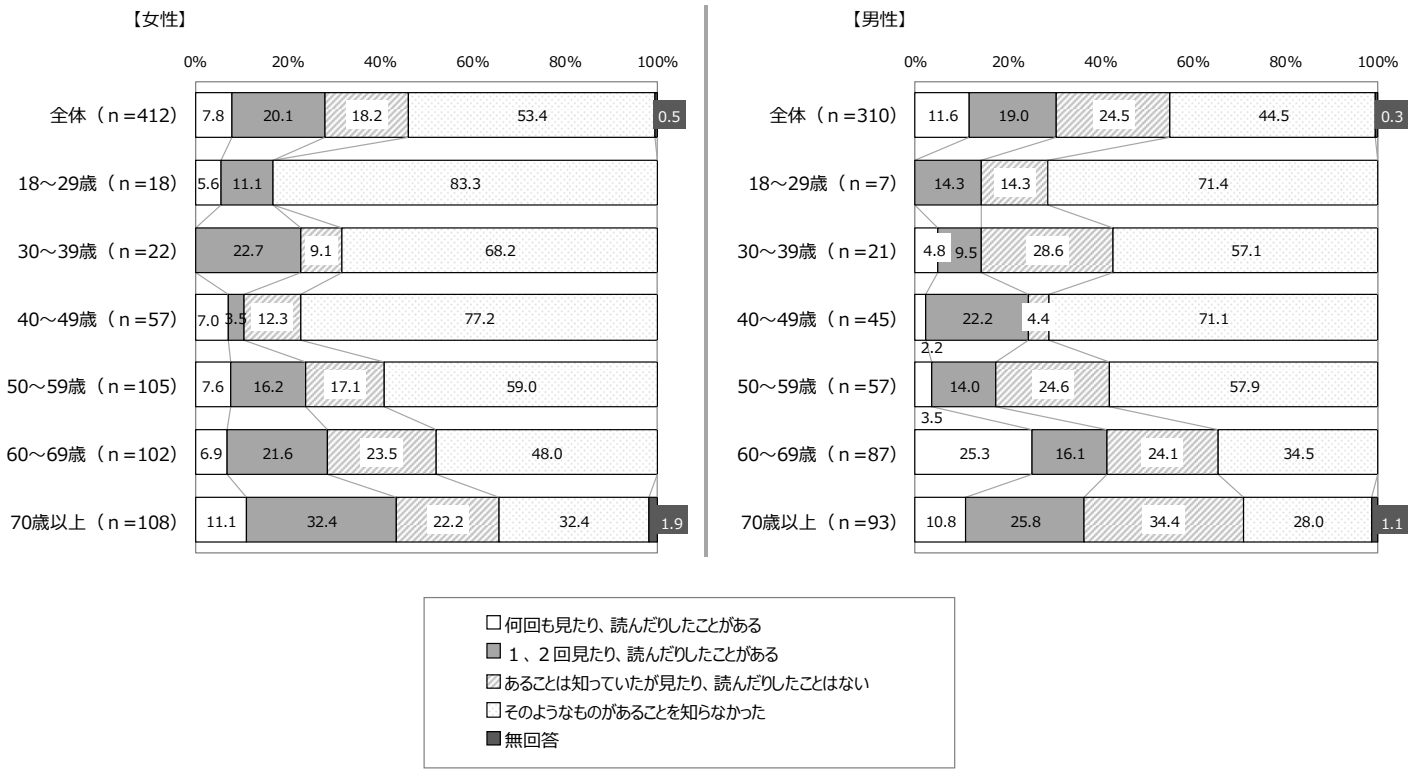
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、同和問題に関する広報紙等の周知状況について聞いたところ、「そのようなものがあることを知らなかった」が50.1％で最も高く、前回より13.6ポイント高くなっている。

また、「あることは知っていたが見たり、読んだりしたことはない」は 20.8％で 4.7 ポイント、「1、2 回見たり、読んだりしたことがある」は 19.4％で 3.7 ポイント、「何回も見たり、読んだりしたことがある」は 9.4％で 3.9 ポイント、それぞれ前回より低くなっている(図６－２１)。

性別でみると、「そのようなものがあることを知らなかった」は女性が 53.4%、男性が 44.5%で、女性が 8.9 ポイント高くなっている。男性は「あることは知っていたが見たり、読んだりしたことはない」が 24.5%で女性の 18.2%より 6.3 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男女ともに 18~29 歳と 40~49 歳において「そのようなものがあることを知らなかった」が高くなっている。特に女性の 18~29 歳では 80%を超えている。「何回も見たり、読んだりしたことがある」は女性の 70 歳以上、男性の 60~69 歳から 70 歳以上で 10%以上の割合となっている（図６－２２）。

図６－２２　同和問題に関する広報紙等の周知状況（性別、性・年代別）



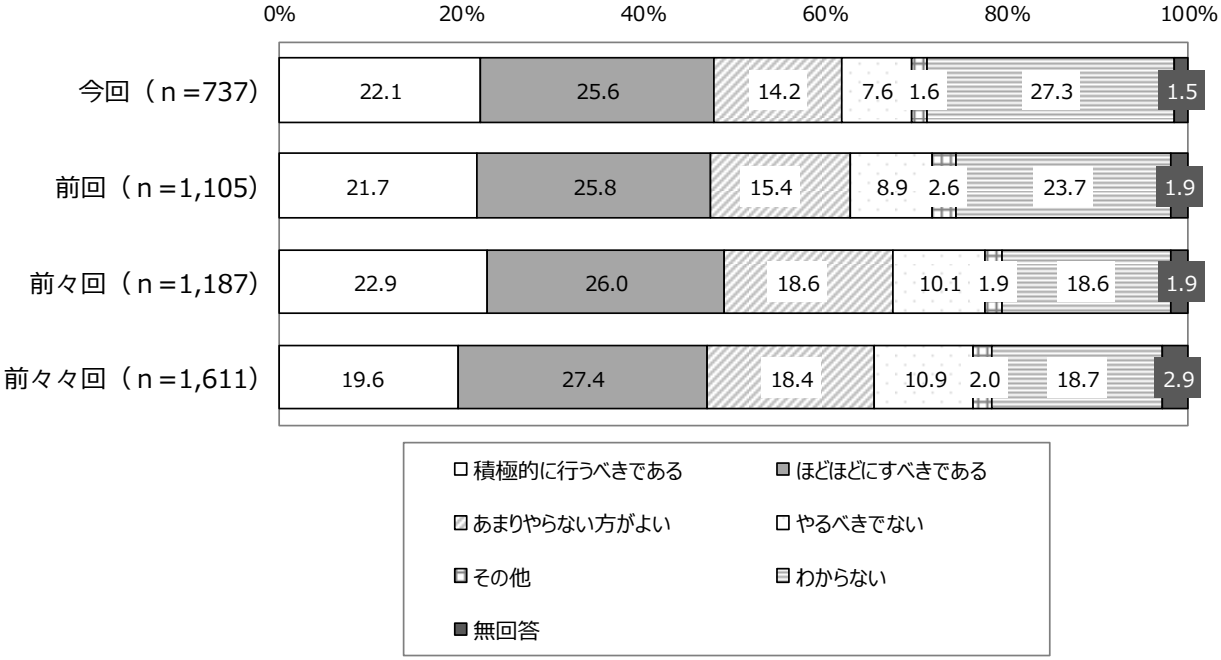
６－１１　啓発活動について

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－６　県や市町村では、同和問題を解決するために、啓発活動や同和教育を積極的に行っています。このことに関する（１）～（５）のことがらについてお聞きします。

（３）啓発活動(講演会、研修会、映画会、広報等)について、今後どのようにすればよいと思いますか。(○は１つだけ)

図６－２３　啓発活動について



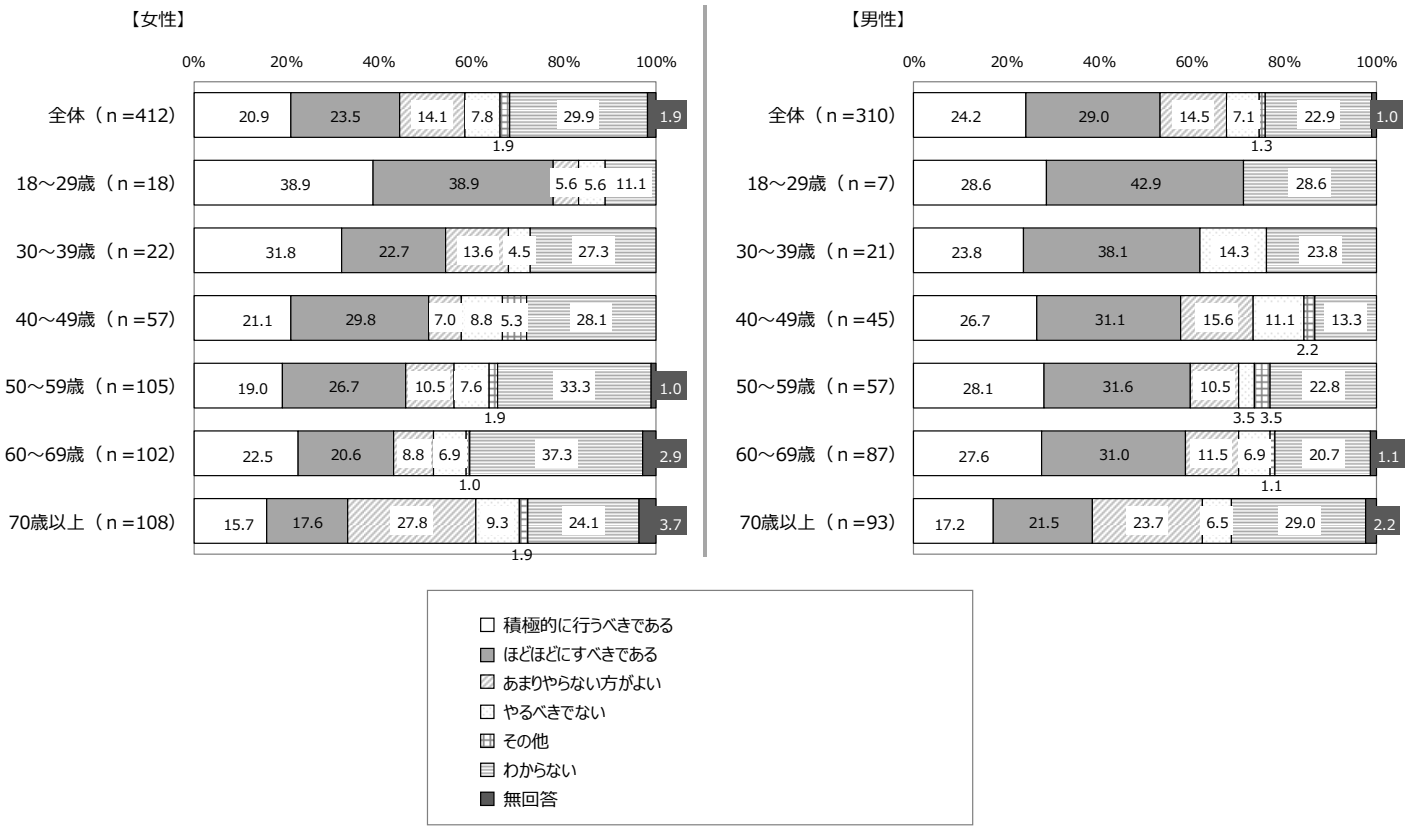
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、今後の啓発活動について聞いたところ、「わからない」が前回より 3.6 ポイント高くなり、27.3%と最も高くなった。次いで「ほどほどにすべきである」（25.6%）、「積極的に行うべきである」（22.1%）と続いた。

「わからない」以外は前回結果との差がほとんどなかった(図６－２３)。

性別でみると、「わからない」は女性が 29.9%で、男性の 22.9%より 7.0 ポイント高くなっている。「ほどほどにすべきである」は男性が 29.0%で、女性の 23.5%より 5.5 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、女性では、「積極的に行うべきである」が 18~29 歳から 30~39 歳において 30%以上と高くなっている。男性では、「やるべきでない」が 30~39 歳から 40~49 歳において高く、10%を超えている。「あまりやらない方がよい」は男女ともに 70 歳以上で高くなり、20%を超えている。（図６－２４）。

図６－２４　啓発活動について（性別、性・年代別）



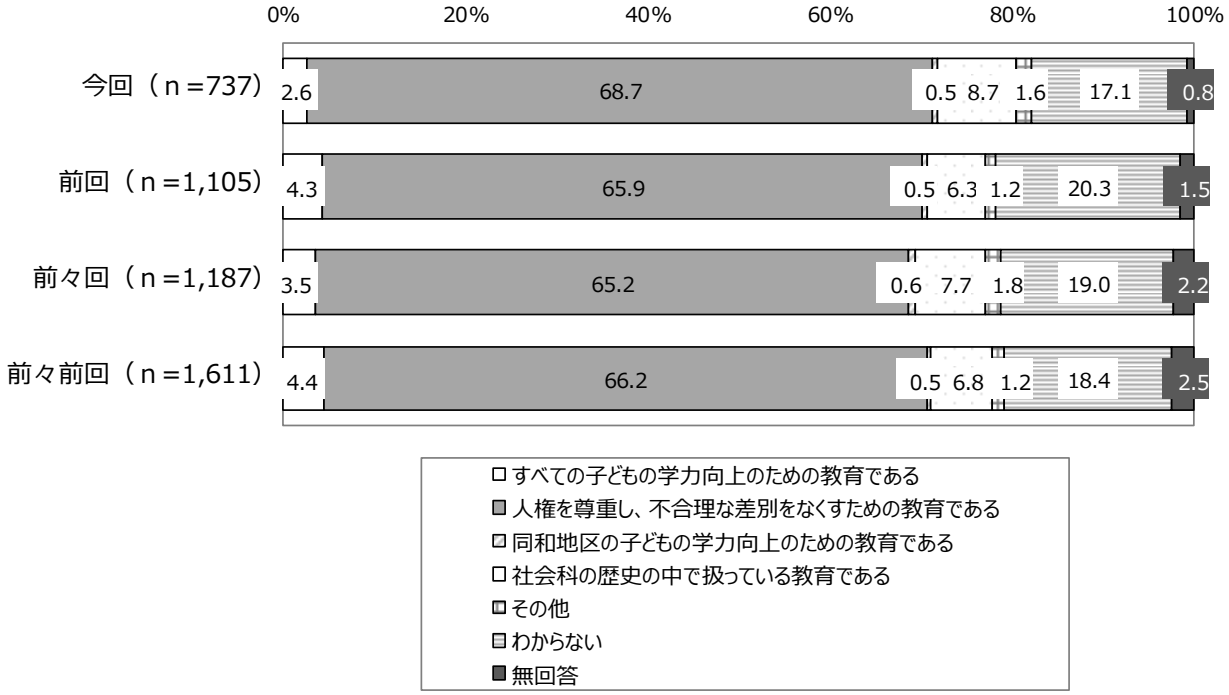
６－１２　同和教育についての認識

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－６　県や市町村では、同和問題を解決するために、啓発活動や同和教育を積極的に行っています。このことに関する（１）～（５）のことがらについてお聞きします。

（４）現在、学校では、児童・生徒に同和教育を行っていますが、どんな教育だと思いますか。(○は１つだけ)

図６－２５　同和教育についての認識



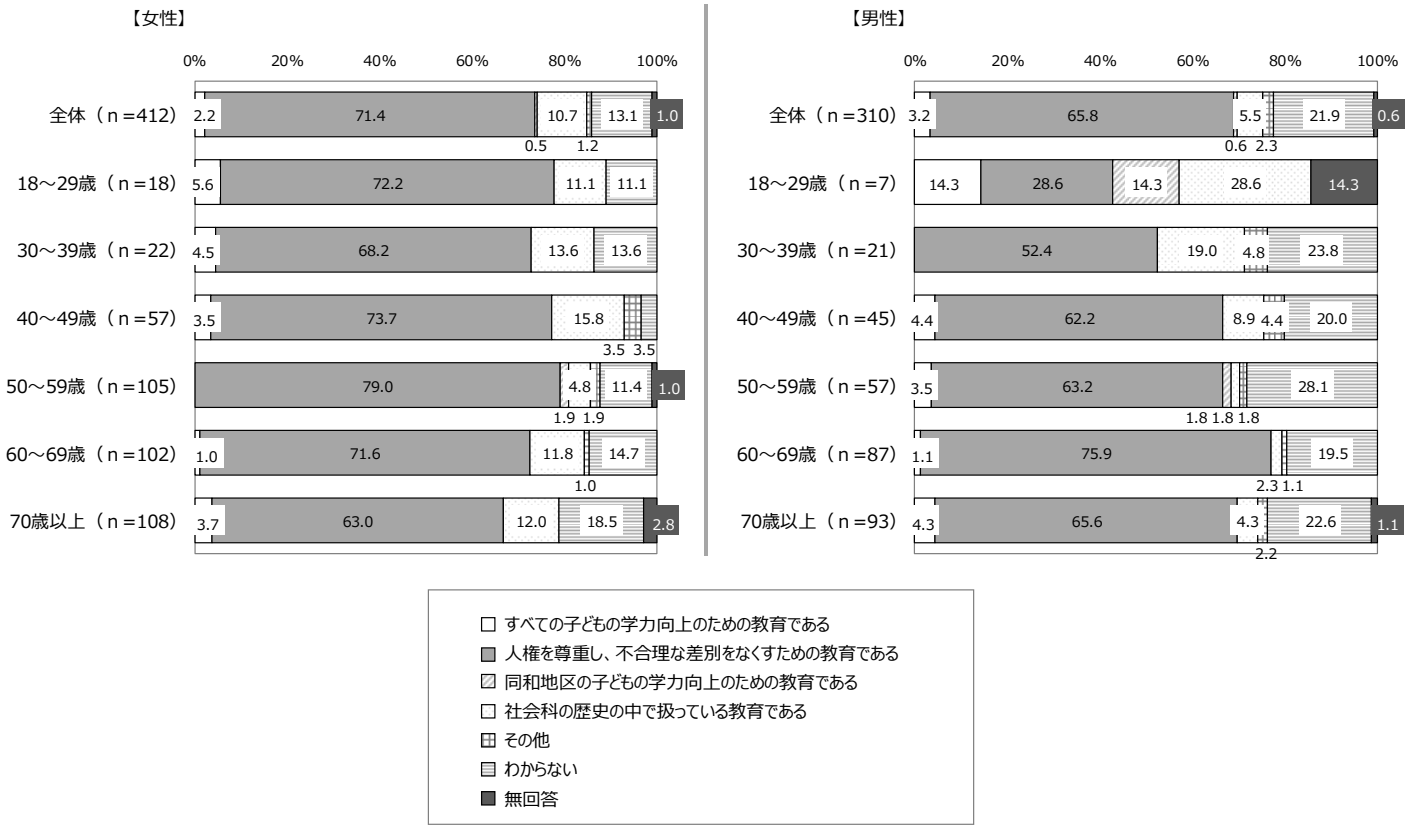
同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、同和教育の認識について聞いたところ、「人権を尊重し、不合理な差別をなくすための教育である」が68.7%で最も高くなっている。

全体の結果としては、前々回及び前回とほぼ同様の結果であるといえる(図６－２５)。

性別でみると、女性では「人権を尊重し、不合理な差別をなくすための教育である」が71.4%で男性の 65.8%より 5.6 ポイント、「社会科の歴史の中で扱っている教育である」が 10.7%で男性の 5.5%より 5.2 ポイント、それぞれ高くなっている。男性では「わからない」が 21.9%と、女性の 13.1%より 8.8 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「人権を尊重し、不合理な差別をなくすための教育である」は女性の50~59 歳で 79.0%と男女各年代を通じて最も高い。男性の場合、「社会科の歴史の中で扱っている教育である」が 18~29 歳から 30~39 歳で高くなっている。(図６－２６)。

図６－２６　同和教育についての認識（性別、性･年代別）



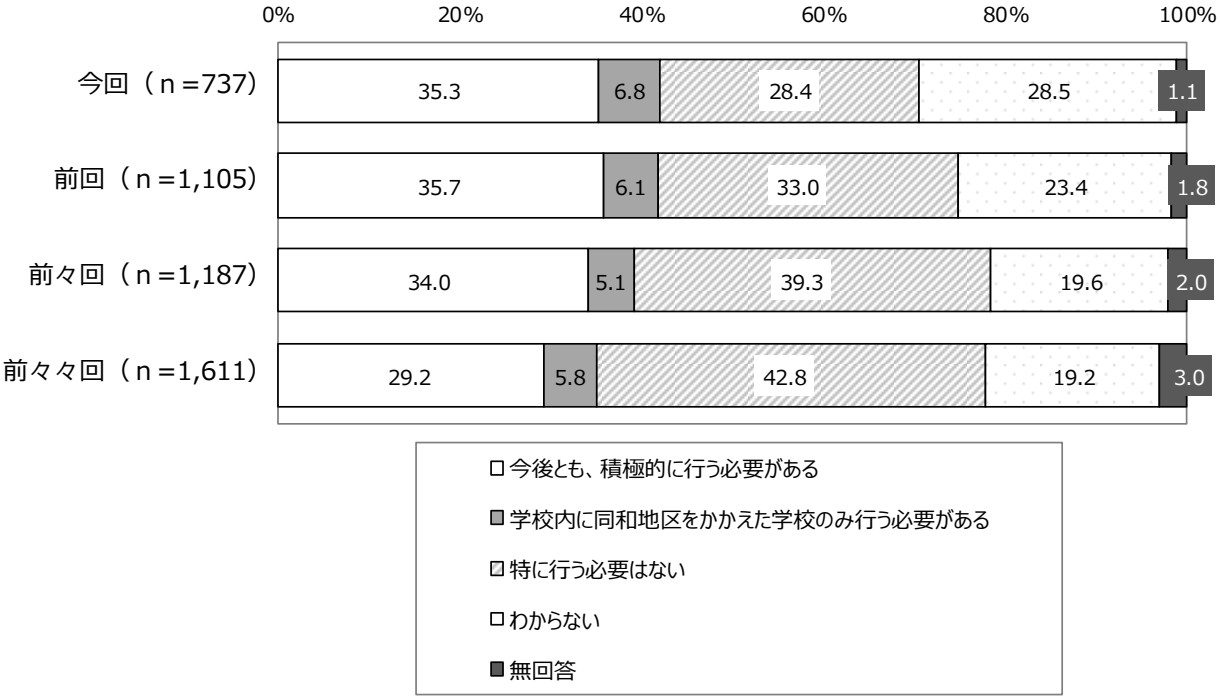
６－１３　学校での同和教育の今後

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－６　県や市町村では、同和問題を解決するために、啓発活動や同和教育を積極的に行っています。このことに関する（１）～（５）のことがらについてお聞きします。

（５）学校での同和教育は、今後どうするべきだと思いますか。(○は１つだけ)

図６－２７　学校での同和教育の今後



同和地区（部落）や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、学校での同和教育の今後について聞いたところ、「今後とも、積極的に行う必要がある」が 35.3%で最も高く、次いで「わからない」が 28.5%、「特に行う必要はない」が 28.4%となっている。

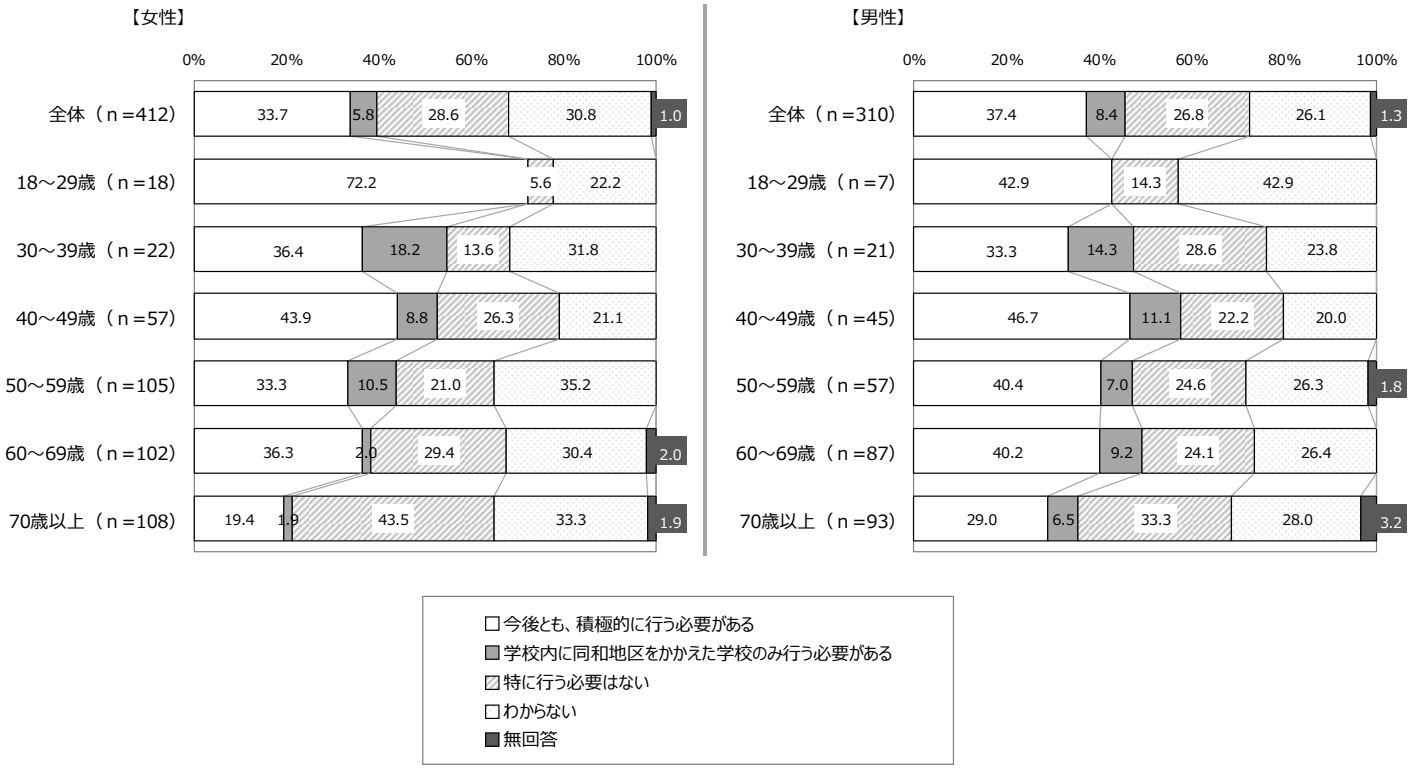
「今後とも、積極的に行う必要がある」と「学校内に同和地区をかかえた学校のみ行う必要がある」を合わせた“必要がある”とする割合は 42.1%であり、前々々回から調査ごとにわずかずつであるが高くなっている。反対に「特に行う必要はない」は、低くなっている(図６－２７)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「今後とも、積極的に行う必要がある」は男女ともに年代が下がるほど割合が概ね高い傾向にあり、特に女性の 18~29 歳では 72.2%で男女各年代を通じて最も高くなっている。

「特に行う必要はない」においては男女ともに 70 歳以上で高くなっており、女性 43.5%、男性 33.3%となっている。（図６－２８）。

図６－２８　学校での同和教育の今後（性別、性･年代別）

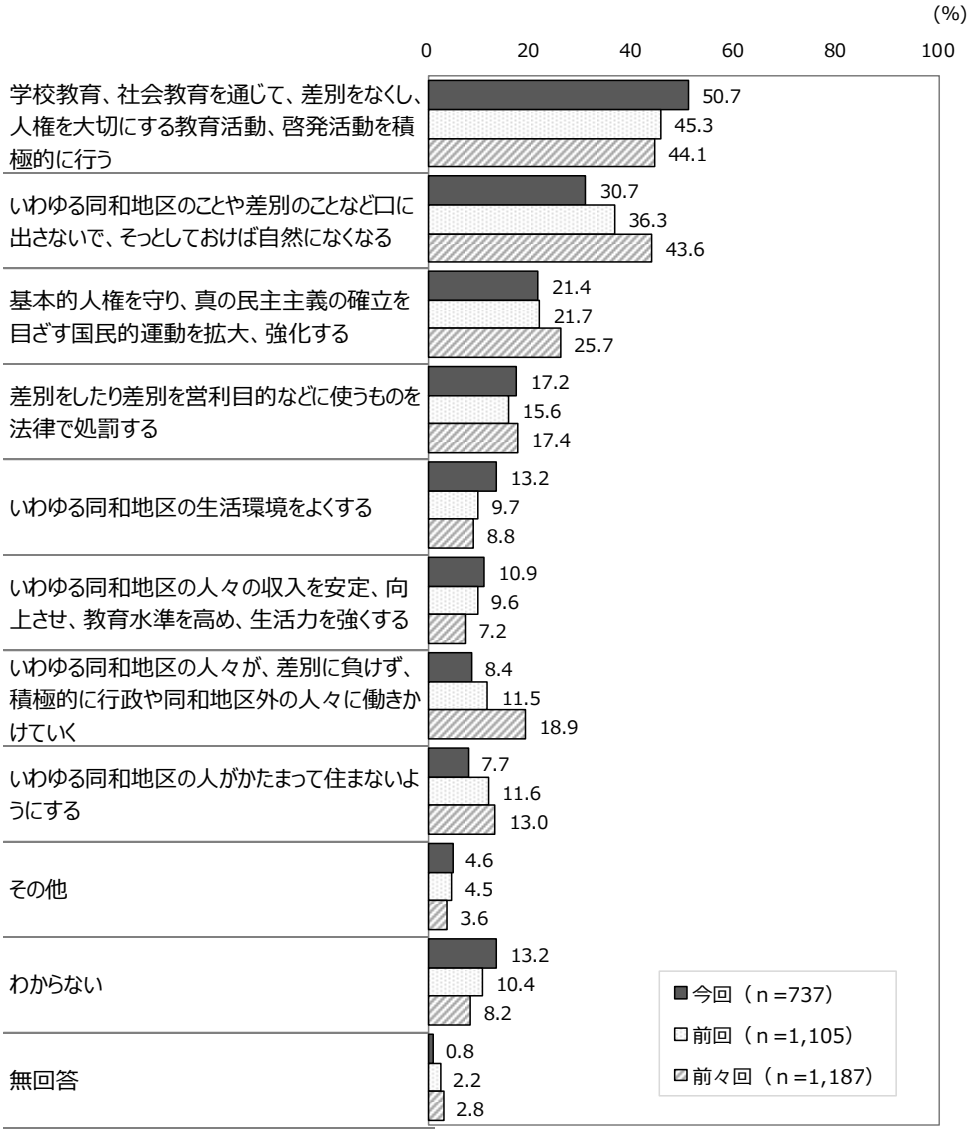


６－１４　同和問題の解決方法

【問１８で、「１．知っている」とお答えの方に】

問１８－７　あなたは、同和問題を解決するには、どうしたらよいとお考えですか。重要だと思うものを次の中から選んでください。(○は３つまで)

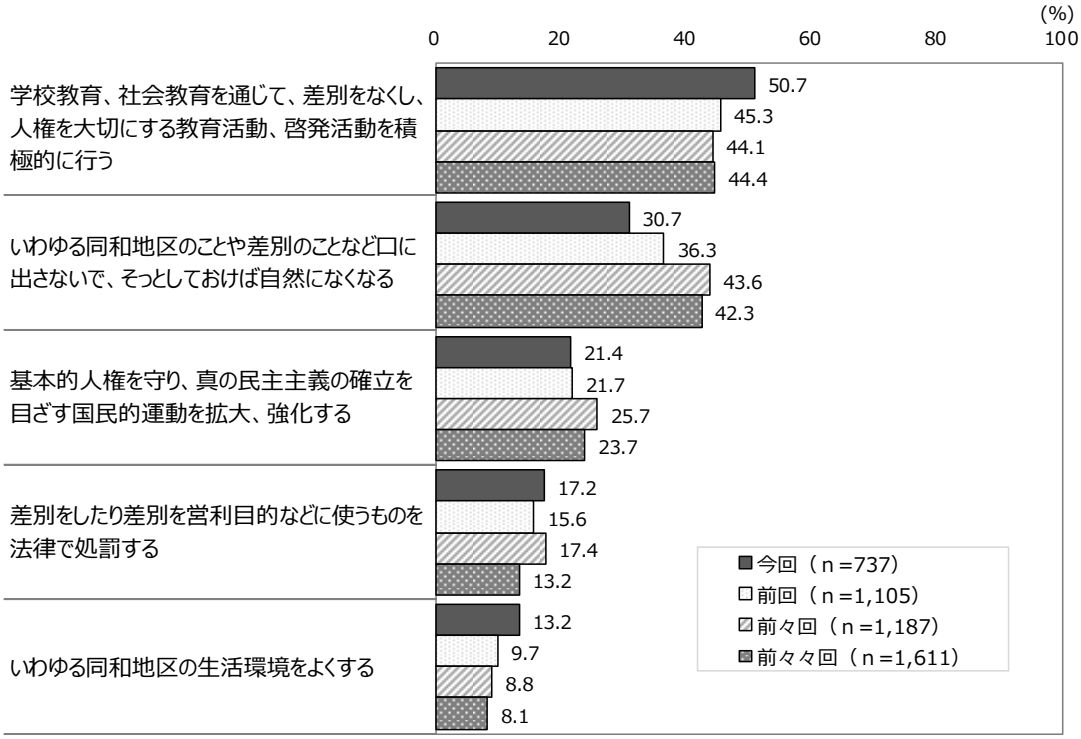
図６－２９　同和問題の解決方法



同和地区(部落)や『同和問題』『部落差別』を“知っている”という人に、同和問題の解決方法について聞いたところ、「学校教育、社会教育を通じて、差別をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う」が 50.7%で最も高く、次いで、「いわゆる同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておけば自然になくなる」が 30.7%と続く。「学校教育、社会教育を通じて、差別をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う」は前回より 5.4 ポイント高くなり、「いわゆる同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておけば自然になくなる」は前回より 5.6 ポイント低くなっている(図６－２９)。

前々々回の調査結果と比較をしても、「いわゆる同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておけば自然になくなる」は、やはり今回の調査で低くなっていることがうかがえる。「学校教育、社会教育を通じて、差別をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う」については、前々々回から今回にかけて上昇傾向が続いている(図６－３０)。

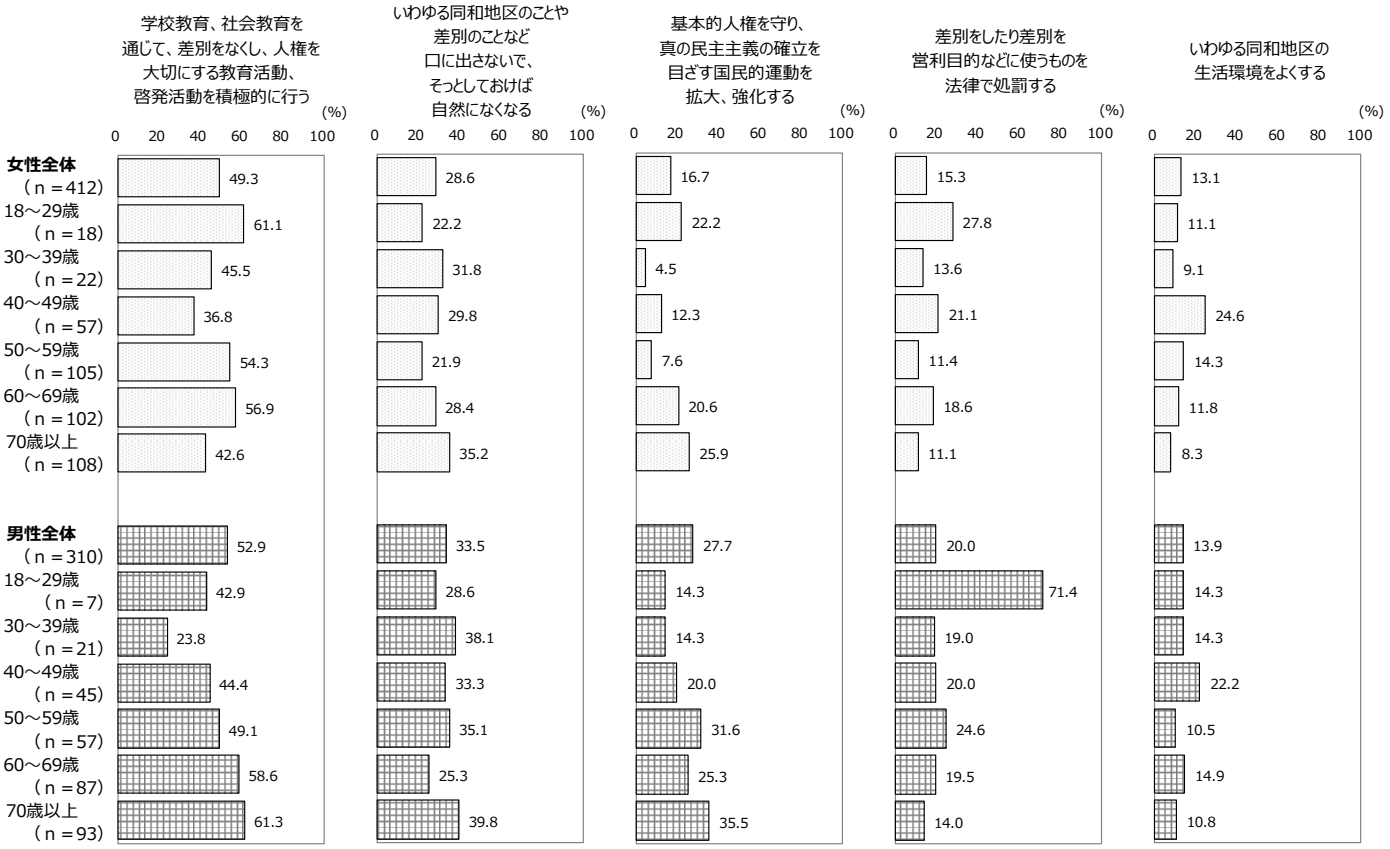
図６－３０　同和問題の解決方法（前回、前々回、前々々回との比較）[上位５項目]



性別でみると、「基本的人権を守り、真の民主主義の確立を目ざす国民的運動を拡大、強化する」が男性で 27.7%と、女性の 16.7%より 11.0 ポイント高くなっている。

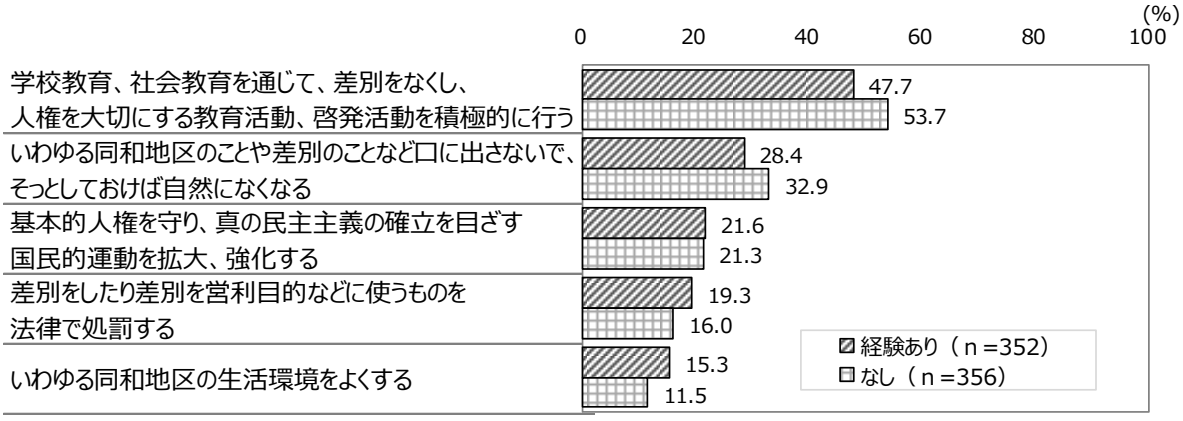
性・年代別では、「学校教育、社会教育を通じて、差別をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う」は女性では 18~29 歳で最も高く、男性では 70 歳以上が最も高く、ともに 60%を超えている。「基本的人権を守り、真の民主主義の確立を目ざす国民的運動を拡大、強化する」において、女性では 30~39 歳と 50~59 歳で 10%未満の極端に低い割合となっており、男性の場合は年代が上がるにつれて概ね高くなる傾向がみられる(図６－３１)。

図６－３１　同和問題の解決方法（性別、性･年代別）[上位５項目]



被差別経験の有無別でみると、「学校教育、社会教育を通じて、差別をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う」が、被差別経験がある人で 47.7%、被差別経験がない人で 53.7%と、6.0 ポイントの差が生じている。「いわゆる同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておけば自然になくなる」は、被差別経験のある人で 28.4%、被差別経験のない人で 32.9%と、4.5 ポイントの差が生じている（図６－３２）。

図６－３２　同和問題の解決方法（被差別経験の有無別）[上位５項目]

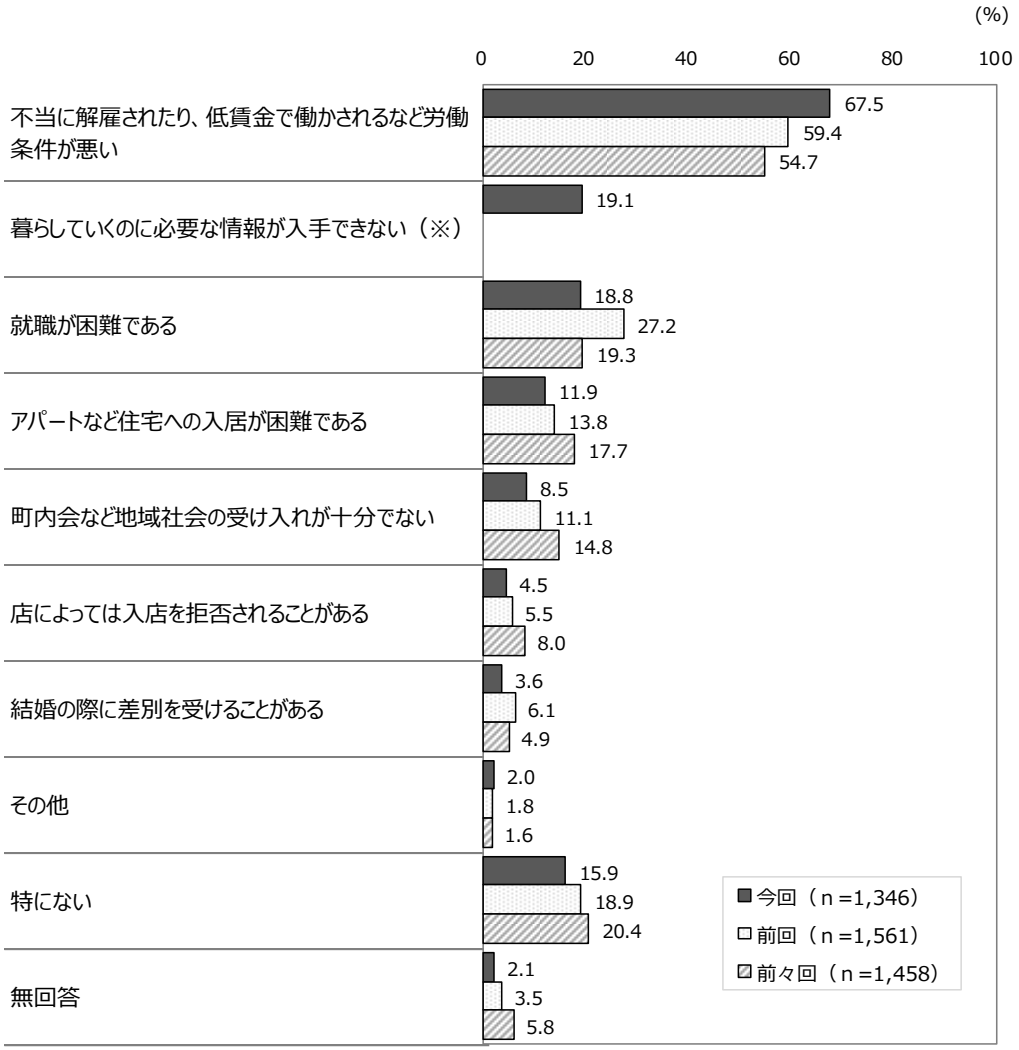


第７章　外国籍の人たちの人権について

７－１　外国籍の人たちの人権問題

問１９　外国籍の人たちの人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。(○は２つまで)

図７－１　外国籍の人たちの人権問題



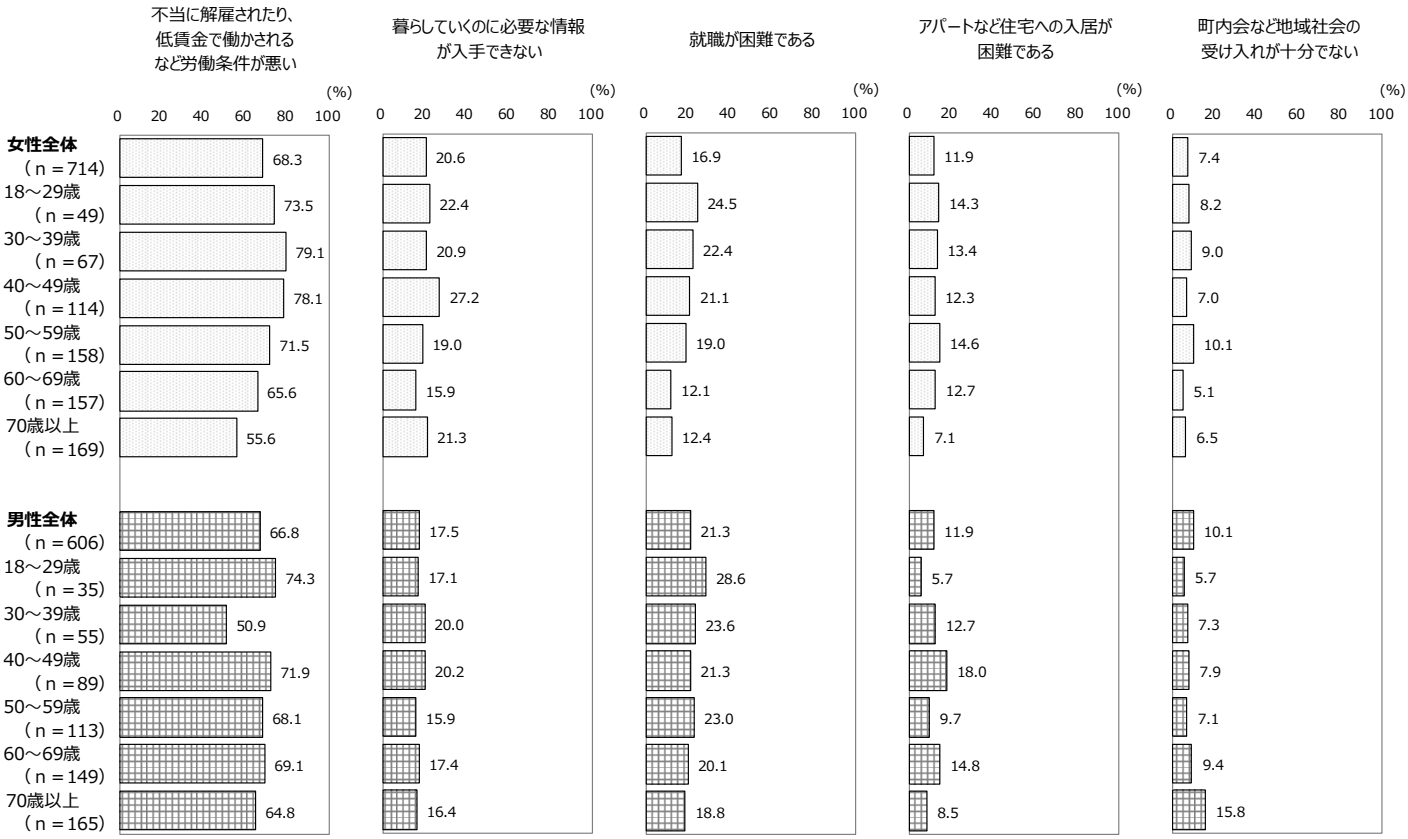
※「暮らしていくのに必要な情報が入手できない」は今回より追加

外国籍の人たちの人権問題について、「不当に解雇されたり、低賃金で働かされるなど労働条件が悪い」が 67.5%で最も高く、次いで、「暮らしていくのに必要な情報が入手できない」が 19.1%、「就職が困難である」が 18.8%と続いた。「不当に解雇されたり、低賃金で働かされるなど労働条件が悪い」は前回より 8.1 ポイント高くなっており、「就職が困難である」は前回より 8.4 ポイント低くなっている。（図７－１）。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

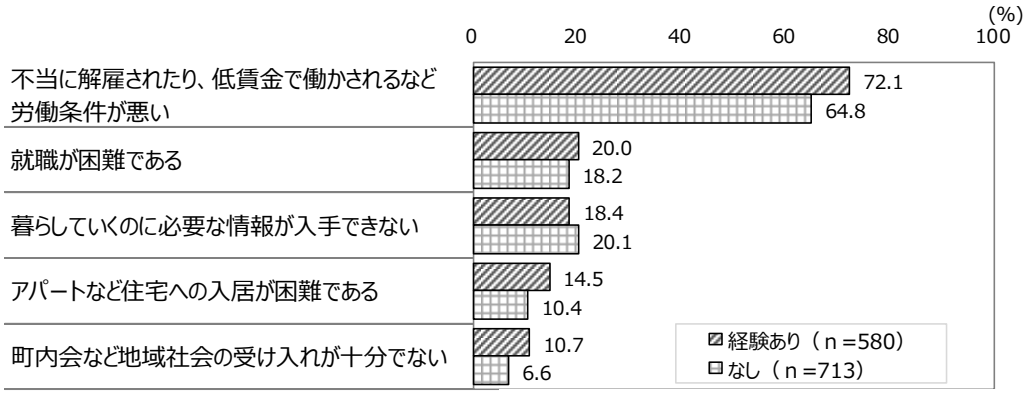
性・年代別でみると、「不当に解雇されたり、低賃金で働かされるなど労働条件が悪い」については、女性では年代が下がるほど割合が高い傾向がみられ、18~29 歳から 50~59 歳にかけて 70%以上の割合となっている。男性においては各年代で 50%以上の割合があるが、18~29 歳と 40~49 歳では 70%を超える割合となっている(図７－２)。

図７－２　外国籍の人たちの人権問題（性別、性･年代別）[上位５項目]



被差別経験の有無別でみると、最も回答割合の高い「不当に解雇されたり、低賃金で働かされるなど労働条件が悪い」は、被差別経験のある人で 72.1%、被差別経験のない人で 64.8%となり、7.3 ポイントの差となっている(図７－３)。

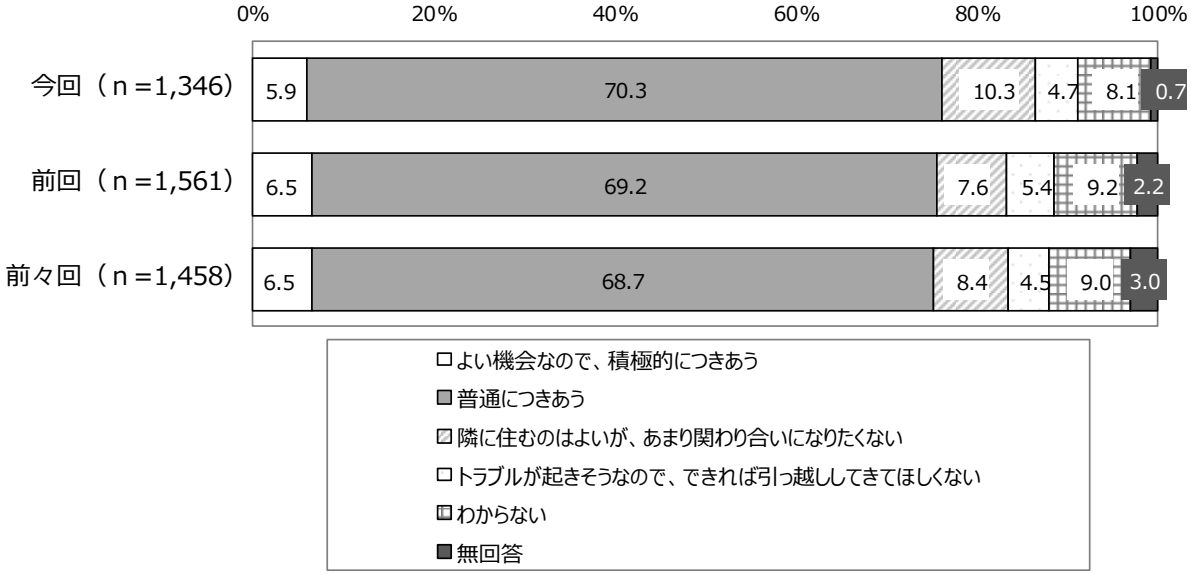
図７－３　外国籍の人たちの人権問題（被差別経験の有無別）[上位５項目]



７－２　外国籍の人が隣人になった場合の対応

問２０　外国籍の人が、あなたの隣に引っ越してきた場合、あなたはどう思いますか。
(○は１つだけ)

図７－４　外国籍の人が隣人になった場合の対応

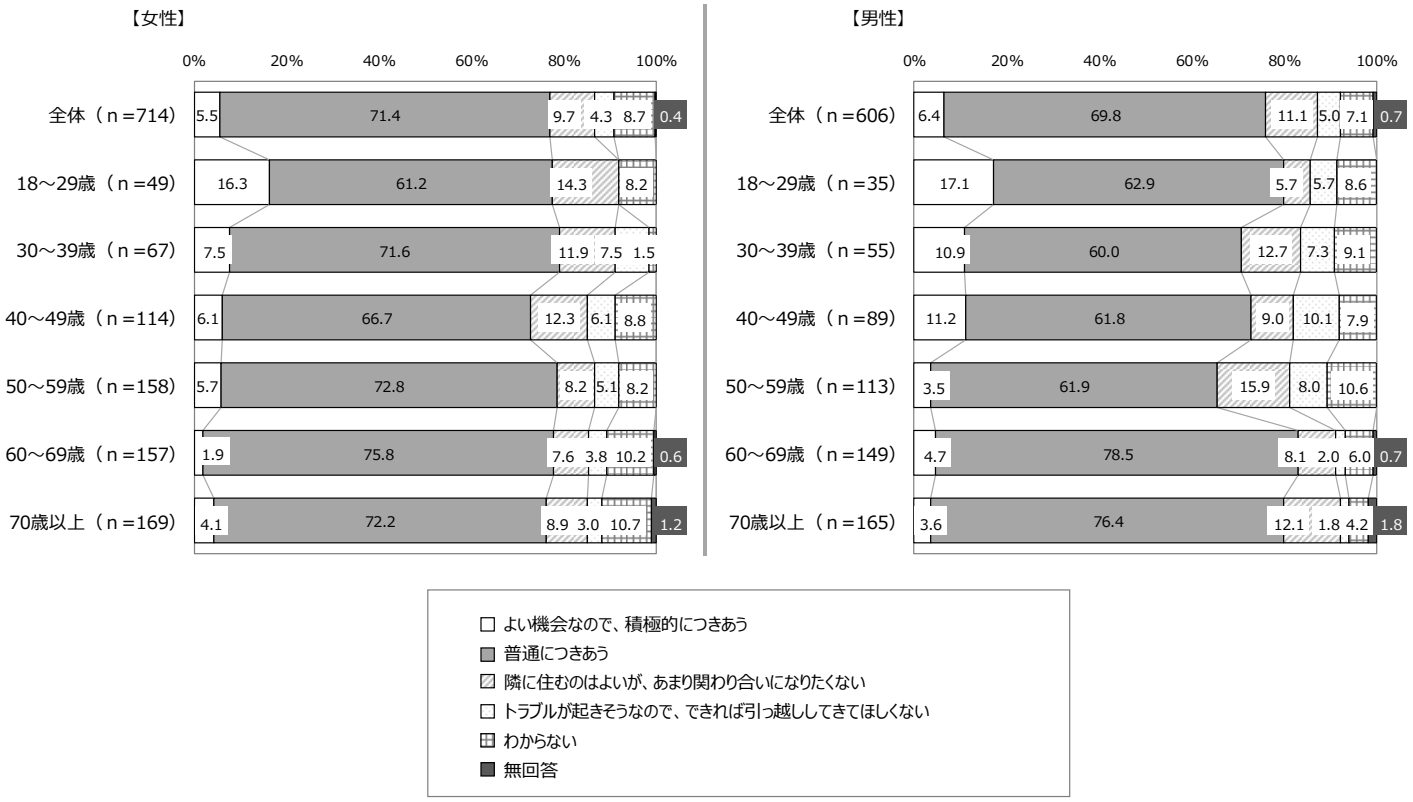


外国籍の人が隣人になった場合の対応について、「普通につきあう」が 70.3%で最も高く、「よい機会なので、積極的につきあう」の 5.9%を合わせると、“つきあう”は 76.2%となる。前回と比べてみると、ほぼ同様の結果であるといえる(図７－４)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「よい機会なので、積極的につきあう」は、女性では 18~29 歳、男性では 18~29 歳から 40~49 歳の年代において 10%を超える割合があり、比較的高くなっている。それ以外では特に年代による差はみられない(図７－５)。

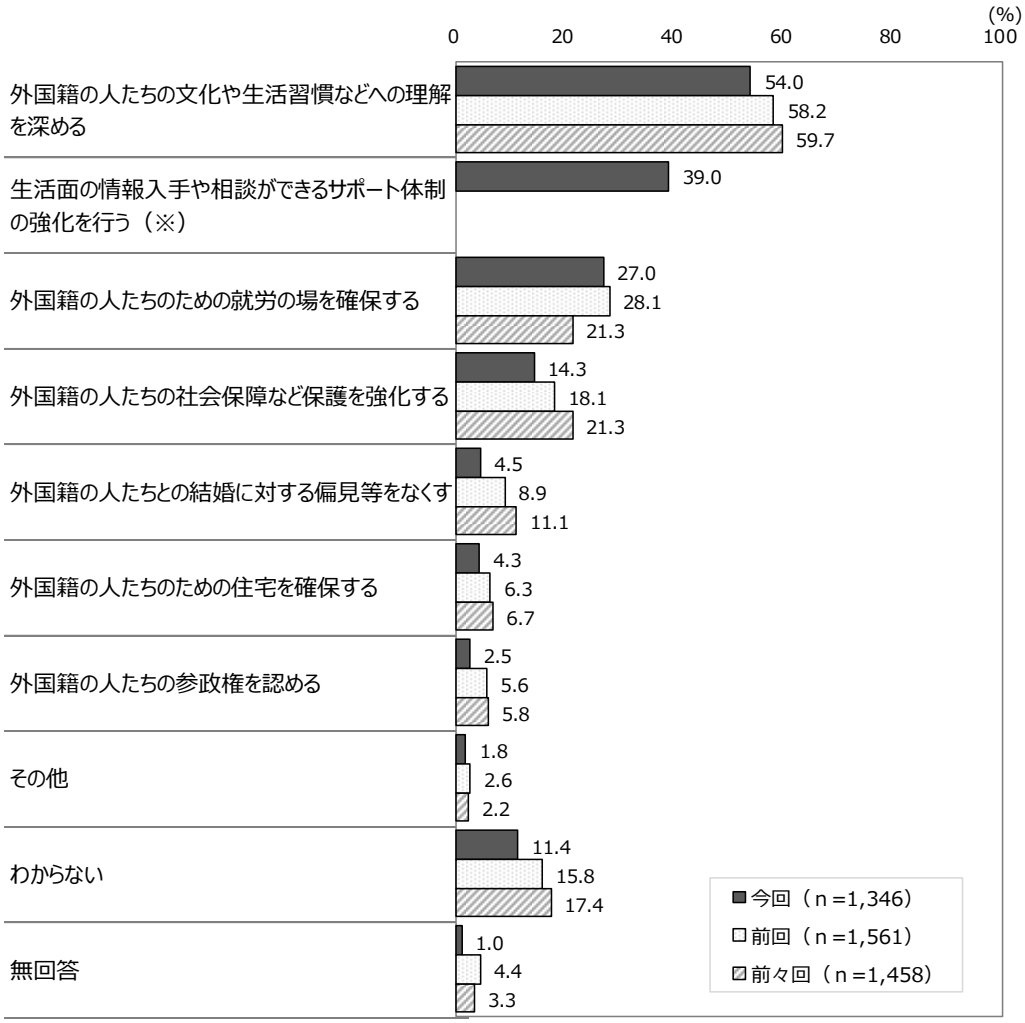
図７－５　外国籍の人が隣人になった場合の対応（性別、性・年代別）



７－３　外国籍の人たちの人権を守るために必要なこと

問２１　外国籍の人たちの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に大切と思うものを選んでください。(○は２つまで)

図７－６　外国籍の人たちの人権を守るために必要なこと



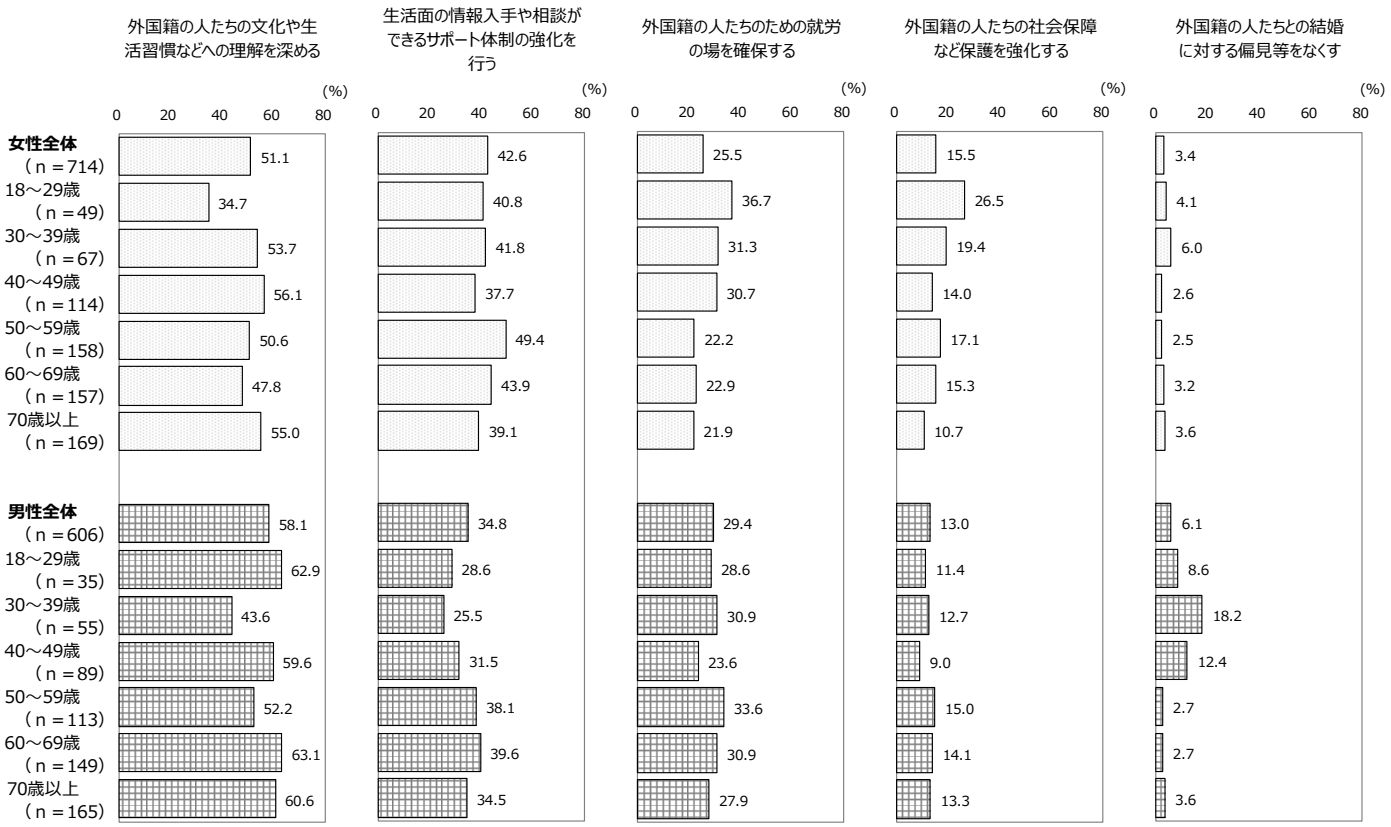
※「生活面の情報入手や相談ができるサポート体制の強化を行う」は今回より追加

外国籍の人たちの人権を守るために必要なことについて、「外国籍の人たちの文化や生活習慣などへの理解を深める」が 54.0%で最も高いが、前回より 4.2 ポイント低くなっている。次いで高いのが「生活面の情報入手や相談ができるサポート体制の強化を行う」（39.0%）、「外国籍の人たちのための就労の場を確保する」（27.0%）となった。(図７－６)。

性別でみると、「外国籍の人たちの文化や生活習慣などへの理解を深める」は男性の58.1%が女性の 51.1%より 7.0 ポイント高くなり、「生活面の情報入手や相談ができるサポート体制の強化を行う」では女性の 42.6%が男性の 34.8%より 7.8 ポイント高くなった。

性・年代別でみると、女性の 18~29 歳のみ「生活面の情報入手や相談ができるサポート体制の強化を行う」が最も高い項目となっており、その他の年代は男女ともに「外国籍の人たちの文化や生活習慣などへの理解を深める」が最も高く 40%以上となっている。また、女性の 18~29 歳は「外国籍の人たちのための就労の場を確保する」が 36.7%と他の年代より高くなっている。男性では「外国籍の人たちとの結婚に対する偏見等をなくす」において 30~39 歳から 40~49 歳で 10%を超えて比較的高くなっている。(図 7 − 7)。

図 7 − 7　外国籍の人たちの人権を守るために必要なこと（性別、性・年代別）[上位 5 項目]

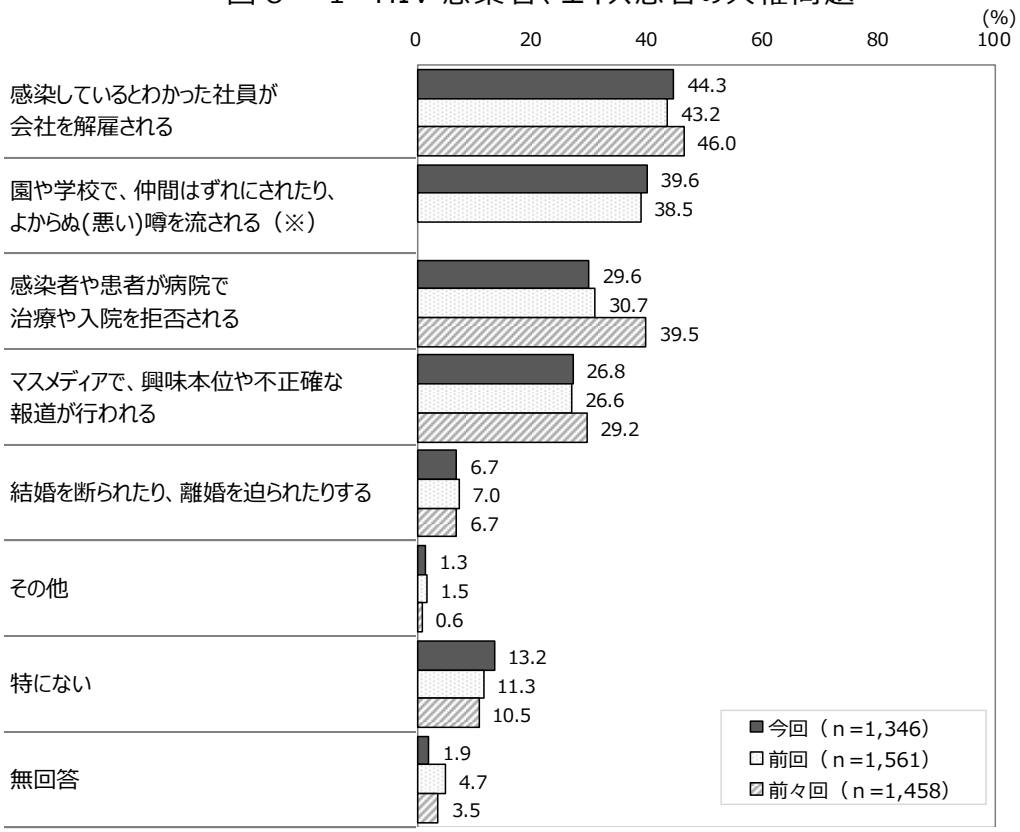


第８章　HIV 感染者等の人たちの人権について

８－１　HIV 感染者、エイズ患者の人権問題

問２２　次にあげるエイズ患者・HIV 感染者の人権問題のうち、特にひどいと思うのはどのような場合ですか。(○は２つまで)

図８－１　HIV 感染者、エイズ患者の人権問題



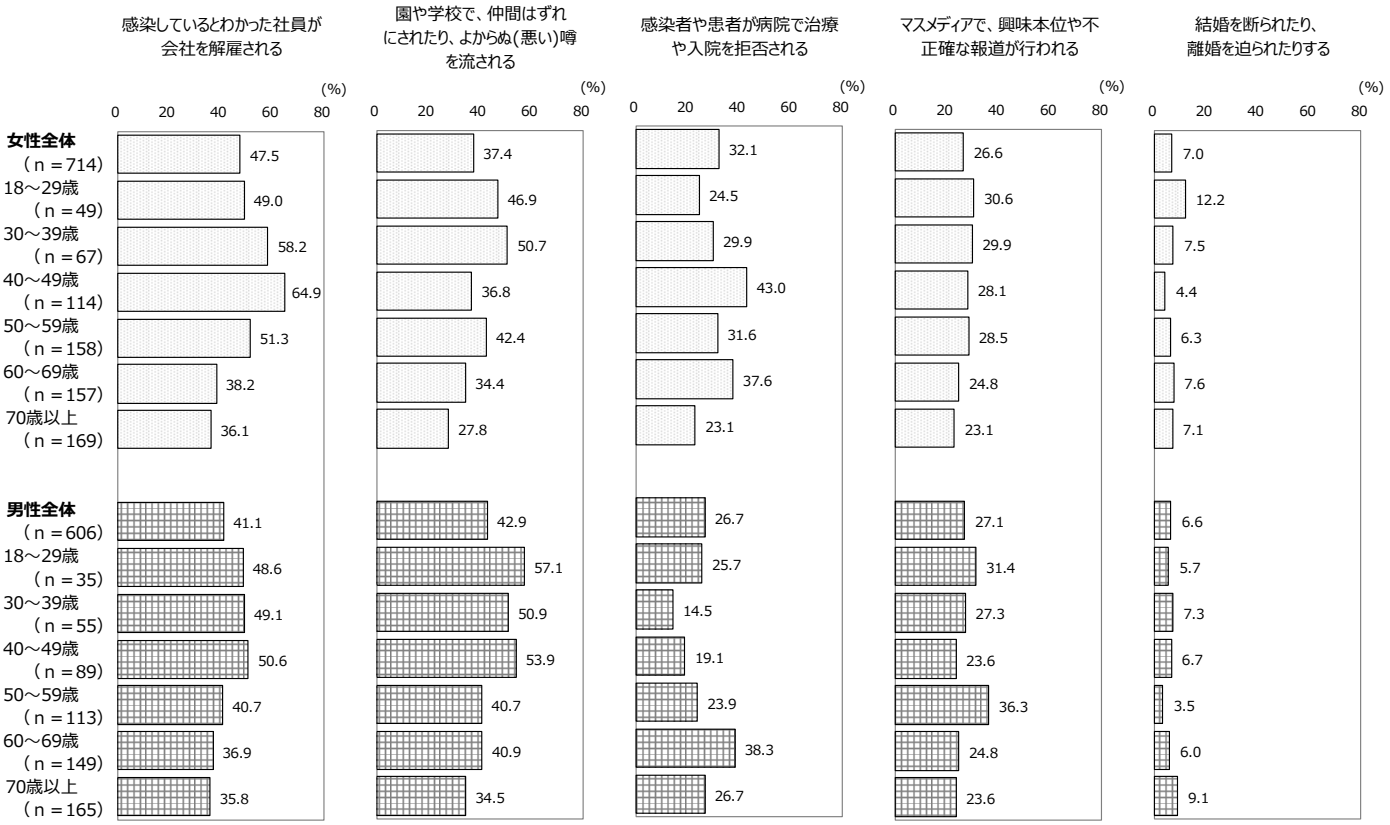
※「園や学校で、仲間はずれにされたり、よからぬ(悪い)噂を流される」は前回より追加

HIV 感染者、エイズ患者の人権問題について、「感染しているとわかった社員が会社を解雇される」が 44.3%で最も高く、次いで、「園や学校で、仲間はずれにされたり、よからぬ(悪い)噂を流される」が 39.6%、「感染者や患者が病院で治療や入院を拒否される」が 29.6%で続き、前回同様の結果となった(図８－１)。

性別でみると、「感染しているとわかった社員が会社を解雇される」では 6.4 ポイント、「感染者や患者が病院で治療や入院を拒否される」では5.4ポイント、それぞれ女性が高くなり、「園や学校で、仲間はずれにされたり、よからぬ(悪い)噂を流される」では、5.5 ポイント男性が高くなっている。

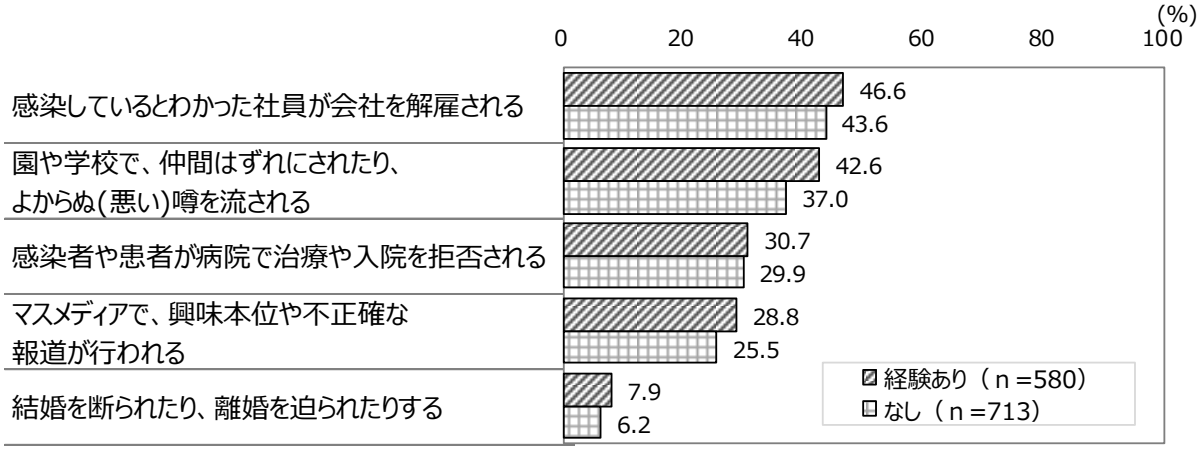
性・年代別でみると、「感染しているとわかった社員が会社を解雇される」は男女ともに 18~29 歳から 50~59 歳で高く、40%以上となっている。女性では「結婚を断られたり、離婚を迫られたりする」において 18~29 歳が 12.2%で男女各年代を通じて最も高くなっている。男性では「感染者や患者が病院で治療や入院を拒否される」において 30~39 歳から 40~49 歳で 10%台となり、他の年代に比べて低い割合となっている。（図８－２)。

図８－２　HIV 感染者、エイズ患者の人権問題（性別、性･年代別）



被差別経験の有無別でみると、「園や学校で、仲間はずれにされたり、よからぬ(悪い)噂を流される」で、被差別経験のある人が 42.6%、被差別経験のない人が 37.0%で 5.6 ポイントの差となっている(図８－３)。

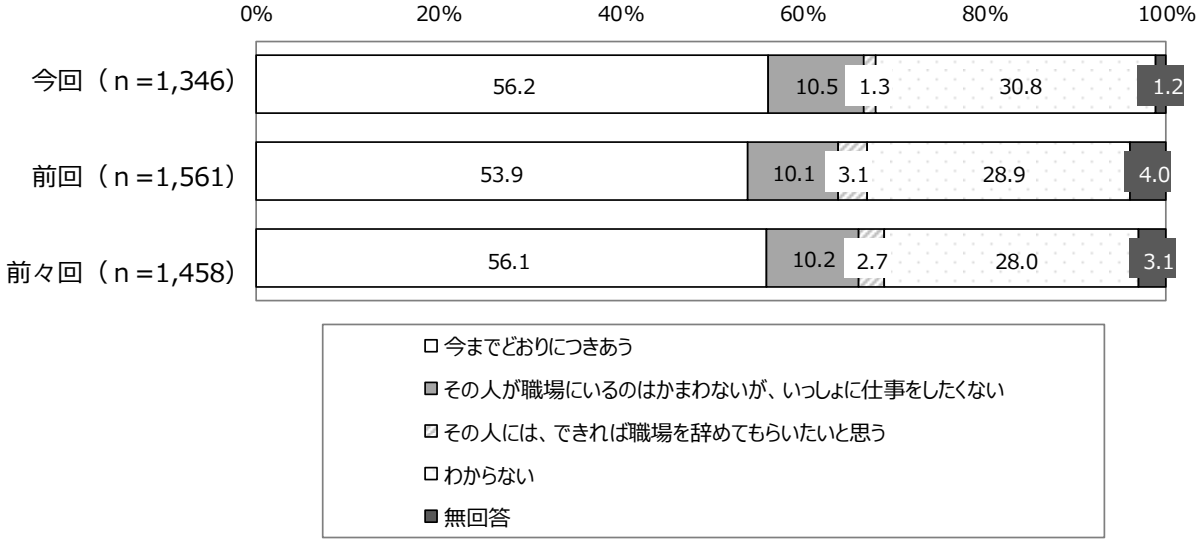
図８－３　HIV 感染者、エイズ患者の人権問題（被差別経験の有無別）



８－２　職場の同僚が HIV 感染者、エイズ患者の場合の対応

問２３　職場の同僚が、エイズ患者・HIV 感染者とわかった場合、あなたならどうしますか。
(○は１つだけ)

図８－４　職場の同僚が HIV 感染者、エイズ患者の場合の対応



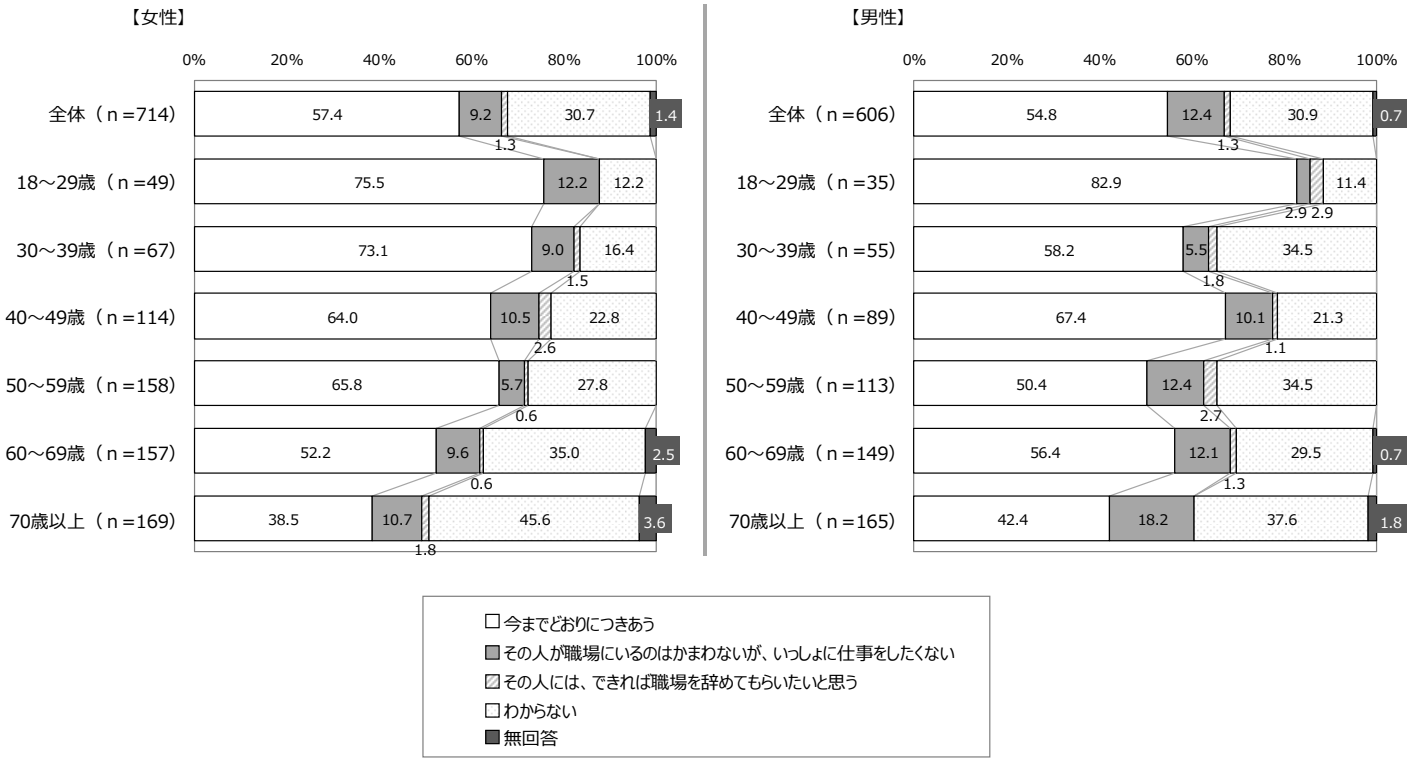
会社の同僚が HIV 感染者、エイズ患者の場合の対応について、「今までどおりにつきあう」が 56.2%で過半数を占める割合となっている。同項目は前回より 2.3 ポイント高くなっているが、全体では前回から変化はあまりみられないといえる。

また、「その人が職場にいるのはかまわないが、いっしょに仕事をしたくない」（10.5%）と「その人には、できれば職場を辞めてもらいたいと思う」（1.3%）といった否定的な回答も前回とほぼ同様の結果となった(図８－４)。

性別でみると、男女の大きな差はみられない。

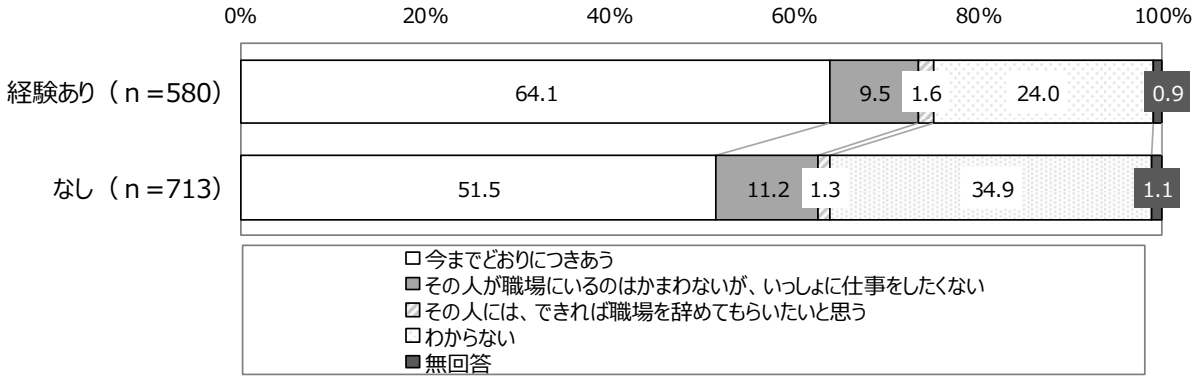
性・年代別でみると、女性では「今までどおりつきあう」が年代が下がるほど高い割合となっており、特に 18~29 歳から 30~39 歳では 70%を超えている。男性では「その人が職場にいるのはかまわないが、いっしょに仕事をしたくない」において 18~29 歳から 30~39 歳では 10%未満と低い割合となっている(図８－５)。

図８－５　職場の同僚がHIV感染者、エイズ患者の場合の対応（性別、性･年代別）



被差別経験の有無別でみると、「今までどおりにつきあう」は被差別経験のある人で64.1%、被差別経験のない人で 51.5%で、被差別経験のある人が 12.6 ポイント高くなっている。被差別経験のない人では、「わからない」が被差別経験のある人より 10.9 ポイント高くなっている(図８－６)。

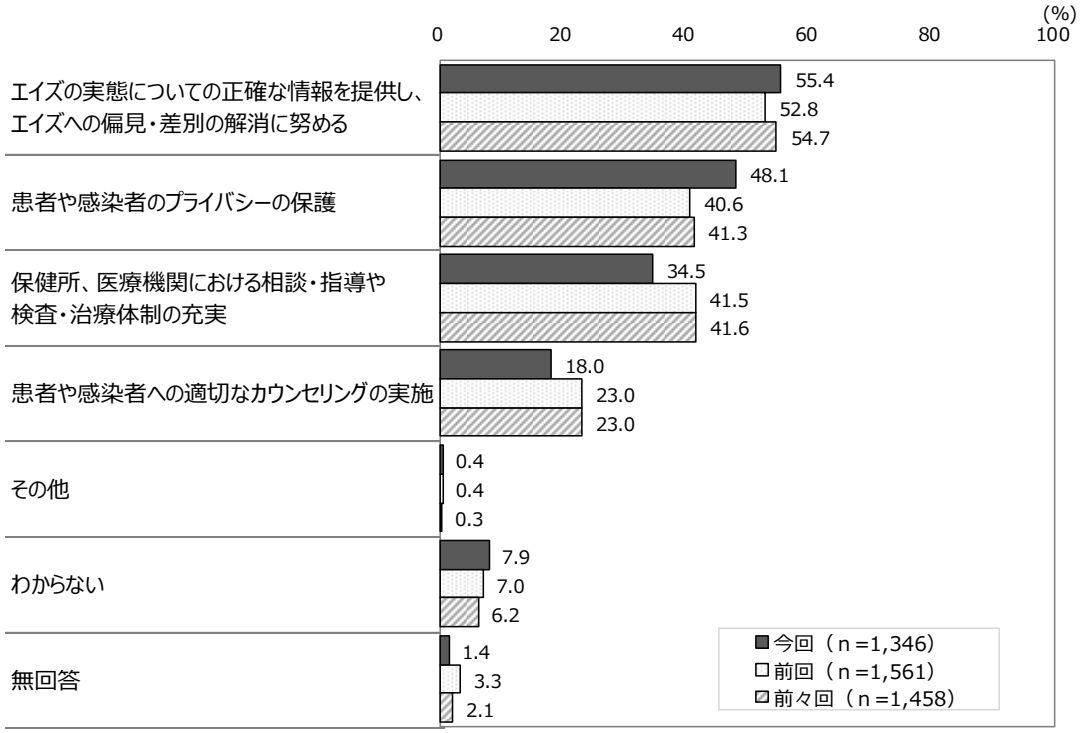
図８－６　職場の同僚がHIV感染者、エイズ患者の場合の対応（被差別経験の有無別）



８－３　HIV 感染者、エイズ患者の人権を守るための行政への要望

問２４　エイズ患者や HIV 感染者の人権を確保するためには、行政はどのようなことを行えばよいでしょうか。(○は２つまで)

図８－７　HIV 感染者、エイズ患者の人権を守るための行政への要望



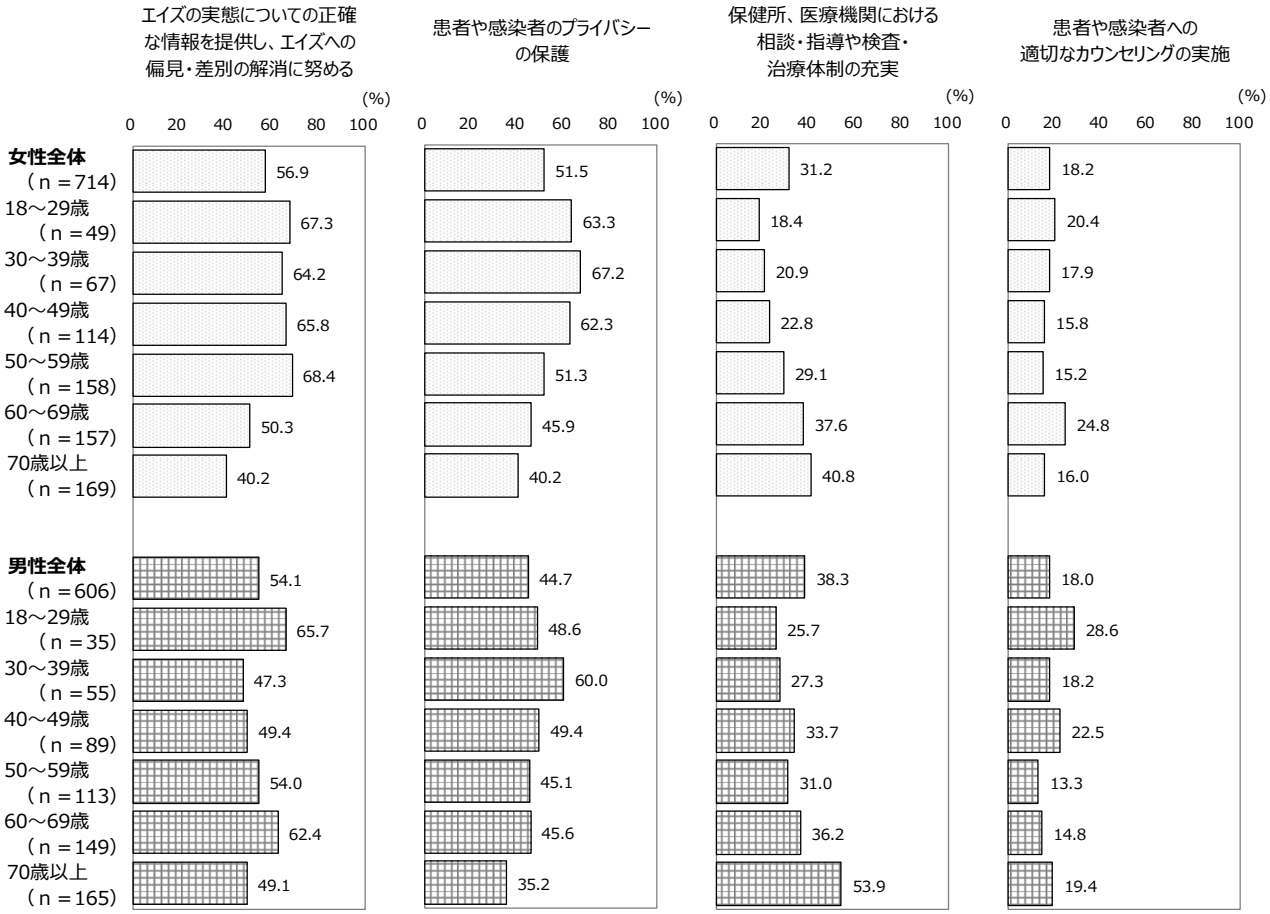
HIV 感染者、エイズ患者の人権を守るための行政への要望について、「エイズの実態についての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める」が 55.4%で最も高く、次いで「患者や感染者のプライバシーの保護」が 48.1%、「保健所、医療機関における相談・指導や検査・治療体制の充実」が 34.5%で続いている。

前回と比べると、「患者や感染者のプライバシーの保護」が 7.5 ポイント高くなり、「保健所、医療機関における相談・指導や検査・治療体制の充実」が 7.0 ポイント低くなった（図８－７)。

性別でみると、「患者や感染者のプライバシーの保護」では女性が 6.8 ポイント、「保健所、医療機関における相談・指導や検査・治療体制の充実」では男性が 7.1 ポイント、それぞれ高くなった。

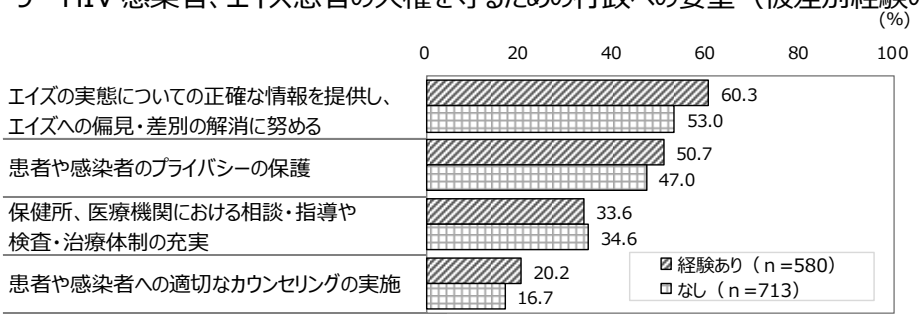
性・年代別でみると、「患者や感染者のプライバシーの保護」においては、女性では 18~29 歳から 50~59 歳の広い年代で 50%以上の高い割合となっているが、男性では 30~39 歳のみが高い割合で 60.0%となっている。男女とも 70 歳以上において「保健所、医療機関における相談・指導や検査・治療体制の充実」の割合が高くなっており、40%以上となっている。（図８－８）。

図８－８　HIV 感染者、エイズ患者の人権を守るための行政への要望（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、「エイズの実態についての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める」が被差別経験のある人で 60.3%、被差別経験のない人で 53.0%と 7.3 ポイントの差が生じている(図８－９)。

図８－９　HIV 感染者、エイズ患者の人権を守るための行政への要望（被差別経験の有無別）

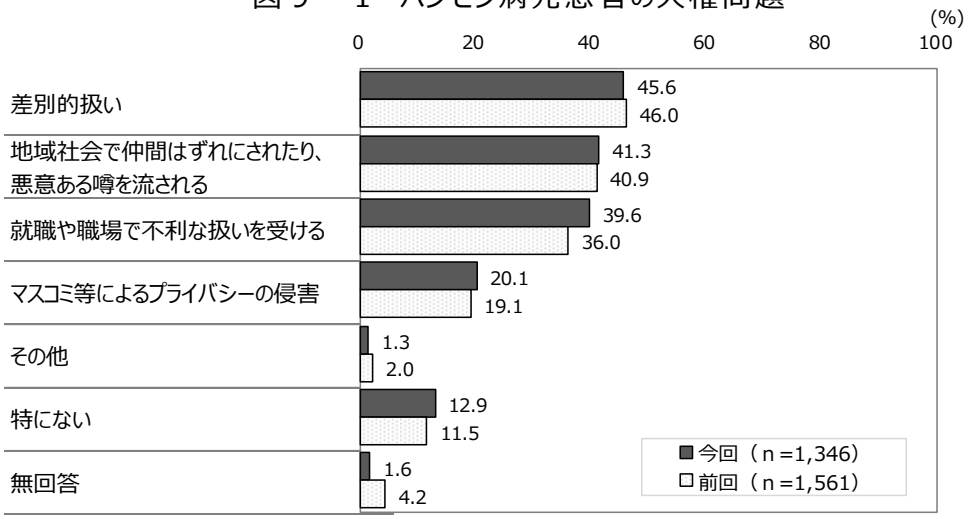


第９章　ハンセン病元患者の人たちの人権について

９－１　ハンセン病元患者の人権問題

問２５　次にあげるハンセン病元患者の人たちの人権問題のうち、特にひどいと思うのはどのような場合ですか。(○は２つまで)

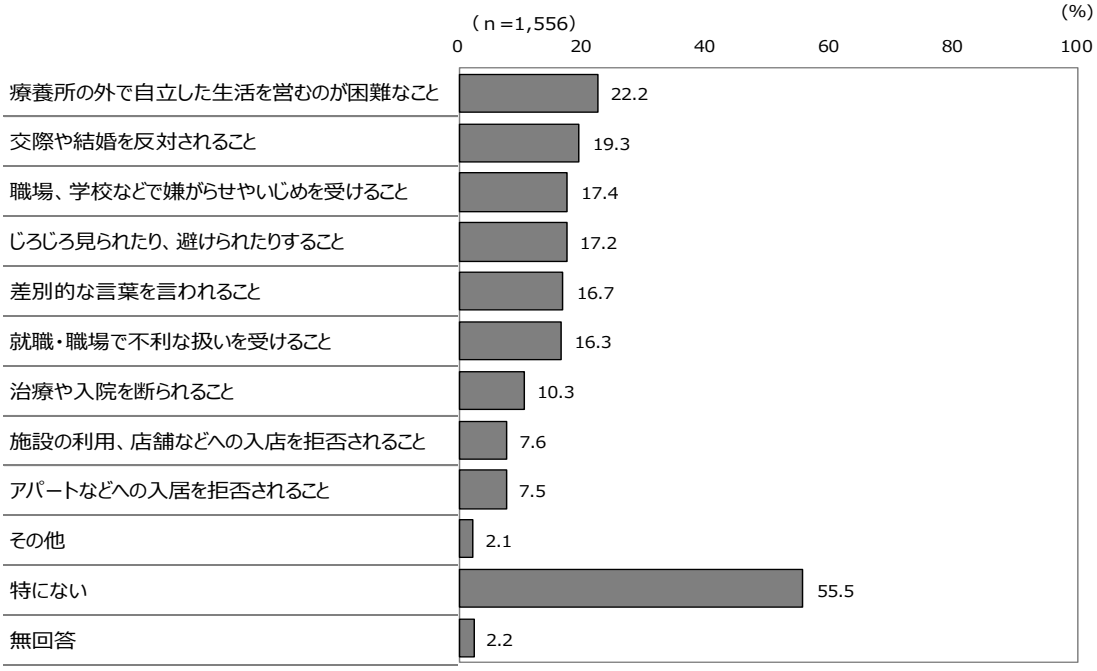
図９－１　ハンセン病元患者の人権問題



ハンセン病元患者の人権問題について、「差別的扱い」が 45.6%で最も高く、次いで、「地域社会で仲間はずれにされたり、悪意ある噂を流される」が 41.3%、「就職や職場で不利な扱いを受ける」が 39.6%で続き、前回結果と大きな差はなかった(図９－１)。

また、国調査をみると、「差別的な言葉を言われること」（16.7%）と「就職・職場で不利な扱いを受けること」（16.3%）の差はほとんどなく、本調査とはやや異なる結果となっている(図９－２)。

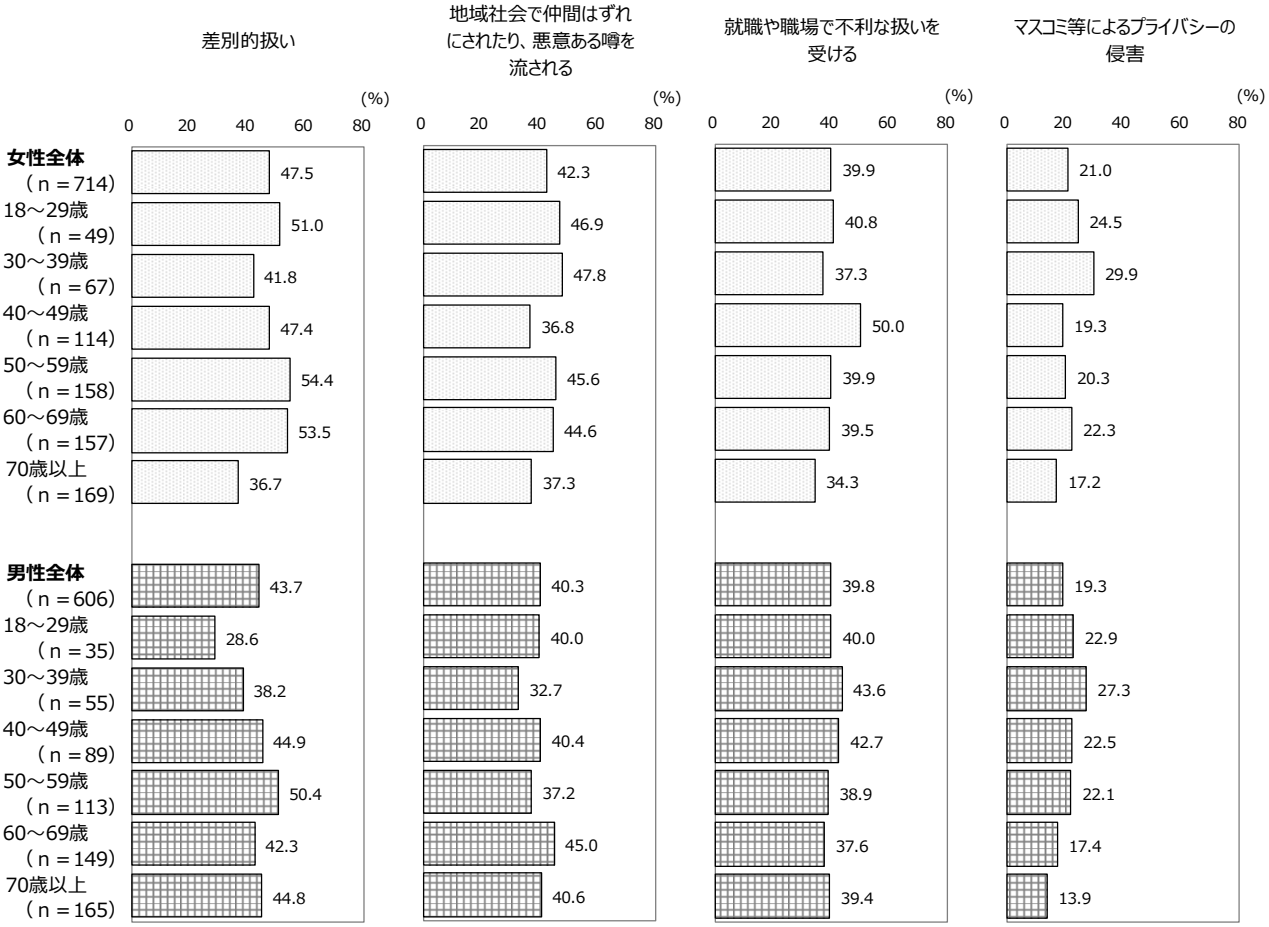
図９－２　参考）ハンセン病患者・元患者に関して起きていると思う人権問題【国調査（R4）】



性別でみると、男女の大きな差はみられない。

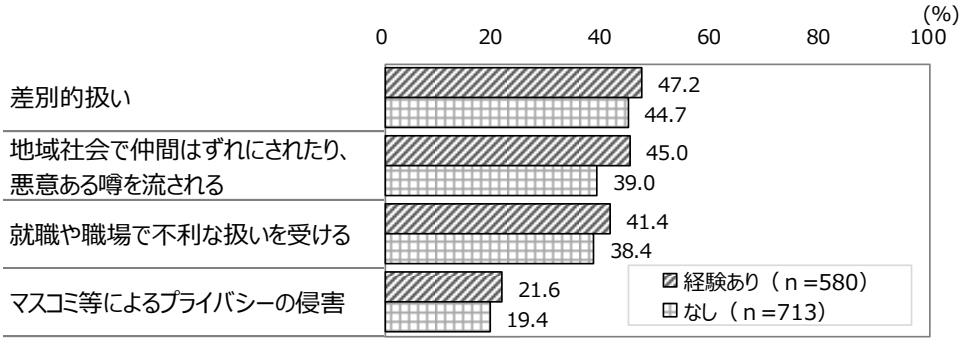
性・年代別でみると、「差別的扱い」は、女性の 18~29 歳と 50~59 歳から 60~69 歳にかけて 50%を超える割合となっている。男性は 50~59 歳で 50%を超え、他の年代より高くなっている。「就職や職場で不利な扱いを受ける」では、女性の 40~49 歳において、50.0%の割合があり、男女各年代を通じて最も高い割合となっている(図９－３)。

図９－３　ハンセン病元患者の人権問題（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別では、いずれの項目も被差別経験のある人の回答割合が被差別経験のない人の回答割合より高くなっているが、特に「地域社会で仲間はずれにされたり、悪意ある噂を流される」では被差別経験のない人が 39.0%であるのに対し、被差別経験のある人は 45.0%で 6.0 ポイント高くなっている(図９－４)。

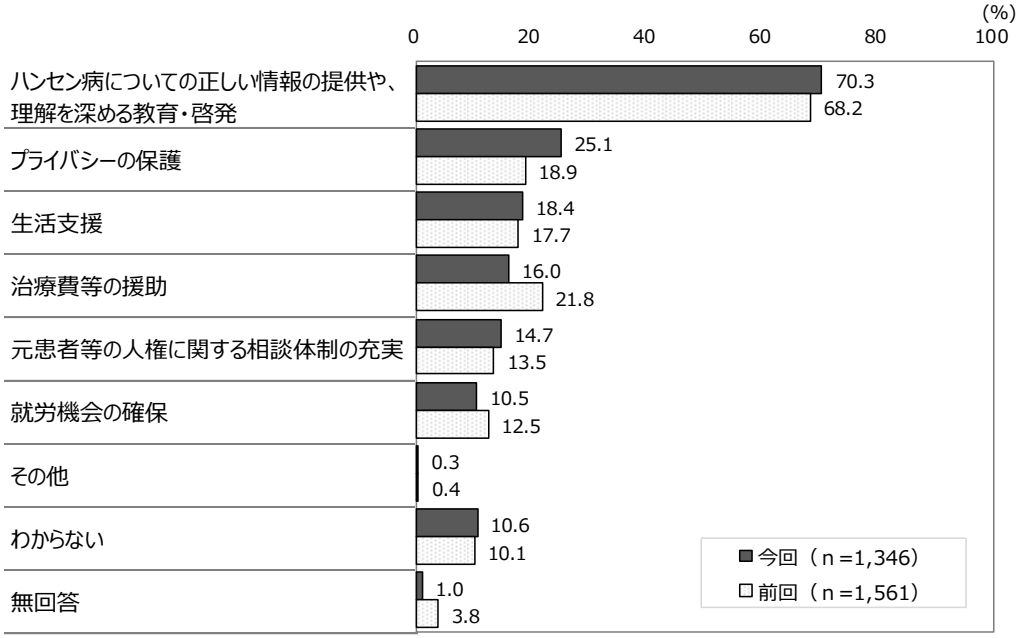
図９－４　ハンセン病元患者の人権問題（被差別経験の有無別）



９－２　ハンセン病元患者の人権を守るための行政への要望

問２６　ハンセン病元患者の人たちの人権を守るためには、行政はどのようなことを行えばよいでしょうか。(○は２つまで)

図９－５　ハンセン病元患者の人権を守るための行政への要望



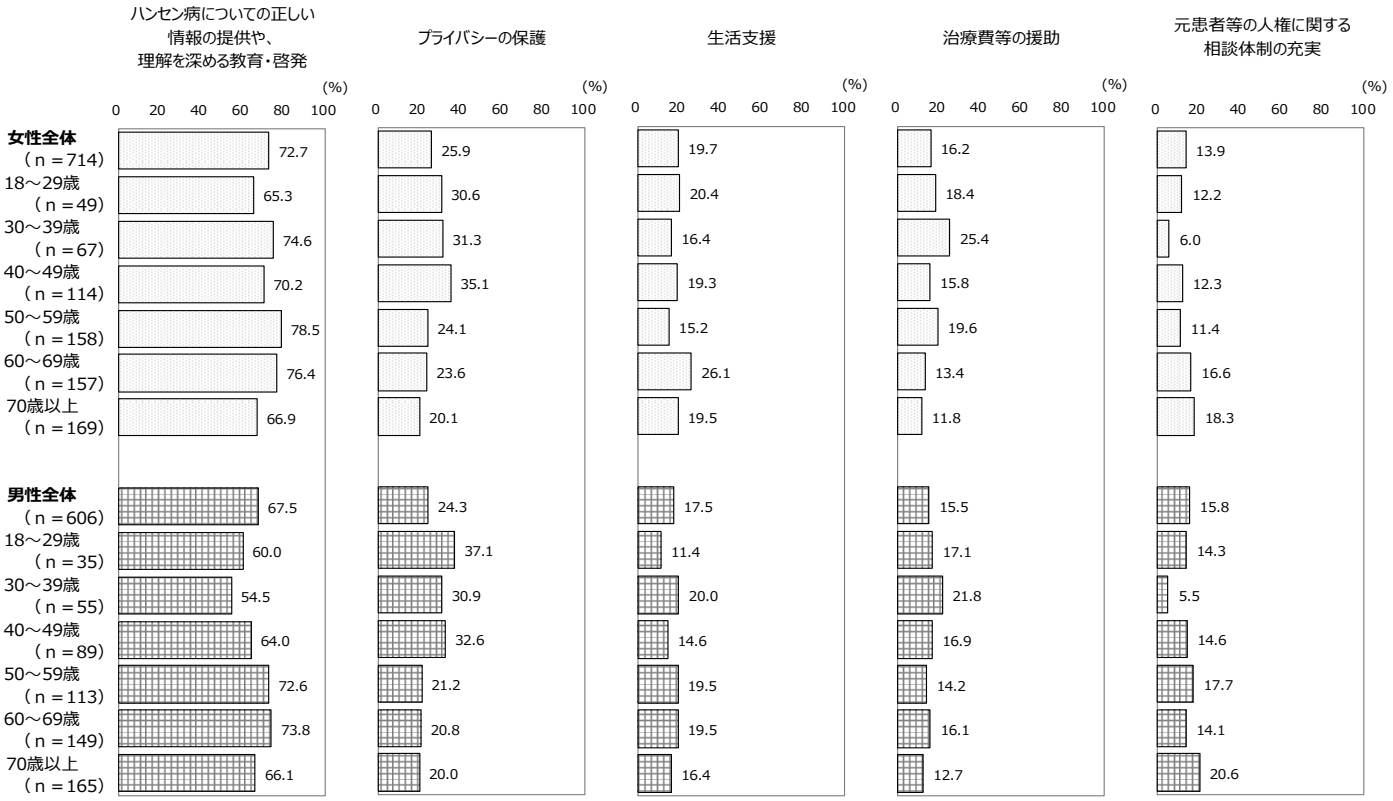
ハンセン病元患者の人権を守るための行政への要望について、「ハンセン病についての正しい情報の提供や、理解を深める教育・啓発」が 70.3%で他の項目に比べ突出して高くなっており、教育・啓発の重要性がうかがえる。次いで、「プライバシーの保護」が 25.1%、「生活支援」が 18.4%で続く。

前回と比較すると、「プライバシーの保護」が 6.2 ポイント高くなり、「治療費等の援助」が 5.8 ポイント低くなった(図９－５)。

性別でみると、「ハンセン病についての正しい情報の提供や、理解を深める教育・啓発」では女性が5.2 ポイント高くなっている

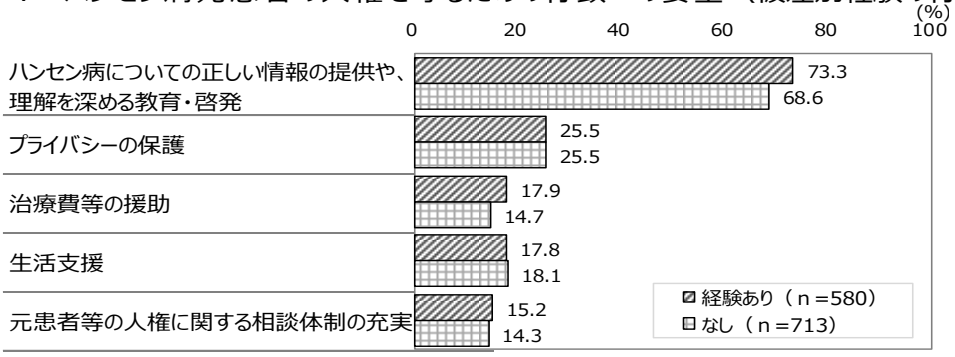
性・年代別でみると、「ハンセン病についての正しい情報の提供や、理解を深める「教育・啓発」は女性の 30~39 歳から 60~69 歳にかけて 70%以上の割合となっている。男性は 50~59 歳から 60~69 歳において 70%を超える割合がある。男女ともに 30~39 歳では「治療費等の援助」が高くなっており、20%を超えている（図９－６）。

図９－６　ハンセン病元患者の人権を守るための行政への要望（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、「ハンセン病についての正しい情報の提供や、理解を深める教育・啓発」で被差別経験のない人が 68.6%であるのに対し、被差別経験のある人は 73.3%で 4.7 ポイント高くなっている。また、「治療費の援助」では被差別経験のない人が 14.7%であるのに対し、被差別経験のある人は 17.9%で 3.2 ポイント高くなっている(図９－７)。

図９－７　ハンセン病元患者の人権を守るための行政への要望（被差別経験の有無別）

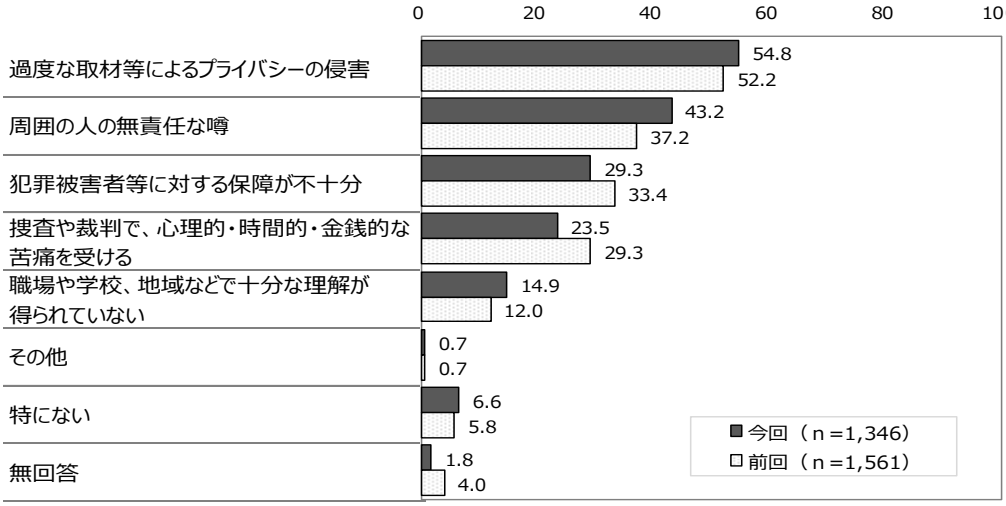


第１０章　犯罪被害者等の人権について

１０－１　犯罪被害者等の人権問題

問２７　次にあげる犯罪被害者やその家族の人たちの人権問題のうち、特にひどいと思うのはどのような場合ですか。(○は２つまで)

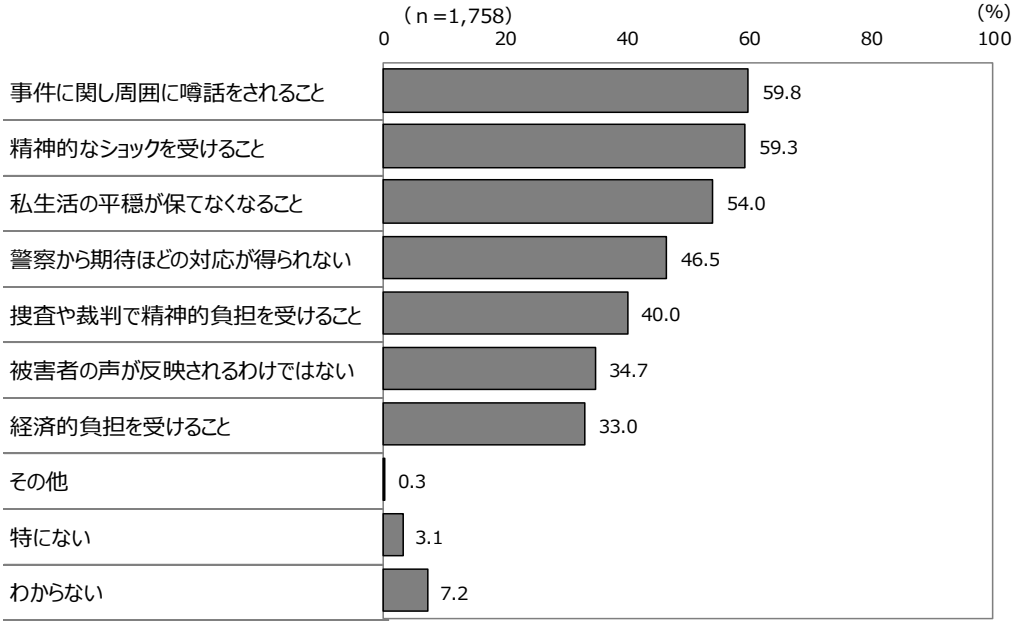
図１０－１　犯罪被害者等の人権問題



犯罪被害者等の人権問題について、「過度な取材等によるプライバシーの侵害」が54.8%で最も高く、次いで、「周囲の人の無責任な噂」が 43.2%、「犯罪被害者等に対する保障が不十分」が 29.3%と続く。前回と順位は同じだが、「周囲の人の無責任な噂」は前回より 6.0 ポイント高くなり、「捜査や裁判で、心理的・時間的・金銭的な苦痛を受ける」は前回より 5.8 ポイント低くなった。(図１０－１)。

国調査においても、「事件に関し周囲に噂話をされること」が 59.8%で最も高く、犯罪被害者等の人権問題では“周囲の噂”への関心が高いことがうかがえる。（図１０－２)。

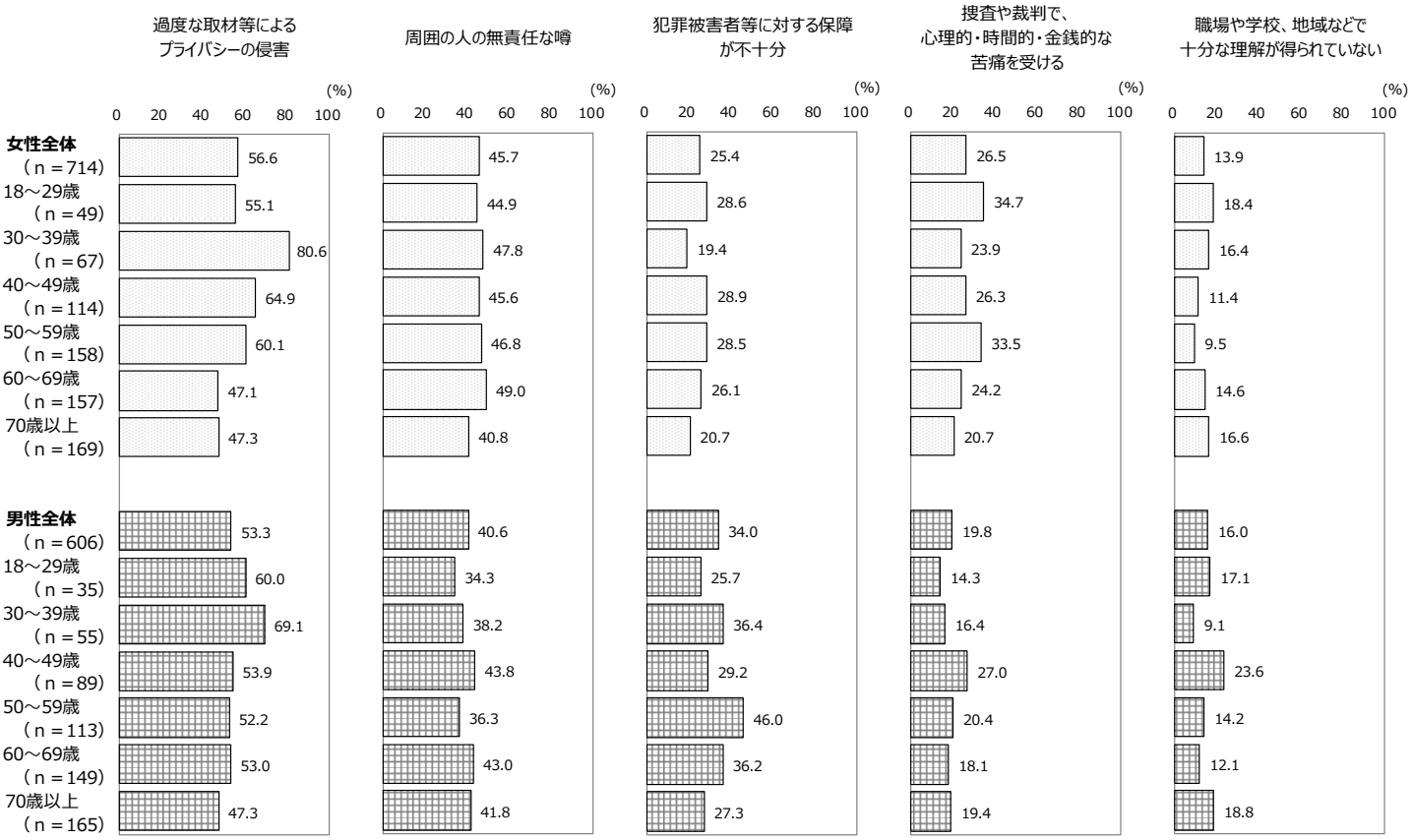
図１０－２　参考）犯罪被害者等に関して起きていると思う人権問題【国調査（H29）】



性別でみると、「捜査や裁判で、心理的・時間的・金銭的な苦痛を受ける」は 6.7 ポイント、「周囲の人の無責任な噂」は 5.1 ポイント、それぞれ女性が高くなっている。一方、「犯罪被害者等に対する保障が不十分」では男性が 8.6 ポイント高くなっている。

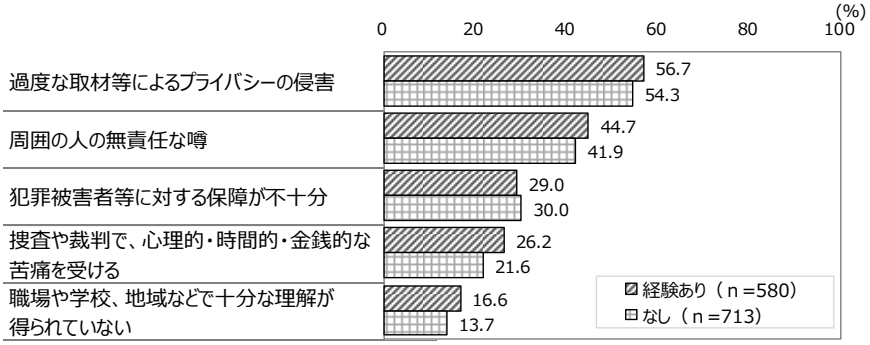
性・年代別でみると、「過度な取材等によるプライバシーの侵害」は女性の 30~39 歳から 50~59 歳にかけて、男性の 18~29 歳から 30~39 歳にかけて 60%以上の割合があり、特に女性の 30~39 歳で 80.6%と突出して高くなっている。「犯罪被害者等に対する保障が不十分」は、男性の 50~59 歳で 46.0%と男女各年代を通じて最も高くなっている(図１０－３)。

図１０－３　犯罪被害者等の人権問題（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、「捜査や裁判で、心理的・時間的・金銭的な苦痛を受ける」で被差別経験のない人の割合が 21.6%であるのに対し、被差別経験のある人では 26.2%で 4.6 ポイント高くなっている(図１０－４)。

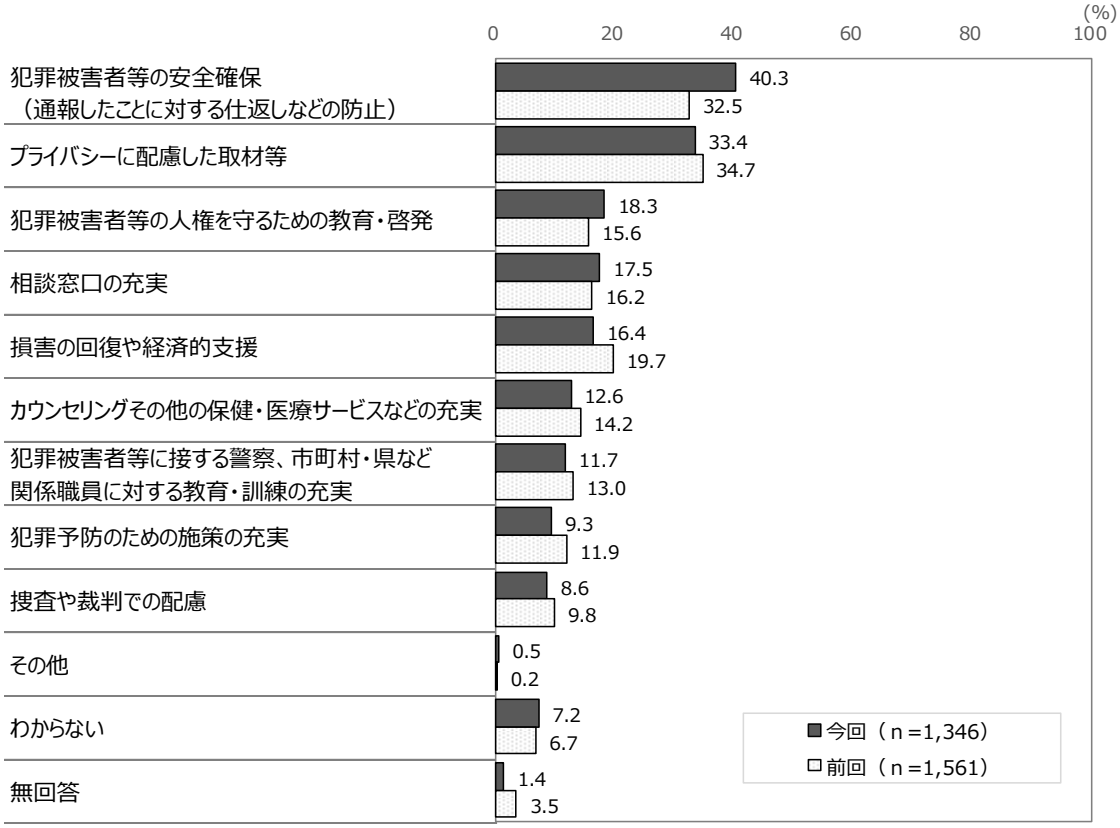
図１０－４　犯罪被害者等の人権問題（被差別経験の有無別）



１０－２　犯罪被害者等の人権を守るための行政への要望

問２８　犯罪被害者やその家族の人たちの人権を守るためには、行政はどのようなことを行えばよいでしょうか。(○は２つまで)

図１０－５　犯罪被害者等の人権を守るための行政への要望



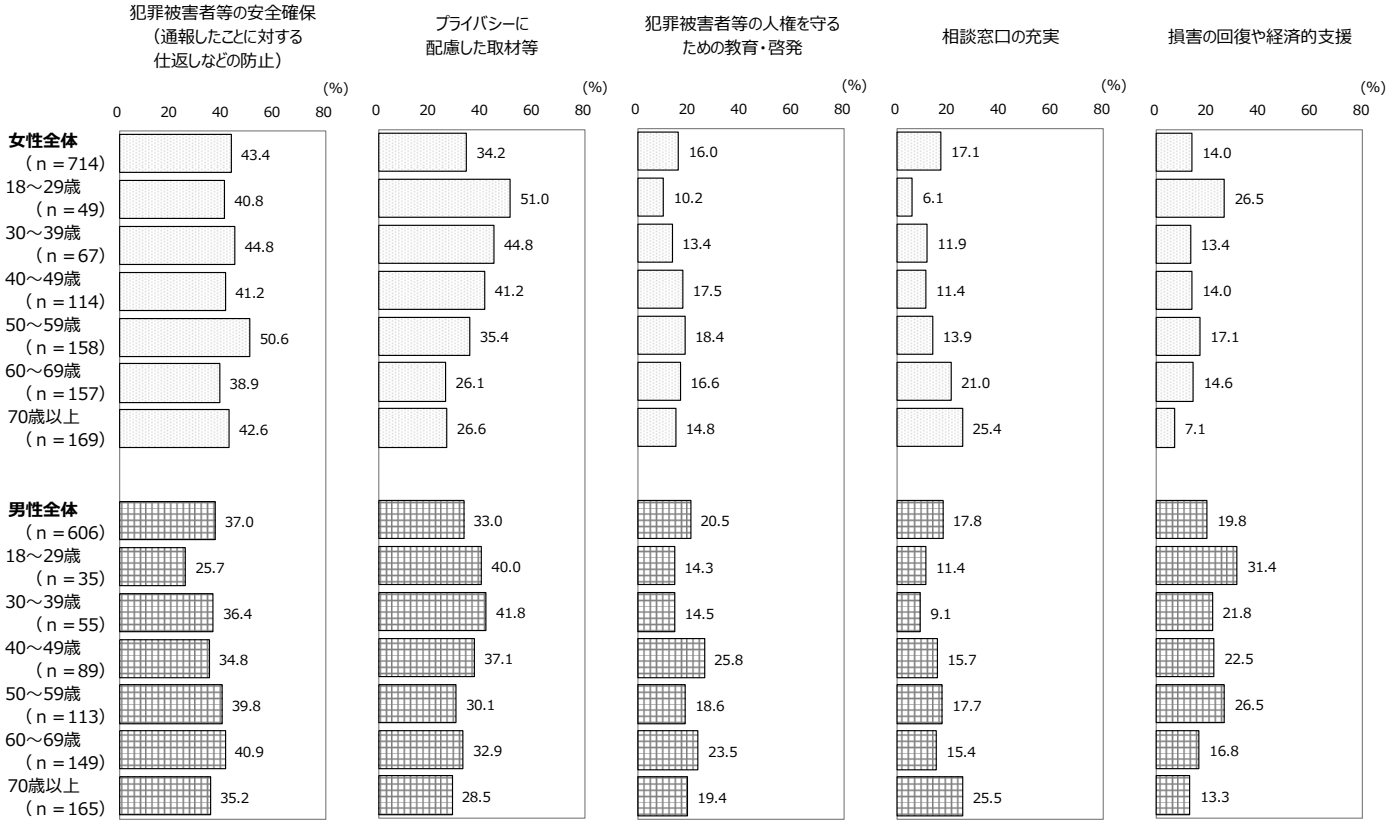
犯罪被害者等の人権を守るための行政への要望について、「犯罪被害者等の安全確保（通報したことに対する仕返しなどの防止）」が 40.3%で最も高く、次いで「プライバシーに配慮した取材等」が 33.4%、「犯罪被害者等の人権を守るための教育・啓発」が 18.3%と続いた。「犯罪被害者等の安全確保（通報したことに対する仕返しなどの防止）」は前回より 7.8 ポイント高くなっている(図１０－５)。

性別でみると、「犯罪被害者等の安全確保（通報したことに対する仕返しなどの防止）」では 6.4 ポイント女性が高く、「損害の回復や経済的支援」では 5.8 ポイント男性が高くなっている。

性・年代別でみると、「プライバシーに配慮した取材等」は女性の 18~29 歳から 40~49 歳、男性の 18~29 歳から 30~39 歳において 40%を超える割合で、高くなっている。特に女性の 18~29 歳は 51.0%と突出している。

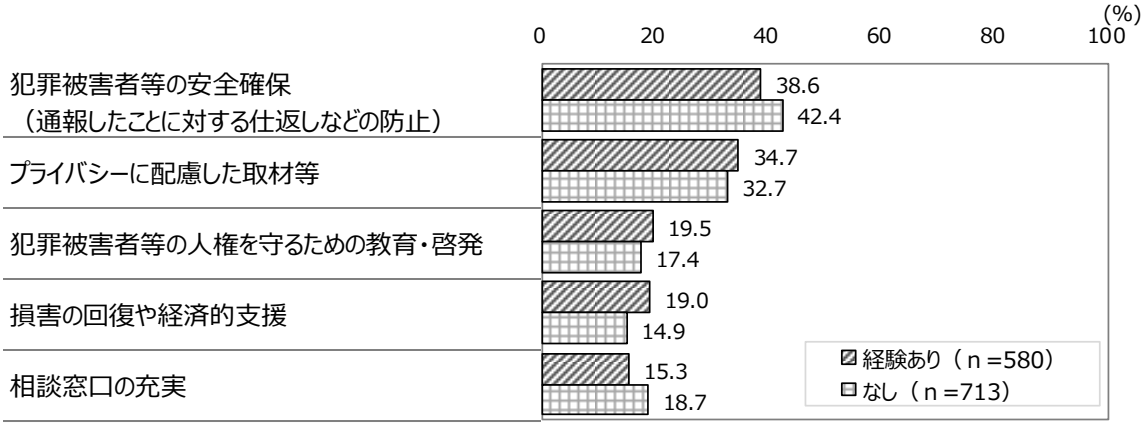
「相談窓口の充実」は、女性においては年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる(図１０－６)。

図１０－６　犯罪被害者等の人権を守るための行政への要望（性別、性･年代別）[上位５項目]



被差別経験の有無別でみると、「犯罪被害者等の安全確保(通報したことに対する仕返しなどの防止)」で被差別経験のない人が 42.4%であるのに対し、被差別経験のある人では 38.6%で 3.8 ポイント高くなっている。一方、「損害の回復や経済的支援」では被差別経験のある人が 19.0%であるのに対し、被差別経験のない人では 14.9%で 4.1 ポイント高くなっている。(図１０－７)。

図１０－７　犯罪被害者等の人権を守るための行政への要望（被差別経験の有無別）[上位５項目]

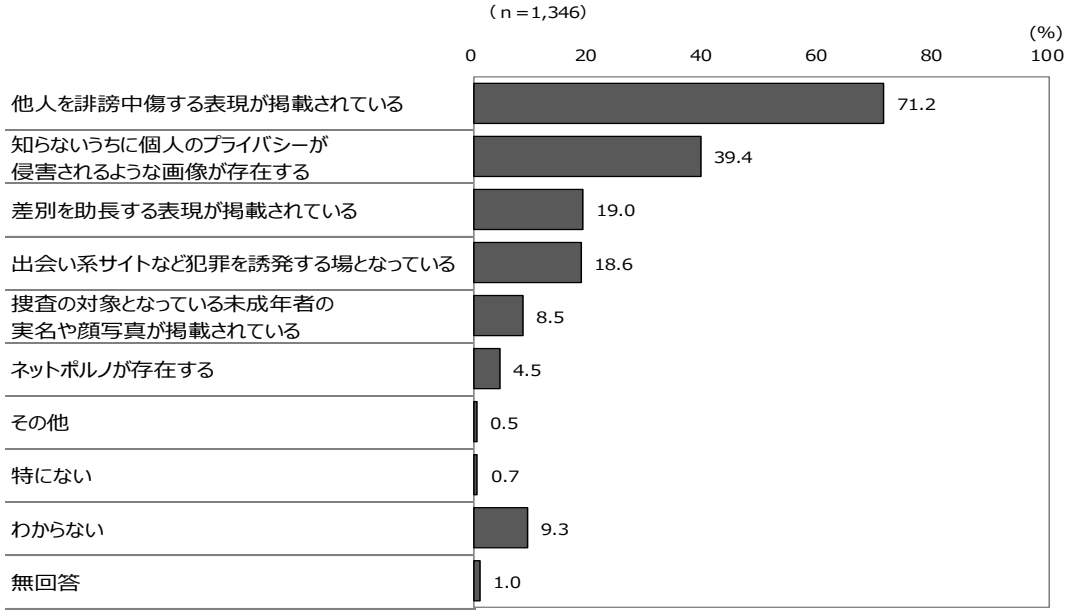


第１１章　インターネットによる人権侵害について

１１－１　インターネットによる人権侵害の問題

問２９　インターネットによる人権侵害のうち、特にひどいと思うのはどのような場合ですか。
（○は２つまで）

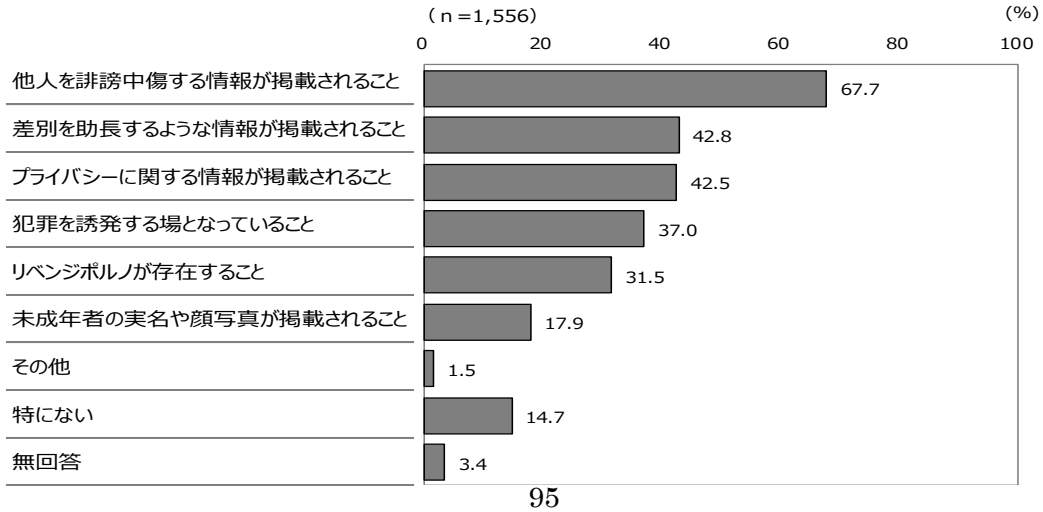
図１１－１　インターネットによる人権侵害の問題



インターネットによる人権侵害の問題について、「他人を誹謗中傷する表現が掲載されている」が 71.2%で最も高く、次いで、「知らないうちに個人のプライバシーが侵害されるような画像が存在する」が 39.4%と続いている(図１１－１)。

国調査においても、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が 67.7%で最も高く、次いで、「差別を助長するような情報が掲載されること」が 42.8%、「プライバシーに関する情報が掲載されること」が 42.5%となっており、上位 3 項目の傾向は似ているといえる(図１１－２)。

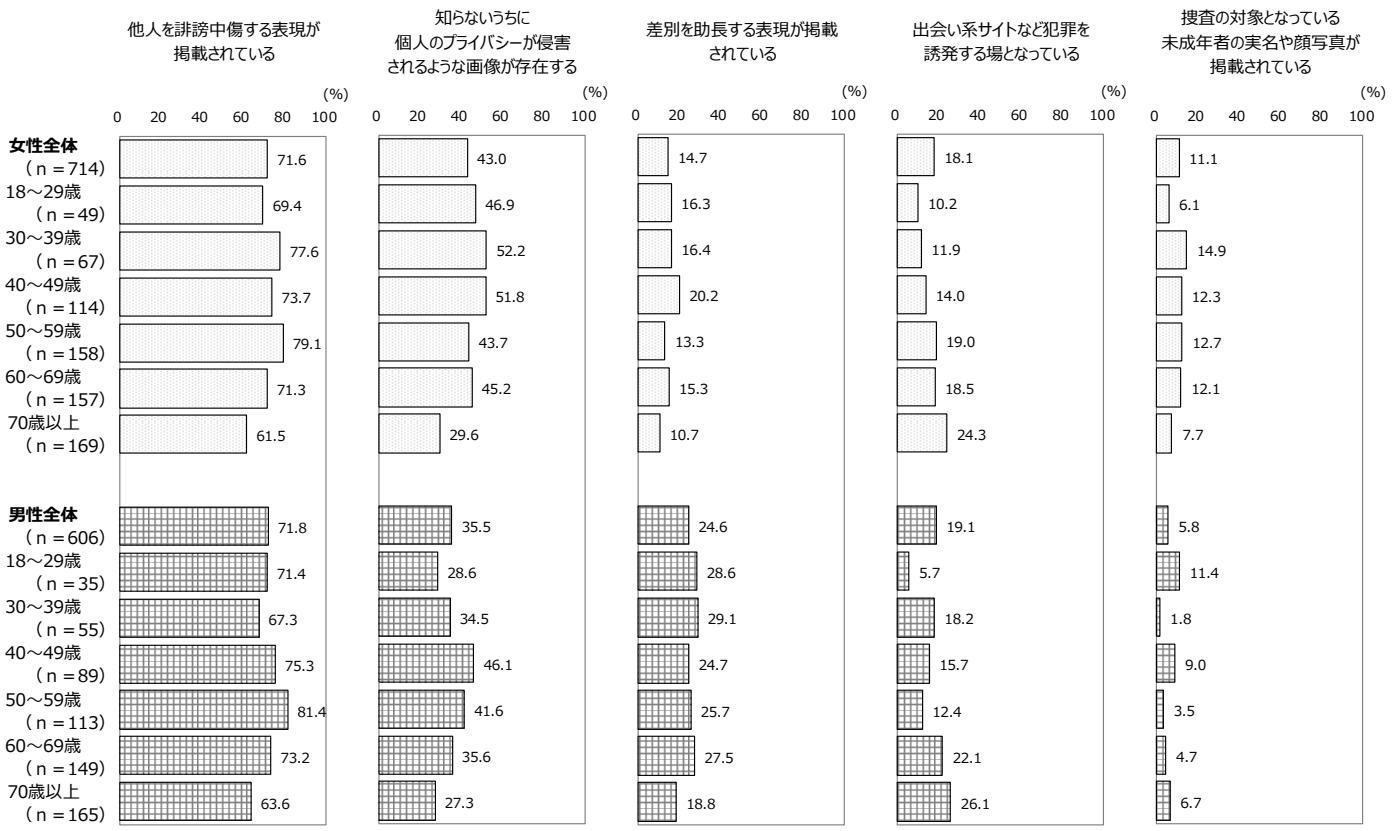
図１１－２　参考）インターネットに関して起きていると思う人権問題【国調査（R4）】



性別でみると、「知らないうちに個人のプライバシーが侵害されるような画像が存在する」は女性が 7.5 ポイント高く、「差別を助長する表現が掲載されている」は男性が 9.9 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「他人を誹謗中傷する表現が掲載されている」は、女性の 30~39 歳から 60~69 歳にかけて 70%を超える割合があり、関心の高さがうかがえる。男性も 18~29 歳と 40~49 歳から 60~69 歳にかけて 70%を超えており、特に 50~59 歳では 81.4%となっている。「差別を助長する表現が掲載されている」では男性の 18~29 歳から 60~69 歳の広い年代で 20%を超えており、同年代の女性より関心が高いのがうかがえる（図１１－３）。

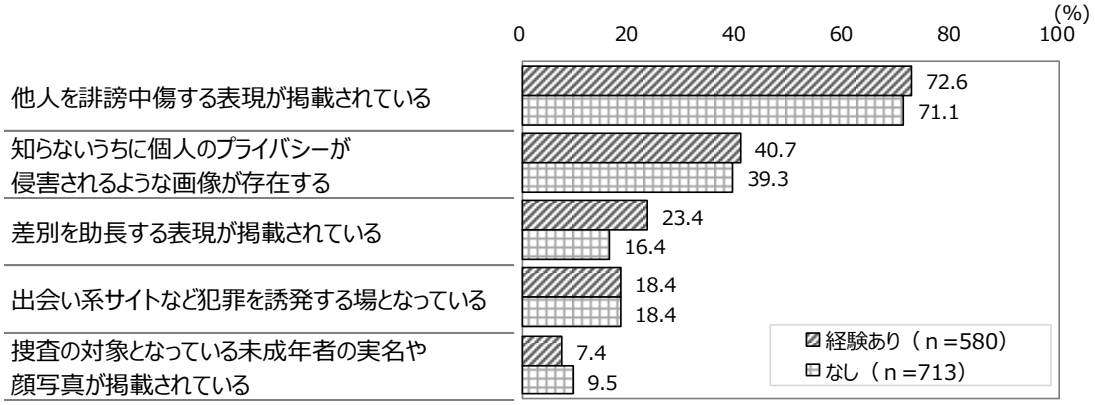
図１１－３　インターネットによる人権侵害の問題（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、上位 3 項目で被差別経験のある人の回答割合が被差別経験のない人の回答割合より高くなっているが、特に「差別を助長する表現が掲載されている」で被差別経験のない人が 16.4%であるのに対し、被差別経験のある人では 23.4%で 7.0 ポイント高くなっている(図１１－４)。

図１１－４　インターネットによる人権侵害の問題（被差別経験の有無別）

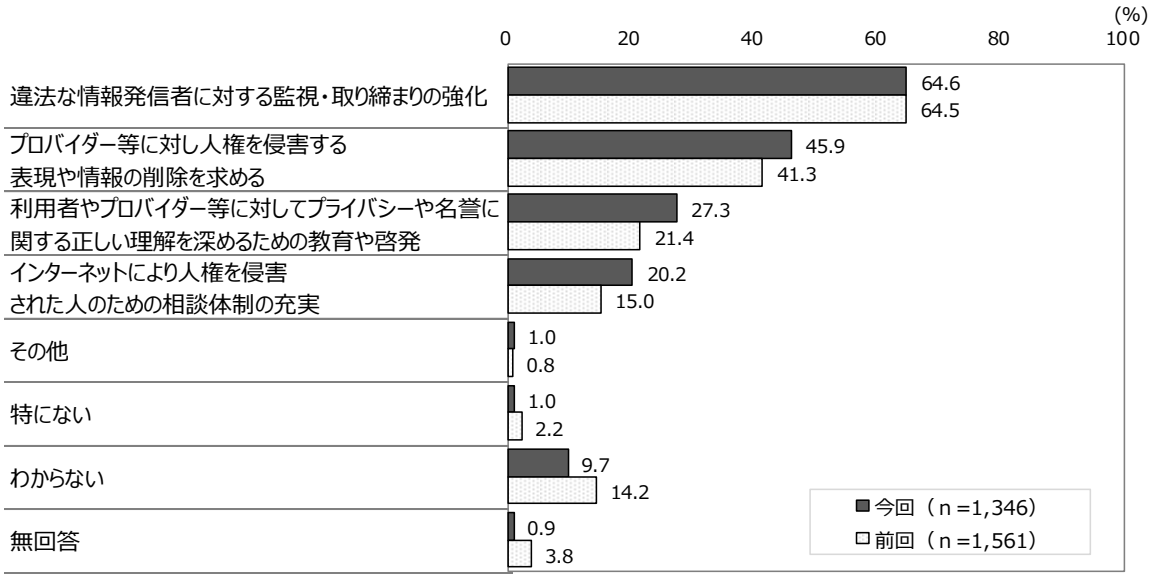
[上位５項目]



１１－２　インターネットによる人権侵害を解決するための行政への要望

問３０　インターネットによる人権侵害を解決するために、行政はどのようなことが必要だと思いますか。(○は２つまで)

図１１－５　インターネットによる人権侵害を解決するための行政への要望

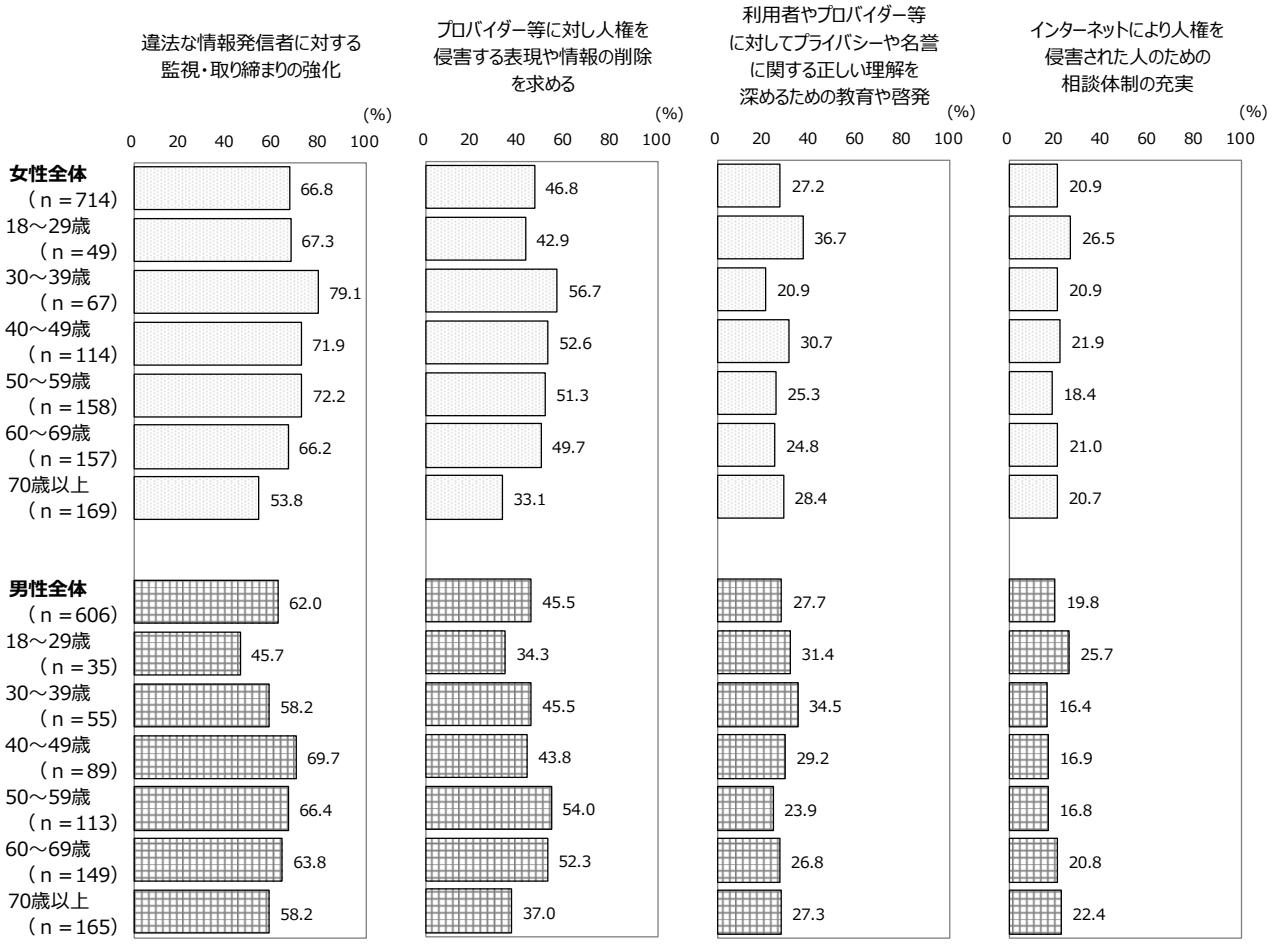


インターネットによる人権侵害を解決するための行政への要望について、「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりの強化」が 64.6%で最も高く、次いで「プロバイダー等に対し人権を侵害する表現や情報の削除を求める」が 45.9%となっており、情報を提供・発信する側への対応を求める回答が上位２項目を占めている。(図１１－５)。

性別でみると、男女による大きな差はみられない。

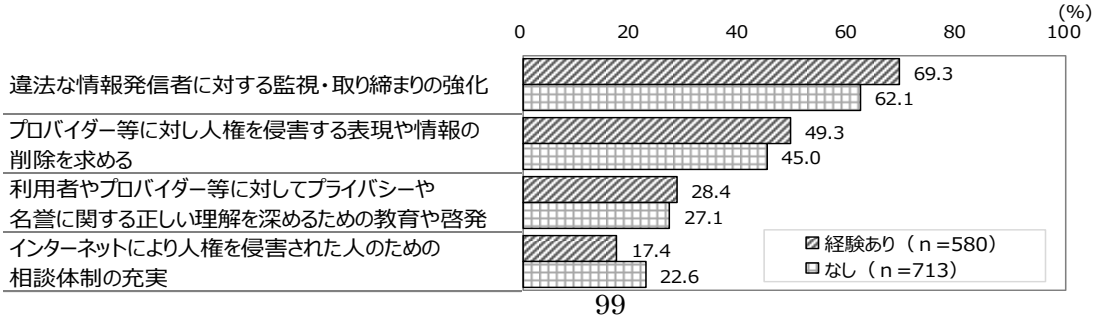
性・年代別でみると、「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりの強化」では、女性の 30~39 歳から 50~59 歳にかけて 70%以上の回答割合があり、特に 30~39 歳では 79.1%と高い割合となっている。男性では 40~49 歳から 60~69 歳で高く、60%を超えている。「インターネットにより人権を侵害された人のための相談体制の充実」は男女ともに 18~29 歳で最も割合が高く、女性で 26.5%、男性で 25.7%となっている(図１１－６)。

図１１－６　インターネットによる人権侵害を解決するための行政への要望（性別、性・年代別）



被差別経験の有無別でみると、「違法な情報発信者に対する監視取り締まりの強化」で被差別経験のない人が 62.1%であるのに対し、被差別経験のある人では 69.3%で 7.2 ポイント高くなっている。一方、「インターネットにより人権を侵害された人のための相談体制の充実」では被差別経験のある人が 17.4%であるのに対し、被差別経験のない人では 22.6%で 5.2 ポイント高くなっている。(図１１－７)。

図１１－７　インターネットによる人権侵害を解決するための行政への要望（被差別経験の有無別）

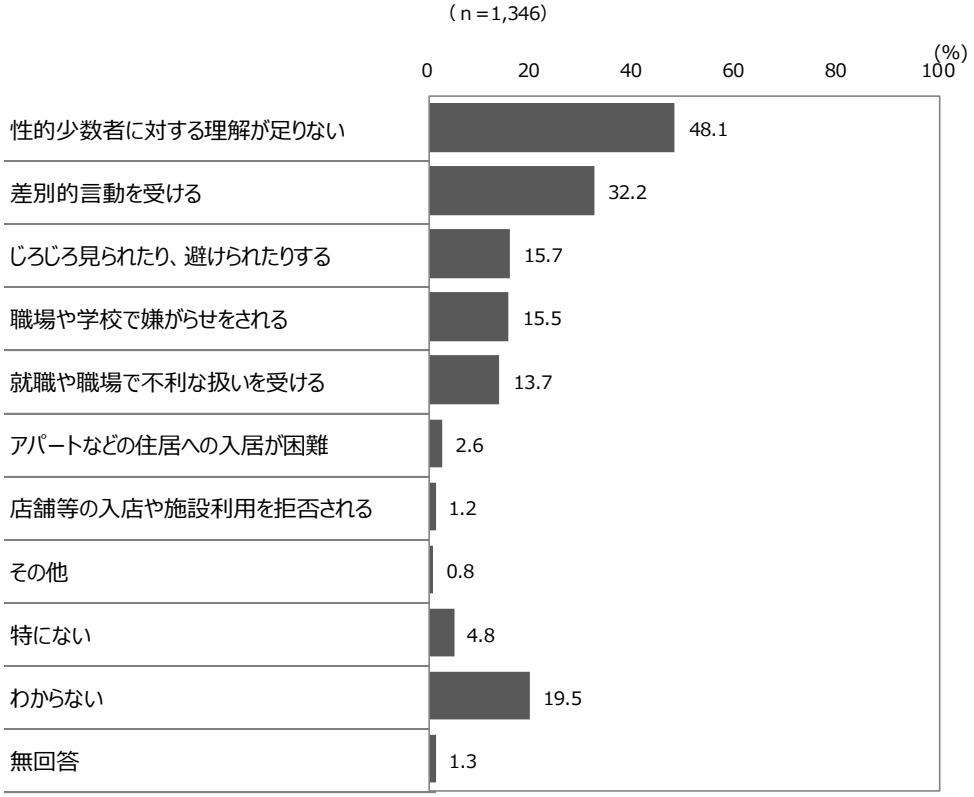


第１２章　性的少数者等の人権について

１２－１　性的少数者等の人権問題

問３１　性同一性障害や性的指向をはじめとする性的少数者の人権について、現在どのような問題が起きていると思いますか。（○は２つまで）

図１２－１　性的少数者等の人権問題



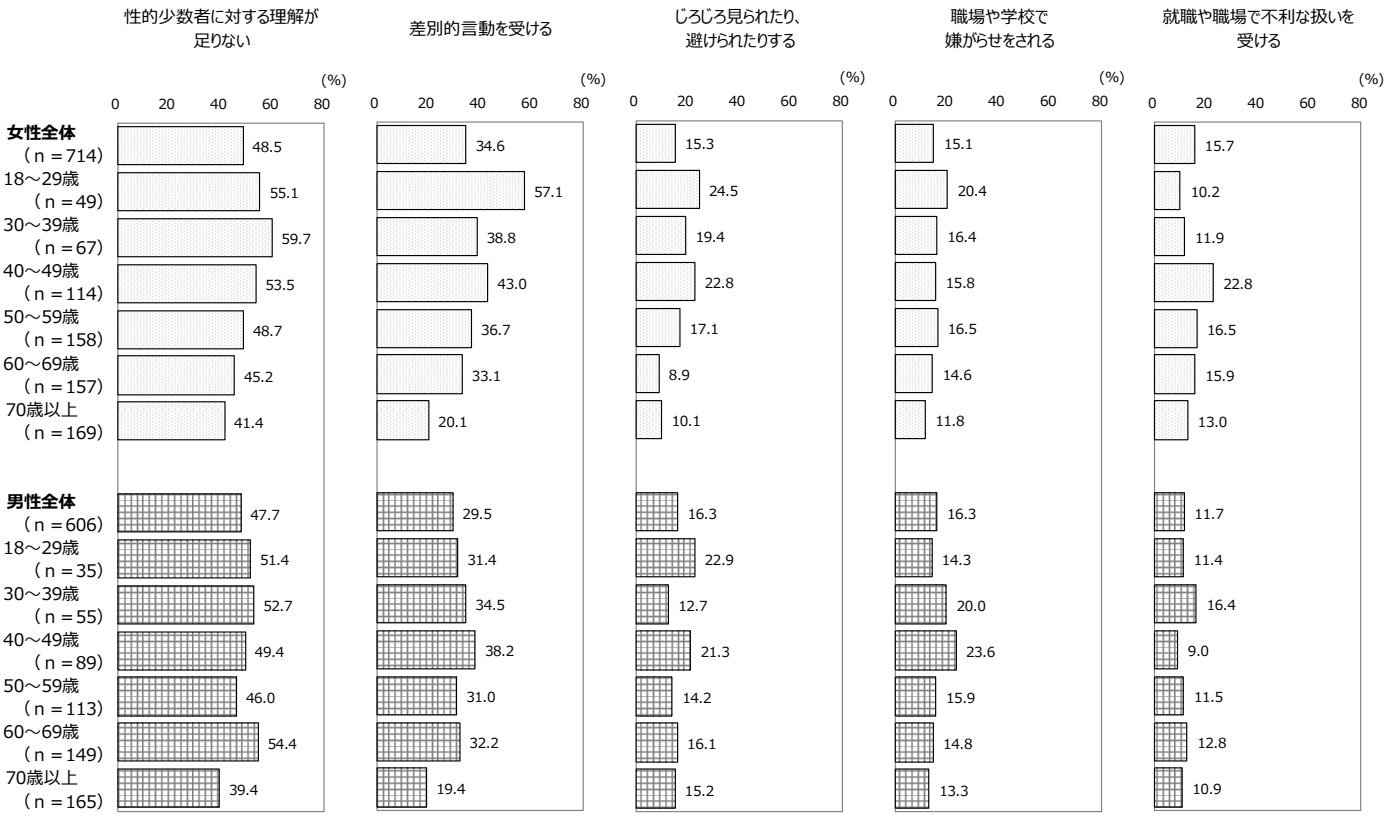
性的少数者等の人権問題について、「性的少数者に対する理解が足りない」が 48.1%で最も高く、次いで、「差別的言動を受ける」が 32.2%、「じろじろ見られたり、避けられたりする」が 15.7%で続く。

また、「わからない」は 19.5%であった(図１２－１)。

性別でみると、「差別的言動を受ける」が男性の 29.5%に対し、女性は 34.6%と 5.1 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「差別的言動を受ける」は女性の 18~29 歳で 57.1%と男女各年代を通じて最も高くなっている。「じろじろ見られたり、避けられたりする」については、男女ともに 18~29 歳と 40~49 歳で比較的高く、20%を超えている。「就職や職場で不利な扱いを受ける」は女性の 40~49 歳では 22.8%と最も高くなり、逆に男性の 40~49 歳では最も低くなっている（図１２－２）。

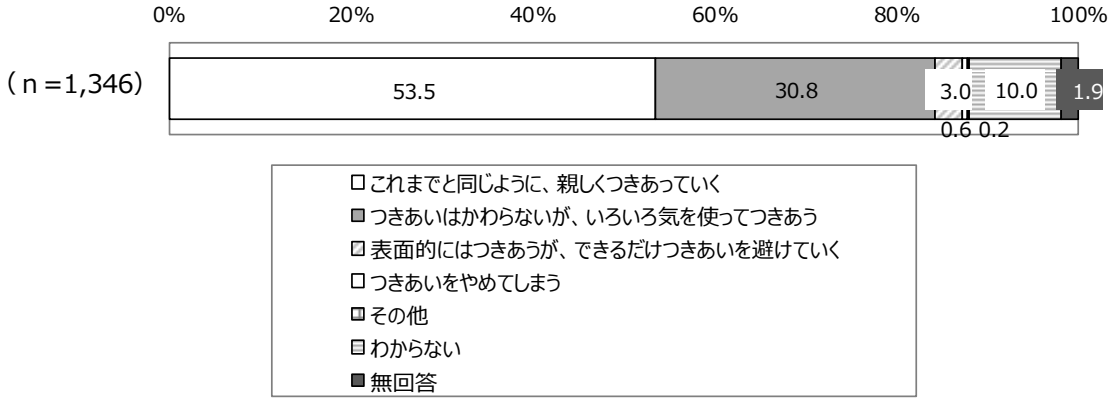
図１２－２　性的少数者等の人権問題（性別、性・年代別）



１２－２　親しい人が性的少数者とわかったときの対応

問３２　日頃から親しくつきあっている職場の人や、近所の人が性的少数者であることがわかったとき……。次の中からあなたのお気持ちに近いものを選んでください。
（○は１つだけ）

図１２－３　親しい人が性的少数者とわかったときの対応



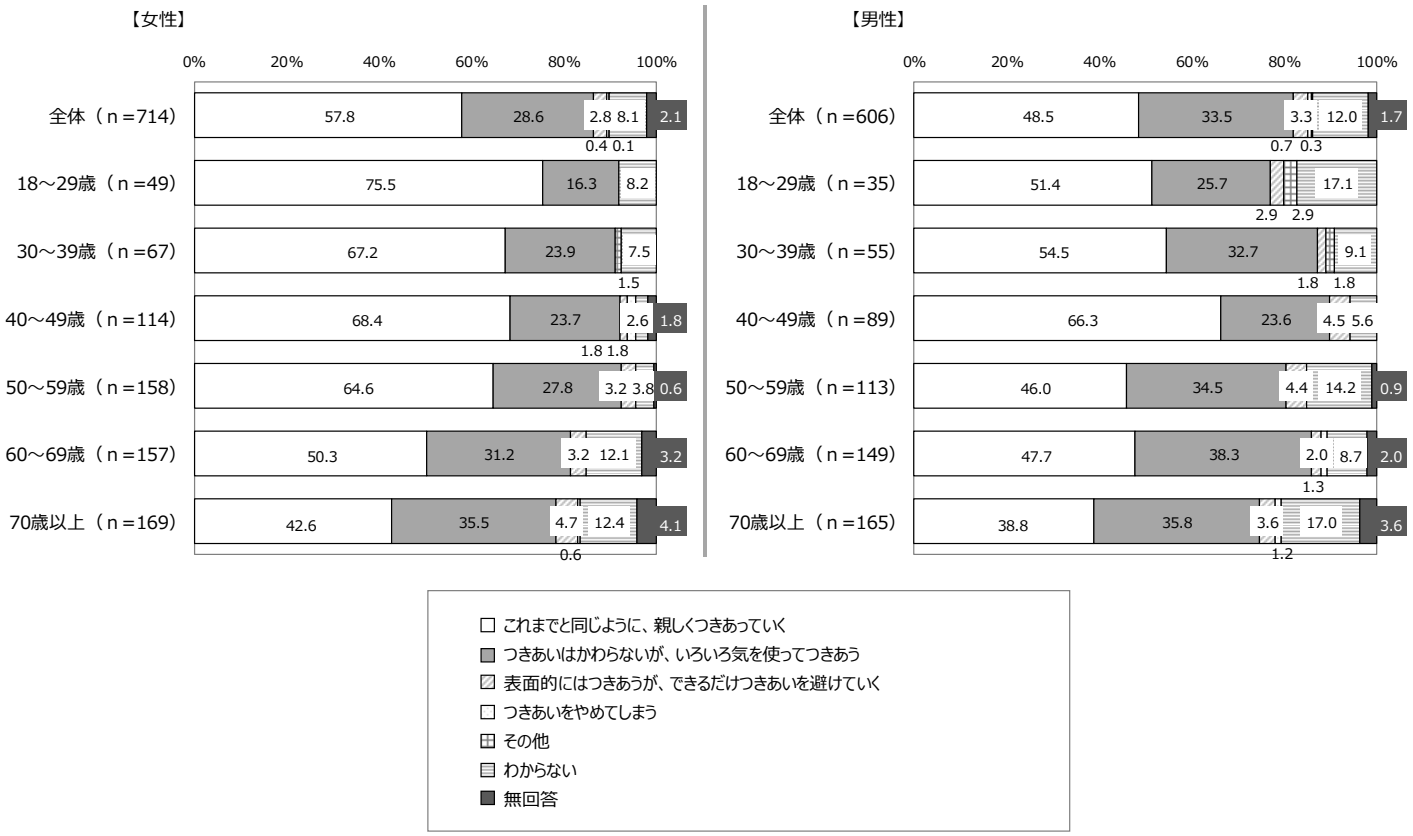
親しい人が性的少数者とわかったときの対応について、「これまでと同じように、親しくつきあっていく」が 53.5%で最も高く、次いで、「つきあいはかわらないが、いろいろ気を使ってつきあう」が 30.8%で続く。

また、「わからない」が 10.0%で全体で３番目に高くなっている(図１２－３)。

性別でみると、「これまでと同じように、親しくつきあっていく」が男性の 48.5%に対し、女性は 57.8%と 9.3 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、女性では「これまでと同じように、親しくつきあっていく」は年代が下がるにつれて高くなっており、「つきあいはかわらないが、いろいろ気を使ってつきあう」では年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「わからない」では女性の 60~69 歳から 70 歳以上、男性の 18~29 歳、50~59 歳および 70 歳以上で比較的高くなっており、10%を超えている。(図１２－４)。

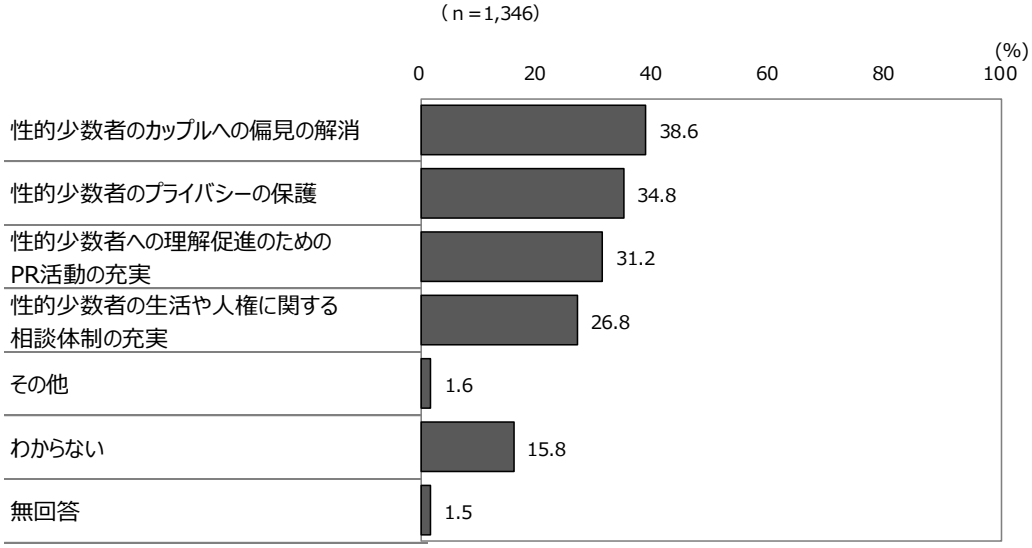
図１２－４　親しい人が性的少数者とわかったときの対応（性別、性・年代別）



１２－３　性的少数者等の人権を守るための行政への要望

問３３　性的少数者である人たちの人権を守るため、行政はどのようなことを行えばよいでしょうか。特に大切だと思うものを選んでください。（○は２つまで）

図１２－５　性的少数者等の人権を守るための行政への要望



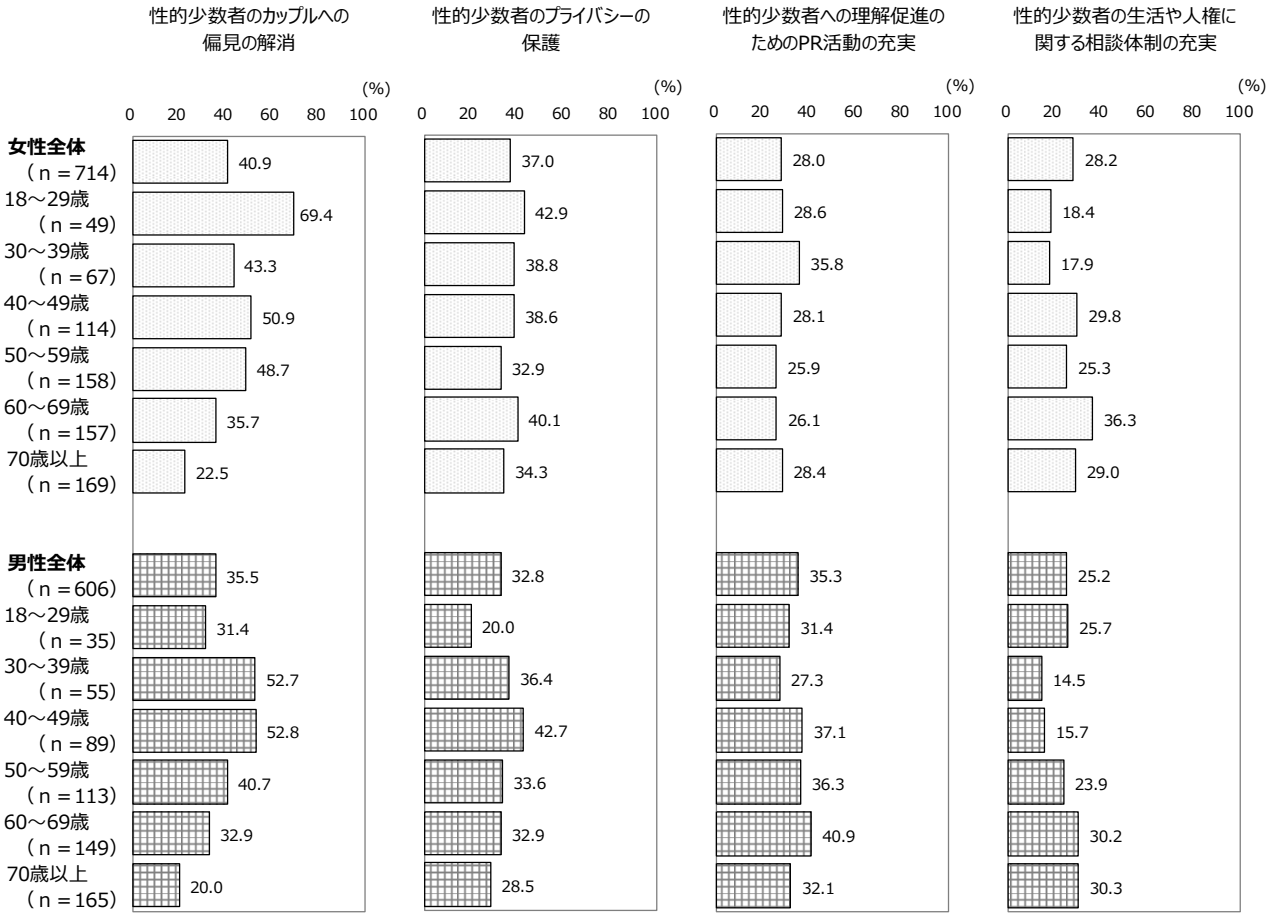
性的少数者等の人権を守るための行政への要望について、「性的少数者のカップルへの偏見の解消」が 38.6%で最も高く、次いで、「性的少数者のプライバシーの保護」が 34.8%、「性的少数者への理解促進のための PR 活動の充実」が 31.2%で続く。

なお、「わからない」は 15.8%であった(図１２－５)。

性別でみると、「性的少数者への理解促進のための PR 活動の充実」が女性の 28.0%に対し、男性は 35.3%と 7.3 ポイント高く、「性的少数者のカップルへの偏見の解消」が男性の 35.5%に対し、女性は 40.9%と 5.4 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「性的少数者のカップルへの偏見の解消」は女性の 18~29 歳と 40~49 歳、男性の 30~39 歳から 40~49 歳において 50%を超えて高くなっている。特に女性の 18~29 歳が高く 69.4%となっている。「性的少数者への理解促進のための PR 活動の充実」において、女性の 30~39 歳は 35.8%と他の年代より高くなっているが、男性の 30~39 歳は 27.3%で他の年代より低くなっている(図１２－６)。

図１２－６　性的少数者等の人権を守るための行政への要望（性別、性・年代別）

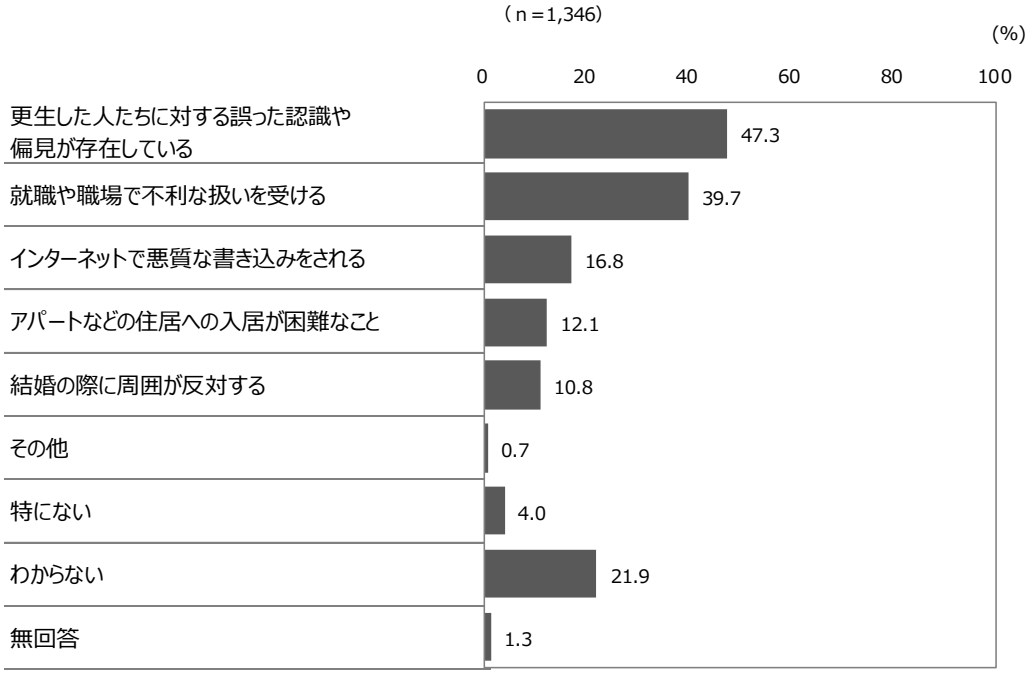


第１３章　刑を終えて出所した人の人権について

１３－１　刑を終えて出所した人の人権問題

問３４　刑を終えて出所した人の人権について、現在どのような問題が起きていると思いますか。（○は２つまで）

図１３－１　刑を終えて出所した人の人権問題



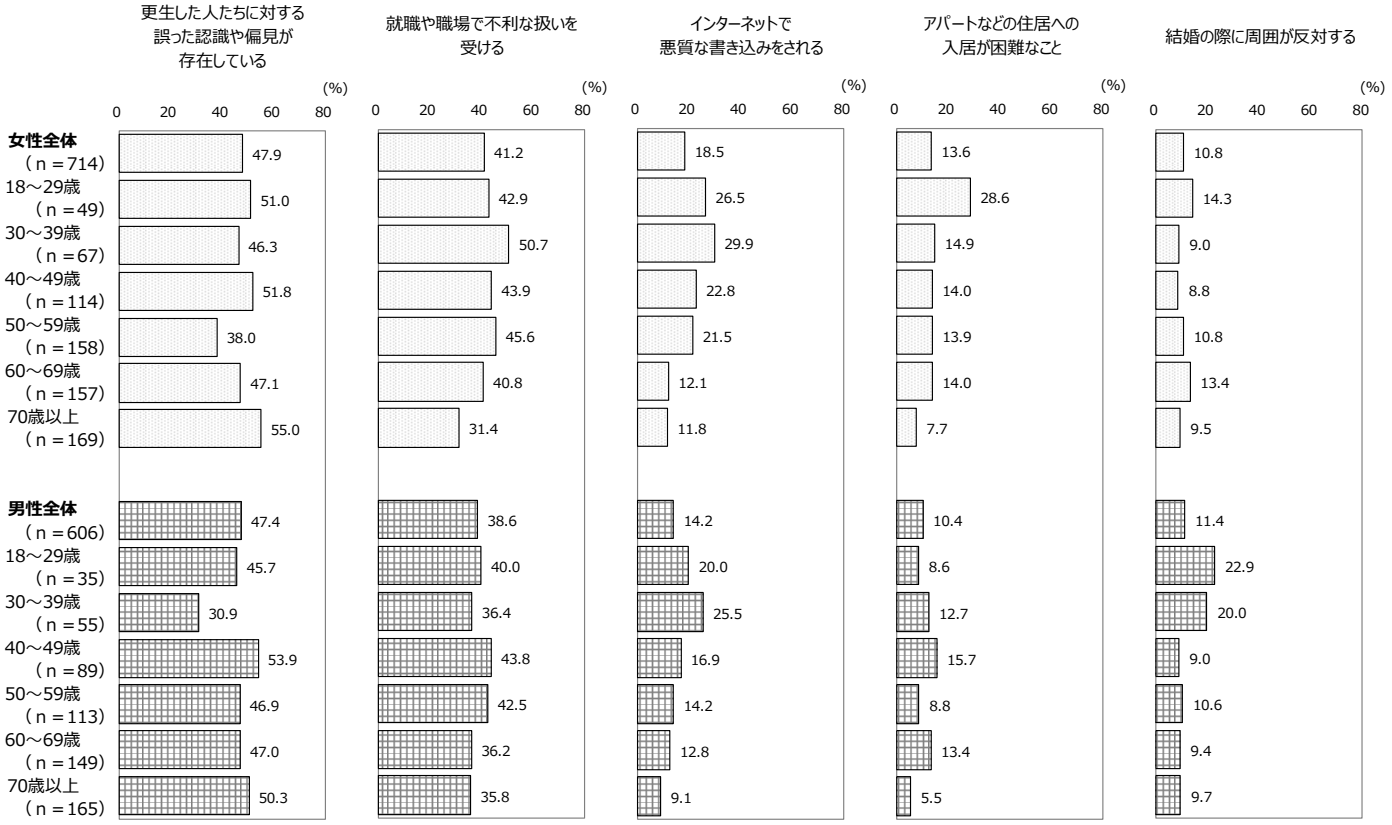
刑を終えて出所した人の人権問題について、「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在している」が 47.3%で最も高く、次いで、「就職や職場で不利な扱いを受ける」が 39.7%、「インターネットで悪質な書き込みをされる」が 16.8%で続く。

なお、「わからない」は 21.9%で全体の 3 番目に高くなっている。(図１３－１)。

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「インターネットで悪質な書き込みをされる」は男女ともに年代が低くなるにつれて高い傾向がみられる。女性では「アパートなどの住居への入居が困難なこと」が18~29 歳で 28.6%と男女各年代を通じて最も高くなっている。男性では「結婚の際に周囲が反対する」が 18~29 歳から 30~39 歳で高く、20%を超えている。（図１３－２）。

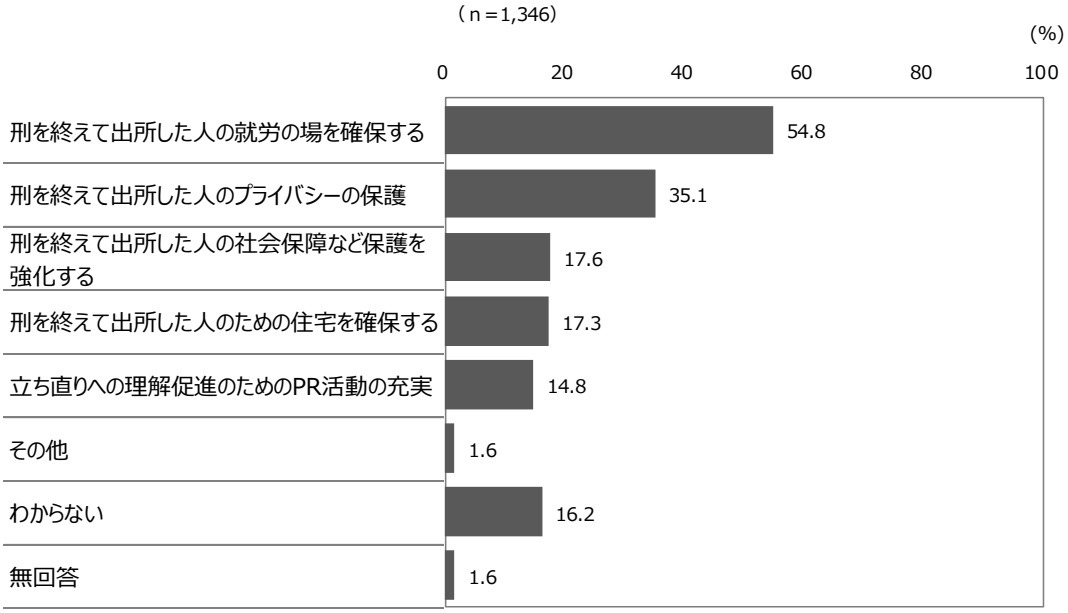
図１３－２　刑を終えて出所した人の人権問題（性別、性・年代別）



１３－２　刑を終えて出所した人たちの人権を守るための行政への要望

問３５　刑を終えて出所した人たちの人権を守るため、行政はどのようなことを行えばよいでしょうか。特に大切だと思うものを選んでください。（○は２つまで）

図１３－３　刑を終えて出所した人たちの人権を守るための行政への要望



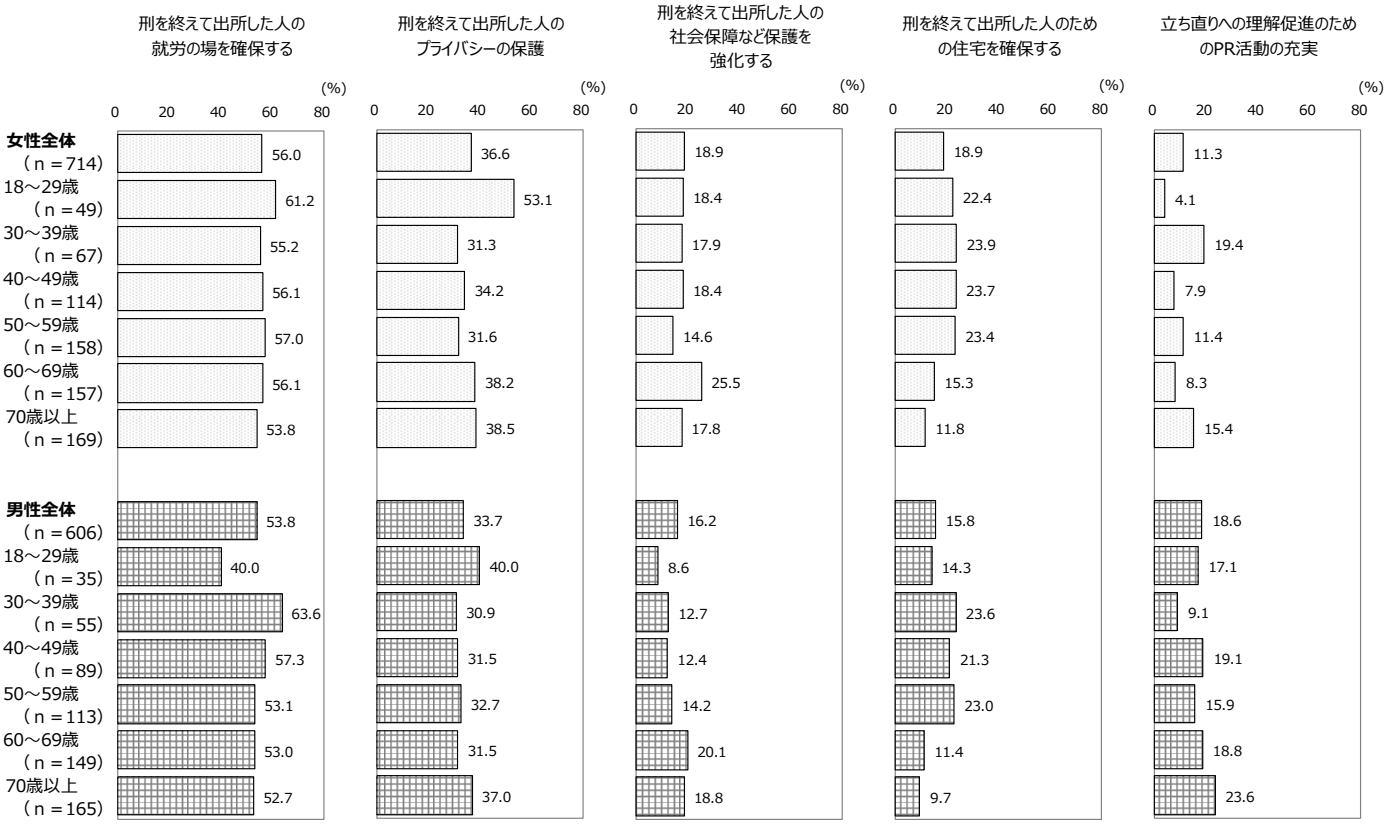
刑を終えて出所した人たちの人権を守るための行政への要望について、「刑を終えて出所した人の就労の場を確保する」が 54.8%で最も高く、次いで、「刑を終えて出所した人のプライバシーの保護」が 35.1%、「刑を終えて出所した人の社会保障など保護を強化する」が 17.6%で続く。

なお、「わからない」は 16.2%であった(図１３－３)。

性別でみると、「立ち直りへの理解促進のための PR 活動の充実」が女性の 11.3%に対し、男性は 18.6%と 7.3 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「刑を終えて出所した人のプライバシーの保護」は男女ともに 18~29 歳で最も高く、女性で 53.1%、男性で 40.0%となっている。「立ち直りへの理解促進のための PR 活動の充実」については、女性の 18~29 歳、40~49 歳及び 60~69 歳、男性の 30~39 歳で 10%未満の低い割合となっている。（図１３－４）。

図１３－４　刑を終えて出所した人たちの人権を守るための行政への要望

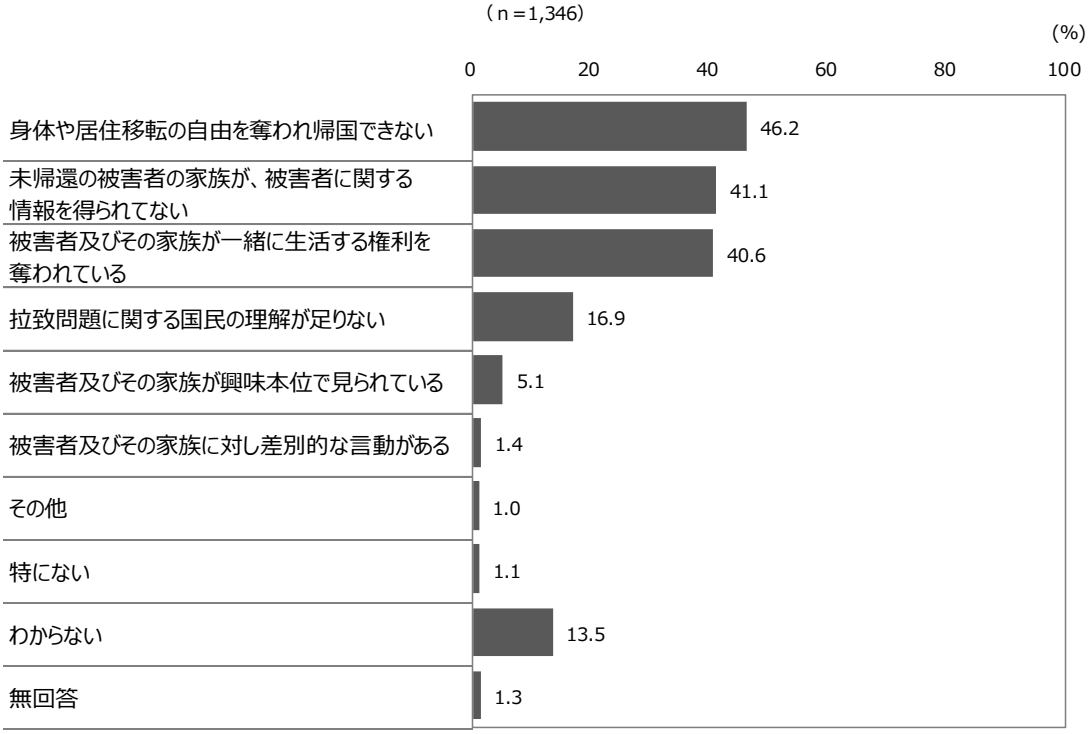


第１４章　北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権について

１４－１　北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権問題

問３６　北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権について、現在どのような問題が起きていると思いますか。（○は２つまで）

図１４－１　北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権問題



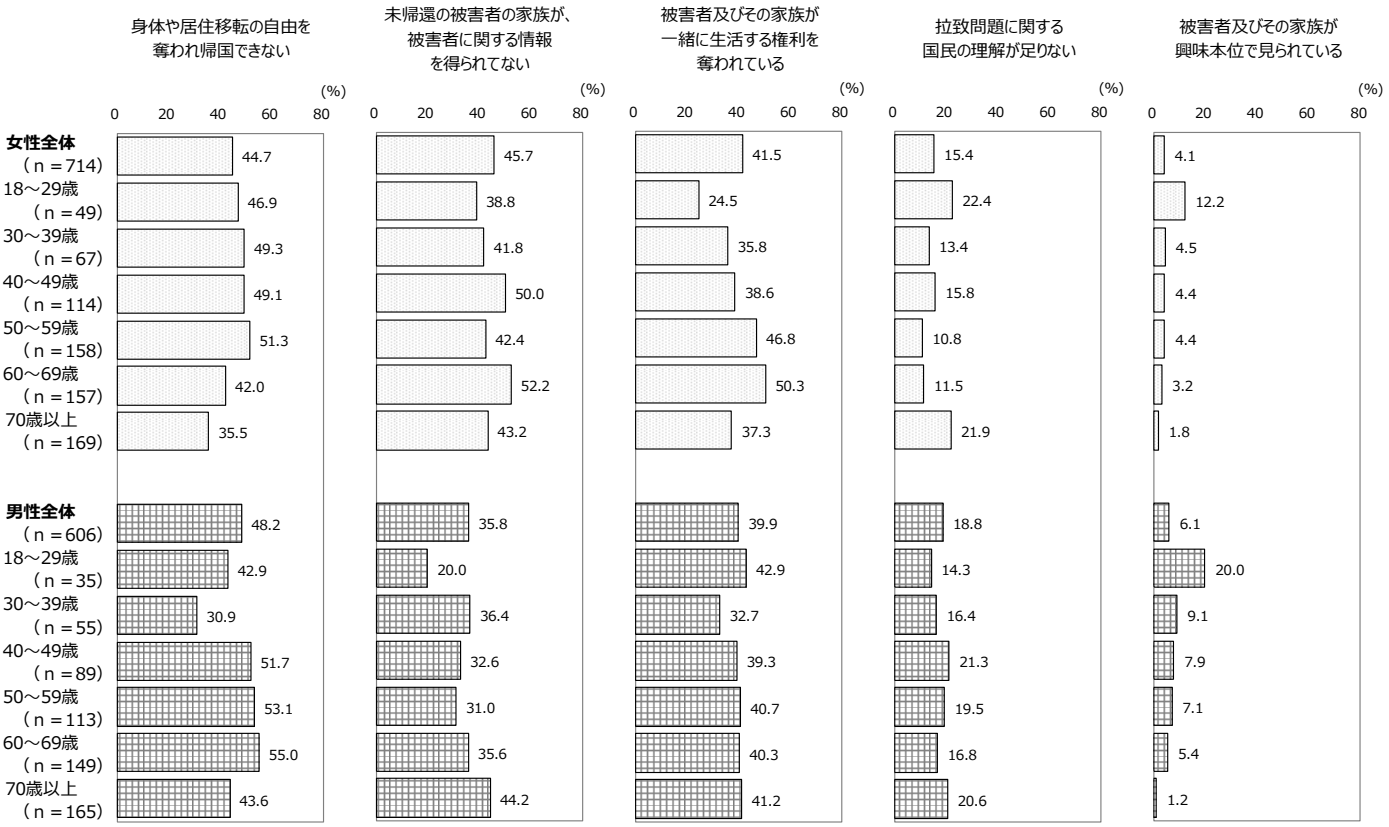
北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権問題について、「身体や居住移転の自由を奪われ帰国できない」が 46.2%で最も高く、次いで、「未帰還の被害者の家族が、被害者に関する情報を得られてない」が 41.1%、「被害者及びその家族が一緒に生活する権利を奪われている」が 40.6%で続く。

なお、「わからない」は 13.5%となっている(図１４－１)。

性別でみると、「未帰還の被害者の家族が、被害者に関する情報を得られてない」が男性の 35.8%に対し、女性は 45.7%と 9.9 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「身体や居住移転の自由を奪われ帰国できない」は女性の 50~59 歳、男性の 40~49 歳から 60~69 歳において 50%を超えて高くなっている。「被害者及びその家族が興味本位で見られている」については、男女ともに 18~29 歳で最も高くなっており、女性が 12.2%、男性が 20.0%となっている。（図１４－２）。

図１４－２　北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権問題（性別、性・年代別）

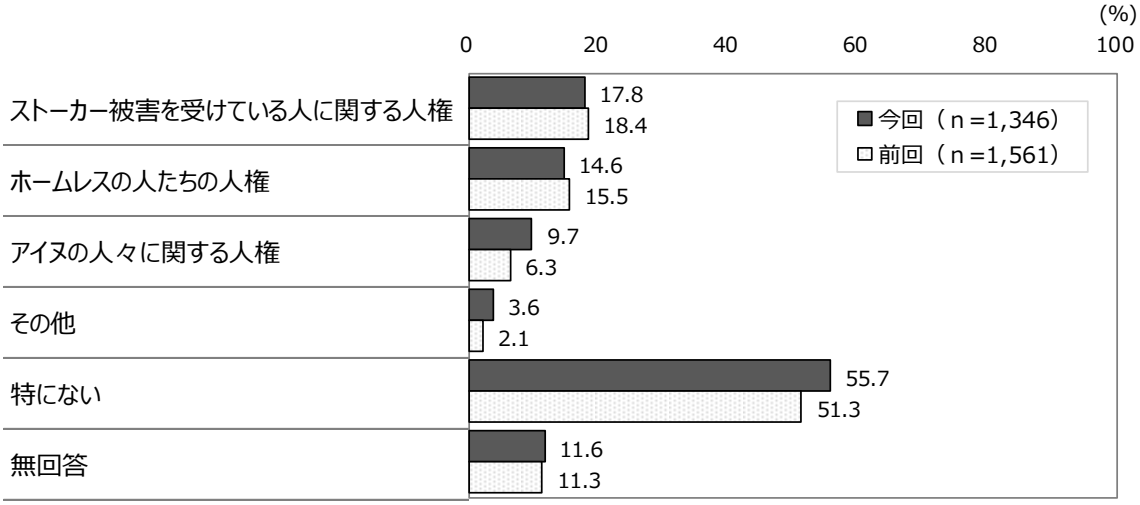


第１５章　その他の人権問題について

１５－１　その他に関心のある人権問題

問３７　これまでの人権問題のほかに、あなたが関心をもつ人権問題はどのようなものがありますか。(○はあてはまるものすべて)

図１５－１　その他に関心のある人権問題



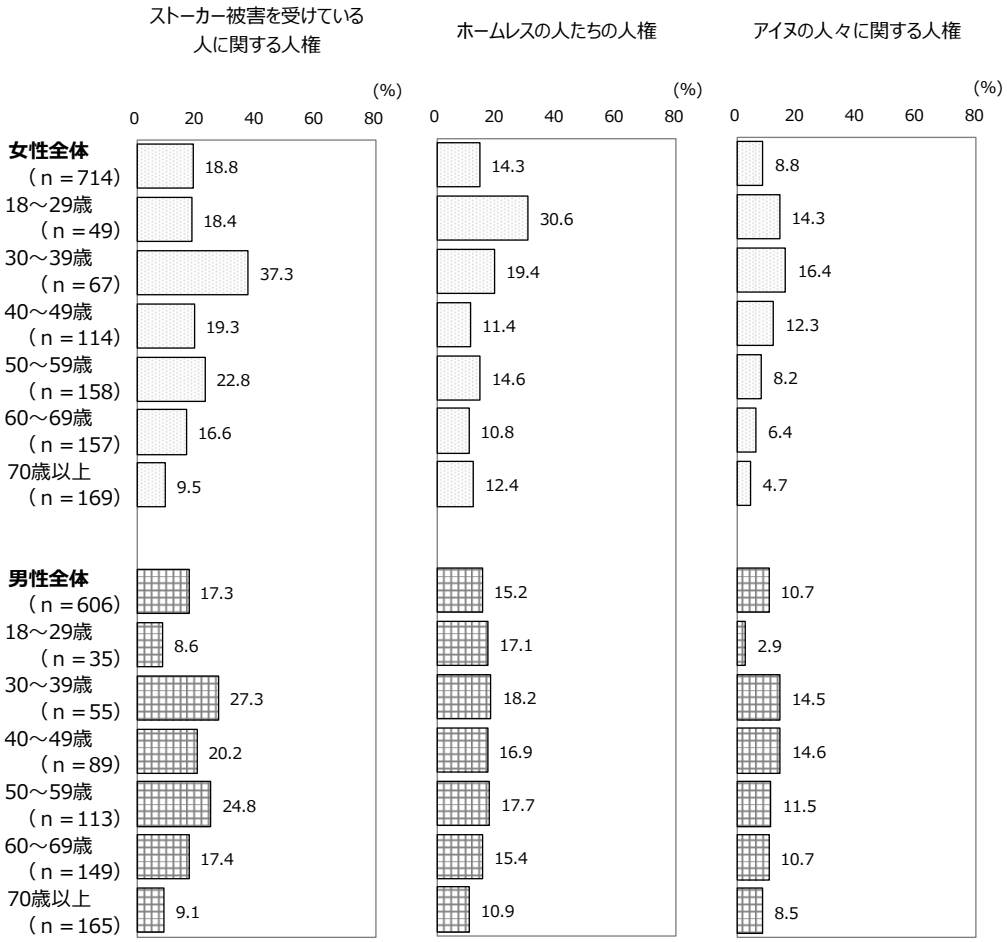
これまでの人権問題のほかに関心のある人権問題について、「ストーカー被害を受けている人に関する人権」が 17.8%で最も高く、次いで、「ホームレスの人たちの人権」が 14.6%、「アイヌの人々に関する人権」が 9.7%で続く。

また、「特にない」が 55.7%で半数を占めている(図１５－１)。

性別でみると男女で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、女性では「ストーカー被害を受けている人に関する人権」が 30~39 歳で 37.3%と男女各年代を通じて最も高く、「ホームレスの人たちの人権」では女性の 18~29 歳が 30.6%と男女各年代を通じて最も高くなっている。「アイヌの人々に関する人権」は男女ともに年代が低くなるにつれて関心が高くなる傾向がみられるが、男性の 18~29 歳においては 2.9%と例外的に低い割合となっている。（図１５－２)。

図１５－２　その他に関心のある人権問題（性別、性･年代別）



被差別経験の有無別でみると、上位 2 項目で被差別経験のある人の割合は、被差別経験のない人の割合の 2 倍を超えている(図１５－３)。

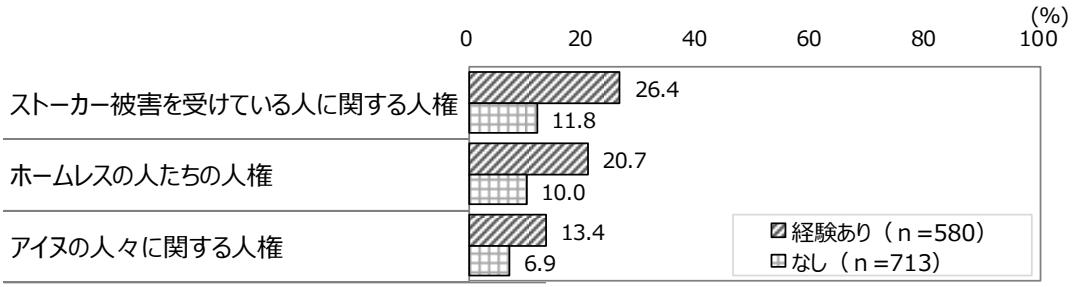



図１５－３　その他に関心のある人権問題（被差別経験の有無別）